

「こども・若者意見反映推進事業」に係る
事業運営及び分析・調査等事業

報告書

令和6年3月

PwCコンサルティング合同会社

目次

第Ⅰ章 背景・目的	1
1. 事業背景.....	1
2. 事業目的.....	1
第Ⅱ章 事業の概要	3
1. 業務の全体像.....	3
2. 本事業で用いる用語.....	3
3. 本事業の体制.....	4
2. 業務① ぷらすメンバー登録管理.....	5
1) 登録・管理方法.....	5
2) コミュニケーション方法・問い合わせ対応.....	7
3. 業務② ファシリテーター登録管理.....	8
1) 登録・管理方法.....	8
2) コミュニケーション方法・問い合わせ対応.....	8
4. 業務③ いけんひろば運営.....	9
1) 業務の全体像.....	9
2) 運営の方法と工夫（準備～実施まで）.....	14
3) とりまとめの方法と工夫（いけんのまとめ～FB資料まで）.....	26
5. 業務④ ぽんぱーによる活動の支援.....	30
1) 業務の全体像.....	30
2) 支援の方法と工夫.....	36
6. 業務⑤ 地方自治体におけるこども・若者意見反映の取組サポート.....	37
1) 業務の全体像.....	37
2) こども・若者意見反映サポート事業.....	37
3) 「地方自治体におけるこどもの意見表明・反映の推進」研修の開催.....	39
7. 業務⑥ 事業のとりまとめ.....	40
1) 成果物.....	40
第Ⅲ章 事業の実施結果	41
1. 業務① ぷらすメンバー登録管理.....	41
2. 業務② ファシリテーター登録管理.....	41
3. 業務③ いけんひろば運営.....	41
1) いけんひろば参加者アンケート結果.....	41

2) ファシリテーターによるいけんひろば運営へのフィードバック結果.....	45
3) テーマ担当課アンケート結果.....	46
4) ぷらすメンバー全員アンケート「いけんぷらすをより良くするために」結果.....	48
4. 業務④ ぼんぱーによる活動の支援.....	51
1) ぼんぱーの活動実績.....	51
2) ぼんぱーによる振り返り.....	55
3) サポーターによる振り返り.....	57
5. 業務⑤ 地方自治体におけるこども・若者意見反映の取組サポート.....	59
1) こども・若者意見反映サポート事業.....	59
2) 「地方自治体におけるこどもの意見表明・反映の推進」研修.....	60
第IV章 考察.....	61
1. 考察手法.....	61
2. 各業務の振り返り.....	61
1) 業務① ぷらすメンバー登録管理.....	61
2) 業務② ファシリテーター登録管理.....	63
3) 業務③ いけんひろば運営.....	65
4) 業務④ ぼんぱーによる活動の支援.....	74
5) 業務⑤ 地方自治体におけるこども・若者意見反映の取組サポート.....	76
第V章 総括.....	79
1. 今年度事業の総括.....	79
1) 前提.....	79
2) 意義.....	80
2. 今後の展望.....	81
1) 課題.....	81
付録. ぷらすメンバー向けアンケート集計結果.....	83

第 I 章 背景・目的

1. 事業背景

こども家庭庁は、常にこどもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取組・政策を我が国社会の真ん中に据えて、こどもの視点で、こどもを取り巻くあらゆる環境を視野に入れ、こどもの権利を保障し、こどもを誰一人取り残さず、健やかな成長を社会全体で後押しするため、令和5年4月に設立された。こども家庭庁のスローガンは「こどもまんなか」であり、こども・若者一人ひとりの意見を聴いてその声をまんなか置きアクションしていくことが最大の理念として置かれている。

そして、令和4年6月に成立し、令和5年4月に施行されたこども基本法では、年齢や発達程度に応じたこどもの意見表明機会の確保・こどもの意見の尊重を基本理念として掲げるとともに、こども施策の策定等に当たってこどもの意見の反映に係る措置を講ずることを国や地方自治体に対し義務付ける規定を設けている。

2. 事業目的

事業背景を踏まえ、本事業は、以下4点を目的とした。

1. 各府省庁やこども家庭庁が施策を進めるに当たって、多様な手法を組み合わせながら、こども・若者から意見を聴くこと（こどもの意見表明の機会の確保）
2. こども・若者から意見を聴くだけでなく、その意見を政策に反映すること（こども施策へのこども・若者の意見の反映）
3. 本事業の企画や運営のプロセスにこども・若者が主体的に参画することを通じて、こども・若者が自らに関わる制度・政策について知り、考え、主体的に意見を表明する機会を提供すること（多様な社会的活動に参画する機会の確保）
4. 令和4年度に実施された「こども政策決定過程におけるこどもの意見反映プロセスの在り方に関する調査研究」の結果を踏まえ、「こども・若者の意見を聴き、政策に反映する」あり方の一つの型を構築するとともに、その方法論を整理すること（事業の型の構築と方法論整理）

上記の目的を設定した意図は以下のとおりである。

まず、本事業がこども基本法を主な根拠として実施に至ったことを踏まえると、本事業で達成すべき目的は、こどもの意見表明の機会の確保、多様な社会的活動に参画する機会の確保、こども施策へのこども・若者の意見の反映、の3点である。こども基本法におけるこれら3点に関する関連記載は以下のとおりである。

- 第3条第3号（こども自身に直接関係する全ての事項に関して、年齢及び発達程度に応じ、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会・多様な社会的活動に参画する機会の確保）

- 第3条第4号（こども自身に直接関係する事項以外の事項であっても、こどもの意見がその年齢及び発達の程度に応じ尊重され、その最善の利益が優先して考慮される）
- 第11条（こども施策に対するこども等の意見の反映）

加えて、本事業が国のこども施策に対するこども・若者への意見聴取というこれまでに例のない試みであることから、事業運営においては枠組みの当初案にこだわらず、運営の在り方をマクロな視点とミクロな視点の両方から常に振り返り、改善するという、PDCAサイクルを通じて、事業の一つの型を構築するとともに、その方法論を整理することが目的の一つとして必要と考えられる。

なお、本報告書は、社会や地方自治体に事業の実施概要や課題を周知するための資料として位置付ける。

第Ⅱ章 事業の概要

1. 業務の全体像

本事業における業務は、図 1のとおり、業務①ぷらすメンバー登録管理、業務②ファシリテーター登録管理、業務③いけんひろば運営、業務④みんなのパートナーぼんぱーによる活動の支援、業務⑤地方自治体におけるこども・若者意見反映の取組サポート、業務⑥事業のとりまとめに整理される。業務①～④については、「こども若者★いけんぷらす」の運営に関する業務範囲として整理される。

図 1 本事業における業務の整理

業務	
こども若者★いけんぷらす	①ぷらすメンバー登録管理
	②ファシリテーター登録管理
	③いけんひろば運営
	④ぼんぱーによる活動の支援
サポート 自治体 地方	⑤地方自治体におけるこども・若者意見反映の取組サポート
とり まとめ	⑥事業のとりまとめ

2. 本事業で用いる用語

本事業で用いる主な用語の意味は以下のとおり。

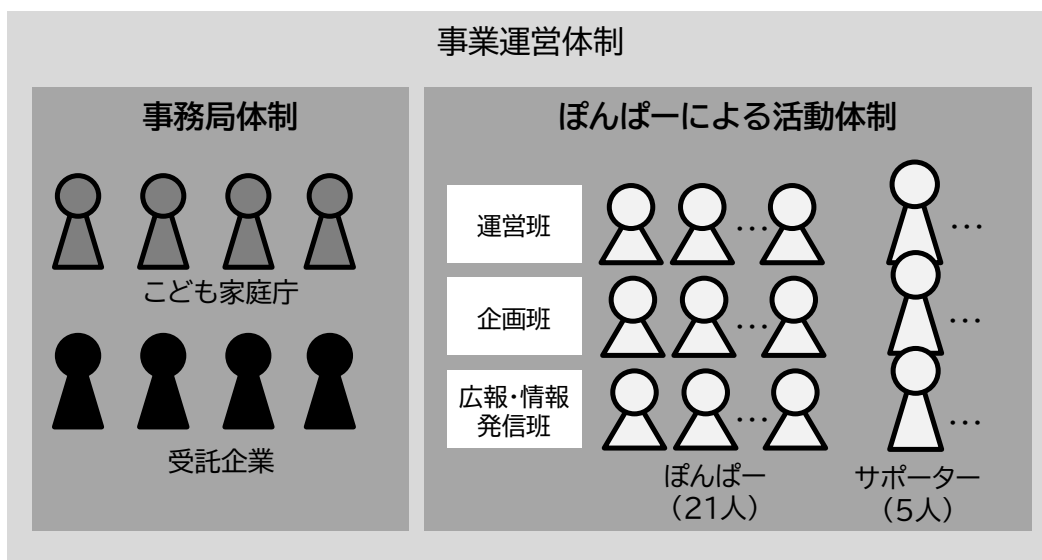
表 1 主な用語

用語	意味
ぷらすメンバー	「こども若者★いけんぷらす」に参加して意見を伝えるこども・若者。
いけんひろば	ぷらすメンバーが、各府省庁から提案のあったテーマやこども・若者が意見を伝えたいテーマについて意見を伝えることができる場。
みんなのパートナー ぼんぱー	ぷらすメンバーから広く意見を聴くための工夫や、こども・若者にとってわかりやすい情報発信などについて、運営事務局であるこども家庭庁の職員などと一緒に取り組むこども・若者。
サポーター	ぼんぱーの班活動における話し合いの進行や、ぼんぱーが話し合いしやすい雰囲気作り、ぼんぱーの気軽な相談相手となる役割を担う大人。

3. 本事業の体制

本事業における体制は図 2のとおり。こども家庭庁と受託者が事務局として事業全体に携わり、みんなのパートナーぽんぱーによる活動は、ぽんぱーとサポーターにより推進した。

図 2 本事業の運営体制



2. 業務① ぷらすメンバー登録管理

1) 登録・管理方法

(1) 登録管理の前提

個人情報を取り扱うことから、関連資料を扱うオンライン環境や管理に用いるツールのセキュリティに配慮し、業務を進めた。

また、いけんひろばで表明される意見が、本事業が対象としている年齢のこども・若者のものであることを担保するため、登録者であるぷらすメンバーに対して年齢確認を行った。

(2) 新規登録・退会・登録内容の変更の方法

以下表 2～表 4のとおりの流れで新規登録・退会・登録内容の変更の対応を行った。

表 2 新規登録の方法

流れ	
①新規登録	新規登録希望者が、こども家庭庁のホームページ上に掲載されているオンラインでのぷらすメンバーの「新規登録フォーム」に入力・送信
②年齢確認	新規登録希望者は、ぷらすメンバーの登録の際または登録後に、登録者の年齢が確認できる「年齢のわかる書類」のデータをファイル授受ツール上に提出 ※「年齢のわかる書類」は、名前と生年月日が記載されている公的な書類とした ※「年齢のわかる書類」は、事務局がその内容と登録者情報を突合確認後、速やかに削除した
③年齢確認完了	事務局での「年齢確認」を完了次第、本登録が完了

表 3 退会の方法

流れ	
①退会申請	退会希望者が、こども家庭庁のホームページ上に掲載されているオンラインでのぷらすメンバーの「退会フォーム」に入力・送信
②申請確認完了	事務局が退会手続きを完了すれば退会が完了

表 4 登録内容の変更の方法

流れ	
①変更申請	登録内容の変更希望者が、こども家庭庁のホームページ上に掲載されているオンラインでのぷらすメンバーの「登録内容の変更フォーム」に変更内容を入力・送信
②申請確認完了	事務局が登録内容の変更手続きを完了すれば変更が完了

【登録者情報の管理の方法】

登録者情報の管理においては、以下の点に留意した。

- 1人に1つ登録者IDを付与し、同姓同名の登録者について区別
- いけんひろばへの参加履歴について、いけんひろばごとにフラグを立てることで管理

また、新規登録、退会、登録内容の変更の申請については、日次でその内容を確認し、登録者管理マスタ上で更新した。

2) コミュニケーション方法・問い合わせ対応

【ぷらすメンバーと事務局のコミュニケーション方法】

運営事務局の「登録者用」メールアドレスを通じて、ぷらすメンバーからの問い合わせの受付や、事務局からの連絡を行った。また、いけんひろばへの参加確認を含む急ぎの確認事項がある場合など、必要に応じて事務局から架電も行った。

【問い合わせ対応】

ぷらすメンバーからの問い合わせ記録表、架電記録表を作成し、事務局メンバー間で共有し、対応を進めた。

受け付けた問い合わせに対しては、原則1営業日以内に回答するように努めた。問い合わせの内容によっては、こども家庭庁との協議等対応方針の十分な検討のため、最終的な回答まで数日を要することもあった。

3. 業務② ファシリテーター登録管理

1) 登録・管理方法

【登録管理の方法】

- 一定信頼できる人材を確保するため、こども・若者の意見聴取やこども・若者参画の分野で活動する団体等において、こども・若者のファシリテーションについての研修を受けている
- こども・若者の活動や話し合い等において、ファシリテーションの実践経験がある
- こどもの権利について、理解している／一定の研修を受けている

などの知見を有する者に、Microsoft Formsによる新規登録フォームに入力をして登録をしてもらった。

事務局にて新規登録を確認後、新規登録者へ①事前研修の参加もしくは動画の視聴、②こども家庭庁職員との面談、③誓約書へのサインを依頼し、本事業の趣旨・目的の理解を求めるとともに、留意事項や注意点を共有したうえで登録いただいた。いけんひろばへの参加は、①②③のいずれも満たしていることを条件とした。

【管理の方法】

登録ファシリテーターの情報を一覧化し、いけんひろばへの参加履歴についてはいけんひろばごとにフラグを立てることで管理した。

また、ファシリテーター交流ルームをLINE オープンチャットで設けた。交流ルームでは、いけんひろばの募集についてメールを送付したことや、その他ご協力いただきたいこと等について周知する場として活用した。状況によっては、サブトークルームを設けて個別のいけんひろばにご協力いただくファシリテーターに参加いただき、コミュニケーションを図った。

【旅費・謝金の支払い】

ファシリテーターはいけんひろばの実施に必須の人材であることから、その確保のため、いけんひろばへの参加にかかる旅費（交通費及び宿泊費）及び謝金を後日事務局より支払った。

2) コミュニケーション方法・問い合わせ対応

運営事務局の「事務連絡用」メールアドレスを通じて、ファシリテーターからの問い合わせ対応や事務局からのご案内の連絡を行った。急ぎの確認事項がある場合など、必要に応じて事務局から架電も行った。

4. 業務③ いけんひろば運営

1) 業務の全体像

(1) いけんひろば一覧

令和5年度に開催したいけんひろばは表5のとおり。

参加者が対話する形式（対面・オンライン・チャット・出向く型）の参加人数は延べ456名、アンケート形式の回答数は延べ2,194件であった。

表5 令和5年度開催 いけんひろば一覧

No.	開催日	テーマ名	担当府省庁	開催手法 ※「対面」は特記ない 場合、東京開催	対象者	参加人数 ※アンケートの 場合は回答数
1	令和5年7月24日 (月)～8月6日 (日)	児童福祉法について	こども家庭庁	アンケート	小学4年生～18 歳	96
2	令和5年7月31日 (月)	あなたが思う「居場所」 は？	こども家庭庁	対面	全年代	23
3	令和5年8月1日 (火)～8月15日 (火)	小学校に入るまでを振り返って楽しかったこと、 もっと大人にして欲しかったことについて	こども家庭庁	アンケート	全年代	202
4	令和5年8月2日 (水)	若者と食の今後について 考える！	農林水産省	対面	中学生～高校生 世代	12
5	令和5年8月3日 (木)	若者と食の今後について 考える！	農林水産省	オンライン	中学生～高校生 世代	22
6	令和5年8月24日 (木)	農林水産省に行ってみよう！	農林水産省	対面	中学生～高校生 世代	17
7	令和5年8月28日 (月)～9月15日 (金)	いじめや不登校など学校 に関する悩み事	こども家庭庁	アンケート	小学生～高校生 世代	131
8	令和5年9月15日 (金)～9月29日 (金)	こども・若者への食育の 推進について	農林水産省	アンケート	小学5年生～ 高校3年生世代	81
9	令和5年9月15日 (金)～10月13日 (金)	海遊びのこと	国土交通省	アンケート	全年代	210
10	令和5年9月22日 (金)	こども家庭庁の予算につ いて	こども家庭庁	オンライン	全年代	24
11	令和5年9月23日 (土)	生きづらさ、自殺したい という気持ちになった人 に必要な支援について	こども家庭庁	対面	高校生世代以上	10
12	令和5年10月3日 (火)～10月19日 (木)	「こども大綱」「こども まんなか社会」をいっし よに考えよう	こども家庭庁	アンケート	全年代	133
13	令和5年10月9日 (月)	こども向けホームページ について	こども家庭庁	対面	小学生～中学生	16

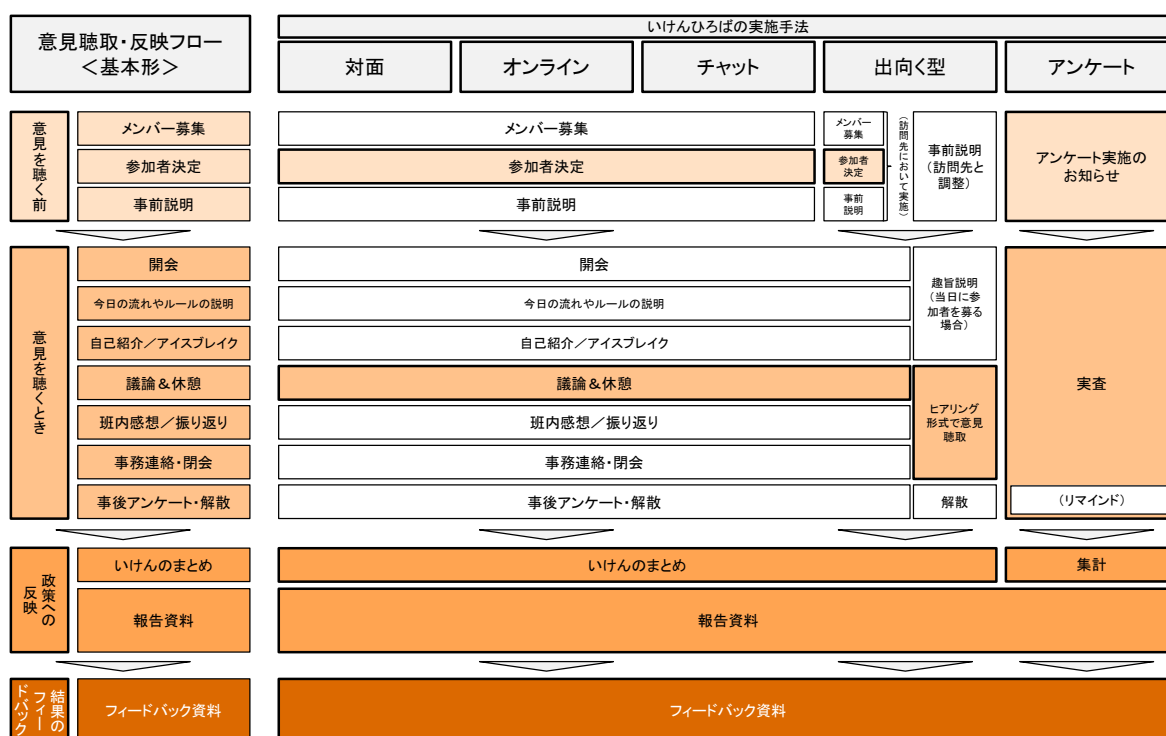
No.	開催日	テーマ名	担当府省庁	開催手法 ※「対面」は特記ない 場合、東京開催	対象者	参加人数 ※アンケートの 場合は回答数
14	令和5年10月13日 (月)～11月6日 (月)	いま、そして、これからの環境問題や社会について思うこと	こども家庭庁	アンケート	小学生～大学生 世代	104
15	令和5年10月14日 (土)	こども・若者への食育の推進について	農林水産省	対面	小学5年生～高 校3年生世代	22
16	令和5年10月17日 (火)	「こども大綱」「こども まんなか社会」をいっし よに考えよう(児童養護 施設)	こども家庭庁	出向く	児童養護施設の 入所者	9
17	令和5年10月20日 (金)～10月21日 (土) 令和5年10月22日 (日)～10月23日 (月)	「こども大綱」「こども まんなか社会」をいっし よに考えよう	こども家庭庁	チャット	中学生以上	34
18	令和5年10月21日 (土)	「こども大綱」「こども まんなか社会」をいっし よに考えよう	こども家庭庁	オンライン	全年代	25
19	令和5年10月21日 (土)	「こども大綱」「こども まんなか社会」をいっし よに考えよう	こども家庭庁	対面	全年代	26
20	令和5年10月24日 (火)	「こども大綱」「こども まんなか社会」をいっし よに考えよう(ひとり親 家庭のこども)	こども家庭庁	出向く (オンライン)	ひとり親家庭の こども・若者	25
21	令和5年10月25日 (水)	「こども大綱」「こども まんなか社会」をいっし よに考えよう(障害児支 援施設)	こども家庭庁	出向く	障害児支援施設 の利用者	5
22	令和5年10月27日 (金)	「こども大綱」「こども まんなか社会」をいっし よに考えよう(児童館)	こども家庭庁	出向く	児童館の利用者	16
23	令和5年10月28日 (土)	中学校の休日の運動部活 動の地域クラブ活動への 移行を考える!	スポーツ庁	対面	中学生以上	9
24	令和5年11月10日 (金)	いま、そして、これからの環境問題や社会について思うこと	環境省	オンライン	小学生世代～大 学生世代	11
25	令和5年11月24日 (金)	こども基本法クイズ動画 をよりよくしよう	こども家庭庁	オンライン	小学生～中学生	9
26	令和5年11月25日 (土)	こども基本法クイズ動画 をよりよくしよう	こども家庭庁	対面	小学生～中学生	8
27	令和5年11月27日 (月)～12月10日 (日)	インターネット上の犯罪 にあわないように気を付 けていること	警察庁	アンケート	小学3年生以上	213

No.	開催日	テーマ名	担当府省庁	開催手法 ※「対面」は特記ない 場合、東京開催	対象者	参加人数 ※アンケートの 場合は回答数
28	令和5年11月27日 (月)～12月27日 (水)	人権相談ってどんなもの??	法務省	アンケート	全年代	144
29	令和5年11月30日 (木)～12月14日 (木)	居心地のいい場所とは? ～子育てを社会全体で支 える雰囲気づくりにつ いて思うこと～	経済産業省	アンケート	全年代	224
30	令和5年12月4日 (月)	地方(特に雇用等)につ いて思うこと	経済産業省	オンライン	就職を控えた学 生	9
31	令和5年12月8日 (金)	闇金融(怖～い金貸し) を知ろう!	金融庁	オンライン	高校2年生世代 以上	6
32	令和5年12月9日 (土)	闇金融(怖～い金貸し) を知ろう!	金融庁	対面	高校2年生世代 以上	12
33	令和5年12月15日 (金)～令和6年 1月8日(月)	痴漢撲滅に向けた広報に ついて	警察庁	アンケート	中学生以上	246
34	令和6年1月22日 (月)～2月9日 (金)	女子の理系進学	内閣府	アンケート	理系の学部・学 科に進学した女 子大学生女子高 専生、また、理 系の学部・学科 を卒業した女性	37
35	令和6年1月27日 (土)	いけんぶらすをもっと多 くの人に知ってもらいた い!!	こども家庭庁	対面(大阪開催)	全年代	24
36	令和6年2月3日 (土)	お金について学ぶ教材を 一緒に作ろう!	金融庁	対面	小学生	24
37	令和6年2月9日 (金)～2月25日 (日)	「こども白書」について	こども家庭庁	アンケート	中学生以上	158
38	令和6年2月19日 (月)～3月4日 (月)	日常生活における法的な ものの考え方との関わり	法務省	アンケート	全年代	215
39	令和6年2月23日 (金)	安心して子どもを産み育 てられるために、どんな 社会になってほしいです か?	厚生労働省 国土交通省 こども家庭庁 文部科学省	オンライン	全年代	29
40	令和6年2月23日 (金)	安心して子どもを産み育 てられるために、どんな 社会になってほしいです か?	厚生労働省 国土交通省 こども家庭庁 文部科学省	対面	全年代	29

(2) 運営の全体像

いけんひろばの運営フローは、意見を聴く前、意見を聴くとき、政策への反映、結果のフィードバックの4段階に分かれる。基本形のフロー及び実施手法5種類別のフローは、図3のとおり。

図3 いけんひろばの運営フロー（基本形及び手法別）



また、基本形のフローにおける各段階の留意点・工夫をまとめると、図4のとおり。

図4 いけんひろばの運営フローにおける留意点・工夫



2) 運営の方法と工夫（準備～実施まで）

本項では、いけんひろばの開催手法とした対面、オンライン、チャット、アンケート、出向く型の5種類の運営方法と工夫について記載する。

なお、重複する項目については記載を省略する。特に対面・オンラインの事前準備～いけんひろば当日の流れは重複する内容が多いことから、オンラインの運営については対面の内容もあわせて参照されたい。

（1）手法：対面

A. 事前準備

【テーマ設定・当日の質問検討】

いけんひろばのテーマは、こども・若者にとって親しみの薄いトピックを扱う場合や、こども・若者にとってはやや難解な言葉遣いを含む場合がある。このような場合は、いけんひろばの各テーマを担当する府省庁及び部局（以下「テーマ担当課」という。）と協議し、テーマ及び当日の質問構成を対象となる年代にあわせ、できるだけ平易な言葉遣いとする、あるいは用語に注釈をつける等の調整を行った。また、親しみの薄いトピックであっても意見を出せるよう、こども・若者の経験に基づいて回答できる質問の構成を検討した。

【開催日時・場所の検討】

開催時期について、予約を要する移動手段や宿泊施設は時期により予約状況・費用が大きく変動することから、いけんひろばの対象者が参加しやすい日程と経済的な負担を勘案して時期を調整した。例えば、参加対象が学生中心のいけんひろばでは、学校の長期休業期間となることが多い夏季は平日にいけんひろばを開催した。夏季以外は、平日に比べて参加しやすい方が多いと考えられる土休日の開催とした。

実施場所について、会場が確保しやすく年間を通じて安定した会場運営ができること、バリアフリー対応がなされていることといった観点から、こども家庭庁（東京都千代田区）または受託者保有の会議室（東京都千代田区、大阪府大阪市）を対面開催時の実施場所とした。いけんひろば（対面）全13回のうち、12回は東京都とし、1回は首都圏以外のぷらすメンバーにも多く参加してもらえよう、大阪府にて開催した。

【参加者の募集】

対面開催はいけんひろばの開催手法の中で唯一、参加者が指定した場所に移動する必要があるため、参加者の移動時間を含めた拘束時間が長くなり、スケジュールを事前に確保してもらう必要性が高い。さらに、参加者によっては移動手段や宿泊施設の確保が必要となるという点も考慮が必要である。これらの点を踏まえ、対面のいけんひろば開催時は参加者募集をなるべく早く開始できるよう、テーマ担当課と調整を行い、概ね、いけんひろば開催の約1か月前を目途に参加者募集を開始した。

参加者募集は、開催するいけんひろばの対象年代のぷらすメンバーに募集要項及び広

募用Google FormsのURLをメール送付することにより行った。募集要項には、募集期間や募集対象、応募方法に関する情報のほか、いけんひろばのテーマ、意見の活用方法、日時、場所、事前説明会の情報を掲載した。

【参加者決定】

多様なこども・若者の意見をもらうことができるよう、応募者多数の場合は原則として抽選¹によって参加者を決定し、メールにて参加可否（抽選結果）の連絡を行った。

【事前説明】

事前説明においては、参加者及びファシリテーターに対して、意見表明に向けた意見形成及びその支援に必要な前提知識が共有できるよう、テーマ担当課よりいけんひろばのテーマについての説明を行い、質疑応答の時間も設けた。「テーマ設定・当日の質問検討」で記載したように平易な説明を心掛けた。

また、意見の取り扱いや当日の様子が伝わるよう、各いけんひろばに共通して図 5に示す資料を用いて以下事項も説明した。

- 参加者が安心して意見を表明できるよう設定した「いけんひろばでのルール」
- 参加者の意見の取り扱いについて示した「みなさんの意見について」
- いけんひろば当日の「スケジュール」
- いけんひろば当日の「メンバー（参加者）」一覧
- いけんひろば当日の運営担当者やテーマ担当者の一覧

¹ 参加者選出にあたっては、いけんひろばの参加者募集案内にて記載していたとおり、応募者の年齢や地域バランス、参加回数も勘案した。

図 5 事前説明時の各種資料イメージ

1-1. いけんひろばでのルール

こどもみんなの
こども家庭庁

☆ **みんなが安心して参加するために ☆**

- ◆ 年齢に関係なく、だれもが等しく話し合いに参加します。一人ひとりの考えを大切にします。否定したり、さげすんだりしないようにしましょう。
- ◆ 話したくないこと、個人的なことは、話さなくて大丈夫です。
- ◆ 一度言ったことを取り消して、他のことを言っても大丈夫です。
- ◆ 今日聞いたこと、だれが何を話したかは、他の人に言いません。
- ◆ みんなが話せるように、協力しましょう。

人と話すこと・意見を出しあうことを楽しみましょう！

困ったことがあったら、
スタッフに教えてください

1-2. いけんひろばでのルール

こどもみんなの
こども家庭庁

☆ **SNSなどの投稿について ☆**

- ◆ いけんひろばに参加していることを投稿したり、自分だけが写っている写真の投稿はOKです！
- ◆ 他の人が写っている写真は、写っている人から許可をもらった写真だけを使ってください。
- ◆ 何について話をしたか、だれが何を話したかは、他の人(友達・先生・家族など)に言いません。
※いけんひろばに参加してくれた人だけが知っていることもあるので、気を付けてください。

何か気になることがあったら、
スタッフに教えてください

2. みなさんの意見について

こどもみんなの
こども家庭庁

- ・みなさんの意見は、国の大人の会議の資料となり、その資料をもとに話し合いが行われます。
- ・その時には、だれが言った意見なのか分からないようにします。
- ・ホームページなどに掲載する内容は、事前にみなさんに確認していただきます。

- ◆ いけんひろばは当日から1～2週間以内をめどに、出たいいけんのまとめをメールで送ります。いけんのまとめが届いたら、確認してください。
- ◆ 確認をして、取り消しや修正をしたいことがあったら、メールの返信で教えてください。
- ◆ また、いけんひろばの中では言えなかったけれど、どうしても伝えたいこと(いけん)があれば、事後アンケート内でお伝えください。
- ◆ もし、いけんひろばの時に、いやだなと感じたことなどがあれば、kodomo_iken@cfa.go.jpのメールアドレスにメールを送ってください。

3. スケジュール

こどもみんなの
こども家庭庁

対面	時間	内容
	13:50	集合 13:50までに着が開始ルディングロビーに集合していただき、(むかしは、p.16を見てください。)
	14:00	開会 はじめに関係者があいさつを行います。
		今日の流れやルールの説明 全体で今日の流れやルールについて確認します。
	14:10	各部署への移動 ファンレターの方や到着後の方と一緒に各部署に移動してもらいます。(DLは、p.17からp.19を見てください。)
	14:15	自己紹介アイスブレイク 席の中でお互いに自己紹介した後、ちよとしたゲームやアイスブレイクをそれぞれの班でやります。
		議論&休憩 ファンレター(司会の人)がいろんな質問をするので、言える範囲で意見を言ってください。 ファンレターが、席ごとに休憩の時間を連絡します。
	15:40	箱内感想・箱内寄り 席ごとに今の気持ちや今日の感想を話しましょう。
	15:45	22階への移動 開会をした22階のたみみの部屋に戻ってきます。
	15:50	全体ラップ 振り返り・閉会 各部署での意見が出たか全体でシェアします。 今後の予定などの連絡事項をお知らせします。最後にアンケートをお配りします。
	16:00	解散 アンケートに回答された方から順に解散となります。

4. メンバー (参加者)

こどもみんなの
こども家庭庁

テーマ No.	コックチーム	班	班長 ファンレター	班員代表者
1	000			
2	000			
3	000	1	000	000
4	000			
5	000			
6	000			
7	000			
8	000	2	000	000
9	000			
10	000			

テーマ No.	コックチーム	班	班長 ファンレター	班員代表者
11	000			
12	000			
13	000			
14	000	3	000	000
15	000			
16	000			

4. メンバー (運営)

こどもみんなの
こども家庭庁

No.	コックチーム	補足
1	000	いけんひろば全体についての国の担当者
2	000	いけんひろば全体についての国の担当者
3	000	いけんひろば全体についての国の担当者
4	000	いけんひろば全体についての国の担当者
5	000	いけんひろば全体についての国の担当者
6	000	いけんひろば全体のサポートをする会社の人
7	000	いけんひろば全体のサポートをする会社の人
8	000	いけんひろば全体のサポートをする会社の人
9	000	いけんひろば全体のサポートをする会社の人
10	000	いけんひろば全体のサポートをする会社の人
11	000	いけんひろば全体のサポートをする会社の人
12	000	いけんひろば全体のサポートをする会社の人
13	000	いけんひろば全体のサポートをする会社の人

4. メンバー (テーマ担当者)

こどもみんなの
こども家庭庁

No.	コックチーム	補足
1	000	テーマ(1班、4期)についての国の担当者
2	000	テーマ(1期)についての国の担当者※オンラインのみ
3	000	テーマ(1期)についての国の担当者※対面のみ
4	000	テーマ(1班、4期、6期)についての国の担当者
5	000	テーマ(2期)についての国の担当者
6	000	テーマ(3期)についての国の担当者
7	000	テーマ(3期)についての国の担当者
8	000	テーマ(5期)についての国の担当者
9	000	テーマ(5期)についての国の担当者
10	000	テーマ(5期)についての国の担当者
11	000	テーマ(5期)についての国の担当者
12	000	テーマ(6期)についての国の担当者
13	000	大テーマについての国の担当者
14	000	大テーマについての国の担当者

※当日、国の担当者やサポートする会社の人が増えることがあります。

そのほか、対面のいけんひろば特有の事項として、集合場所の説明、交通費・宿泊費の精算案内、いけんひろば当日の写真撮影の注意連絡を実施した。

集合場所の説明について、遠方からの参加者や小中学生の参加者がいることから、指定の集合場所がわかりやすいよう、最寄駅からの経路図・写真とともに説明を行った。

加えて、いけんひろば当日の注意として、会場にて事務局がいけんひろばの様子を写真や動画で撮影する可能性があることを説明し、写真等に写ることを希望しない場合には事前に事務局へ連絡いただきたいことを周知した。

B. いけんひろば当日

【設営】

前提として、参加者は、初対面同士かつ普段の生活と異なる物理的・精神的環境でいけんひろばに参加することとなることを踏まえて、参加者の緊張を和らげ、意見を話しやすい雰囲気となるよう設営に配慮した。いけんひろば当日の様子は図 6のとおり。

図 6 いけんひろば当日の様子・設営イメージ



設営では、会場内の参加者同士の声の干渉にも注意した。会場内では複数のグループの議論が同時進行するため、参加者の声量により声が聞こえづらいことや、他グループ

の議論が気になるといった状況が生まれたことがあった。この点を踏まえ、事業の途中からグループ間の距離を十分に確保する、会場の都合で難しい場合にはグループ間に自然なパーテーションとしてホワイトボードを設置する等工夫した。

そのほか、なるべくブラインドを上げて明るく開放感のある会場とする、ウェルカムボード・アニメキャラクターのぬいぐるみを設置する、参加者の年代により安全対策として会場内の凹凸への目張りやクッション材による保護を行う等、こども・若者が快く安心して意見を話せる雰囲気づくりを行った。

【運営事前打ち合わせ】

いけんひろばの集合時刻前に、こども家庭庁・ファシリテーター・テーマ担当課・受託者・その他関係者による打ち合わせを実施した。主に、参加者の出欠状況、進行時の役割分担について確認を行った。

【集合】

参加者到着後は、参加者から事前申告のあったニックネームを聞き取り、事前に用意した参加者受付簿と照合し参加者確認を行った上で会場に誘導した。

集合場所まで同伴した保護者に対しては、こども・若者にとって意見を言いやすい場づくりの観点から参加者に保護者のサポートが特別に必要な場合を除き、会場外にて待機いただき、終了予定時刻にお迎えに来ていただくよう伝えた。

【開会】

参加者がいけんひろば及びいけんひろば後の見通しを知り、安心して意見を表明できるよう、以下の事項について事務局から参加者の年代に合わせた平易な言葉を用いて説明した。

- いけんひろばの趣旨
- いけんひろばでのルール
- いけんひろばで話された意見の取り扱い（「みなさんの意見について」）
- 会場にいる参加者以外の出席者とその参加目的
- 当日のスケジュール

事前説明と重複する内容もあるものの、事前説明会に参加できなかった参加者がいる場合や最新の情報に更新されている場合もあるため改めて説明した。

【自己紹介・アイスブレイク】

参加者は日常とは異なる環境で話し合いをする状況に置かれることから、参加者が意見を表明しやすく、安全で安心な環境づくりが極めて重要である。

その点を踏まえ、まずはこども・若者との対話や意見表明支援に関するスキルを持っているファシリテーターが、参加者が安全・安心を感じられるような振る舞いで接し、

参加者が話しやすい話題（呼んでほしいニックネーム、今の気持ち、いけんひろばに参加したきっかけ、など）での対話・アイスブレイクなどを通じて関係構築を行うことから始めた。各参加者にも平等に発話してもらうことを促し、ファシリテーターと参加者、また参加者同士での信頼感も醸成することを心がけて進めた。

加えて、ファシリテーターは参加者が自分の話しやすい姿勢・位置で話して良いことや自分のお気に入りのものを持ちながら話しても良いことなども伝えて、参加者が安心して話せる雰囲気づくりを行った。

【議論・休憩】

議論は自己紹介・アイスブレイクに引き続き、ファシリテーターが進行した。ファシリテーターに加え、各グループに事務局1名以上も記録係として配置し、会場のホワイトボードやPCにて板書を行い、参加者意見の共有を行った。また、議論の際は、テーマ担当課の職員も会場にて待機し、必要に応じてテーマに関する質疑応答が行えるようにした。

なお、こども・若者と主に接するのはこども・若者との対話スキルを持ち、かつテーマに対して第三者的な立場にいるファシリテーターとし、対話が誘導的にならないよう配慮した。

議論に際し、テーマに関する設問は参加者が答えやすいものになるよう事前に検討していたものの、それでもテーマ・参加者の年代によっては抽象的で答えにくい場合もあった。そのため、ファシリテーターはテーマ担当課と事前に調整のうえ、参加者が意見形成しやすいように身の回りの事実や具体的で答えやすい質問から議論を始めることを心がけていた。

【運営事後振り返り】

運営事前打ち合わせと同様、こども家庭庁・ファシリテーター・テーマ担当課・受託者・その他関係者により振り返りを行い、主に以下の事項について確認や意見交換を行った。

- 参加者から挙げた意見の概要
- 今回いけんひろばの良かったところ・改善点（話し合いの環境、テーマや設問のわかりやすさ、ファシリテーターの進め方等）

C. いけんひろば当日及び前後

【いけんひろばの写真撮影・広報への活用】

主に対面のいけんひろばでは、会場の写真を使って広報することによりいけんひろばの様子を伝えられる一方、会場での写真撮影が肖像権の侵害や落ち着いて話せる雰囲気への阻害の可能性があるので、撮影には注意を要する。

加えて、写真を広報用とする場合、様々な媒体に写真が残る。かつ写真掲載により参加者がいけんひろばに参加していることが意図せず一般に開示される可能性がある。この点を踏まえると、写真撮影には一層の注意が必要である。

そのため、通常のいけんひろばでは、広報用でなく事務局の記録用として参加者の顔が写らないように配慮しつつ、事務局が写真撮影を行った。事務局が撮影を行うことは事前説明や当日説明において参加者に伝えており、写真に写ることを希望しない参加者がいる場合は当該参加者が入らないように撮影を行った。

なお、テーマ担当課やこども家庭庁において、事後的に事務局の記録写真を広報活用したいと要望した場合は、参加者の顔がなるべく写っていないものを選んだうえで、参加者に対して、広報活用したい写真及び写真の活用方法をメールにて連絡し、広報活用の同意を得た。

事前にマスメディアの取材が入ることが確定していた特定のいけんひろばでは、顔が写ってもよいことを事前に表明した参加者のみを対象として撮影を行った。

また、マスメディアの取材が入った際は、参加者の意見がメディアに掲載された場合に撤回・修正が困難となることにも留意した。具体的には、取材中に表明されたことも・若者の発言について、発言からメディア掲載されるまでの間に発言者本人から修正・撤回の希望があった場合には、メディアにその要望を反映してもらう連絡体制をとった。

(2) 手法：オンライン

A. 事前準備

【参加者の募集】

オンライン開催のいけんひろばにおいては、参加者の募集は、開催時期、利用ツールを考慮した。

開催時期について、オンラインで開催する場合は多くのぶらすメンバーが日中の授業外・就業時間外に参加すると想定されたこと、休日は予定が入ることが予期されることから、概ね平日の夜の開催とした。いけんひろばによっては、運営人員の都合から、対面開催と同日の開催とするため、土曜日・祝日の開催とする場合もあった。その場合は、オンライン開催を午前、対面開催を午後として開催した。

利用ツールについて、認知度が高く入手・利用が容易であること、ウェビナー機能（事前説明会用）及び参加者ディスカッション機能の両方があること、画面録画が可能であること、参加者が匿名で参加（ニックネームの利用）できること等を考慮し、Cisco Webexを利用することとした。

【事前説明】

いけんひろば当日の接続トラブルを防止するため、URL、パスワードについて強調して周知するとともに、いけんひろば当日の接続や音声・映像トラブルを防止することを目的として「Webexの使い方について」とする操作マニュアルも配布を行った。

B. いけんひろば当日

【集合】

集合時間前後から、参加者から接続や音声・映像トラブルに関する問い合わせがメールやチャットにて寄せられ、随時対応を行った。トラブルはURLの誤りや接続するマイクやスピーカーの選択誤りによるものが多かった。

参加者がうまく発話できない場合や参加者が他の参加者の音声がうまく聞き取れない場合には、意見を適切に表明することができなくなってしまうことから、迅速に対応できるよう参加者数に応じて一定の人員を配置した。

(3) 手法：チャット

【開催日時の設定】

令和5年度、チャットにて開催したいけんひろばは「こども大綱」のみである。なお、「こども大綱」では、同一テーマの中で2回のチャット回を開催した。各回の開催期間は2日間、開催曜日は「金曜＋土曜」あるいは「日曜＋月曜」とし、土日祝日が休みの方（主に学生など）と平日が休みの方（主に社会人の一部の方など）の双方が発言できる機会を確保できるよう配慮した。

また、開催時間のうち特に集中的に意見出しを行う時間としてコアタイムを設けた。コアタイムの時間は平日19～20時、土日は17～18時としたが、参加者から要望があった場合は変更可能とした。

【チャットツールの準備】

いけんひろば（チャット）はLINE オープンチャットを用いて実施した。LINE オープンチャットには、意見交換用のトークルームを各グループに1つずつ開設したほか、ファシリテーターと事務局が連絡を取るための運営用トークルームを作成した。各トークルーム作成の際には、ふらすメンバー及び運営関係者以外の人が入るリスクを下げするため、LINE オープンチャットのトークルーム検索にヒットしないよう設定するとともに、入室時に特定の文言（事務局にて設定したパスワード）の入力を求めることとした。

参加者には事前説明会にてLINE オープンチャットへの参加方法及び入室パスワードを説明し、説明会後にはメール等でのフォローを行った。

当日進行を円滑にするため、各グループのルームに当日のタイムライン及びテーマ説

明資料の画像を掲載したノート²を作成し、参加者がいつでもテーマ内容を確認できるようにした。また、運営用ルームにも、当日のタイムライン、各グループメンバー、テーマ説明などが掲載された運営用資料の画像を掲載したノートを作成し、ファシリテーターがいつでもタイムライン等を確認できるようにした。

図 7 LINE オープンチャットの利用ルール（参加者向け）

1) 投稿時間について

- ◆ 参加者が揃ったら、開会を待たずして、①ファシリテーターから自己紹介の案内と②稼働時間（何時から何時までを投稿可能とするかの相談）をしますので、ノートに自己紹介の投稿をお願いします。
- ◆ ファシリテーターから開会の宣言があったら、投稿を開始してください。（開会の宣言があるまでは、投稿はお控えください）
- ◆ 好きな時間・タイミングで投稿してもらってOKです。ただし、なるべくみなさんが一定の時間帯に集中的に意見交換できるよう、コアタイムを設定します。**コアタイムは、平日は19：00～20：00、土日は17：00～18：00を予定**しています。
 - 各グループの参加者の方の状況などによって、コアタイムの時間帯などを変更することもあります。投稿時間については、ファシリテーターの案内に従ってください。
- ◆ いまどのテーマについて話し合っているかは、アナウンス機能でトークルームの上のほうに表示されます。

2) 投稿する時のルール

- ◆ コアタイムに参加できなかった時や、前の話題について言い足りないことがある時は、**各テーマのノートに意見を記入**してください。（ノートの使い方：<https://news.mynavi.jp/article/20220617-2371106/#id3>）
- ◆ 誰かの意見に対して同意したり、新しい意見を追加したい場合は**リプライ機能**を使ってください。（リプライ機能の使い方：<https://guide.line.me/ja/chats-calls-notifications/chats/chat-reply.html>）

3) 投稿する時の注意点

- ◆ 参加者のみなさんが安全・安心に参加できるよう、参加にあたっては、インターネット上で発信するときと同じように**誹謗中傷（ひぼうちゆうしやう）等のリスクや、ネット上だけの知り合いとのやり取り時の注意点等**には気をつけるようお願いします。
- ◆ LINEオープンチャット上で資料（PDFファイルなど）を送付すると、オープンチャットに一時利用制限がかかってしまう可能性があります。資料を送りたい場合は、資料をスクリーンショットしたものを画像として送ってください。

4) その他

- ◆ ファシリテーターは、みなさんが投稿や意見交換がしやすいようサポートします。
- ◆ 各グループには、こども家庭庁・こども大綱について話し合いをしている委員・事務局など運営側の人が何人か参加しますが、開会前後の事務連絡を除き、発言やリアクションは行いません。
- ◆ チャット内で不適切な発言などがあれば、ファシリテーターやこども家庭庁、事務局にて対応します。

【自己紹介・アイスブレイク】

いけんひろばでは、参加者が意見を表明しやすい、安全・安心な環境づくりが極めて重要となるため、対面・オンライン回同様にアイスブレイクの時間を設けた。

具体的には、参加者全員がトークルームに入ってから開会の時間までにファシリテーター主導でノート機能を用いた自己紹介を行った。

【議論】

開会のアナウンスはファシリテーターより行った。アイスブレイク終了後からはファシリテーターの進行によって各テーマに関する議論を実施した。議論の方法は各グループを担当するファシリテーターに一任していた。そのため、グループによって「メイン

² <https://guide.line.me/ja/chats-calls-notifications/chats/create-notes.html>

のトークルームで意見出しを進める方式」や「テーマごとにノートを作成し、そこにコメントを入れてもらう形で意見出しを進める方式」など意見出しの方法が異なった。

また、参加者によってLINE オープンチャットを確認するタイミングが異なることが想定されるため、いつLINE オープンチャットを見ても、その時話し合っているテーマがすぐに分かるよう、話し合っているテーマをアナウンス機能³でルーム上部に固定表示した。

【閉会】

意見出しの時間が終了した後は振り返りの時間を30分程度設け、いけんひろばに参加した感想を参加者に投稿してもらった。その後、事務局が事後アンケート（Google Forms）のURLを展開し、参加者への回答依頼を行った。

【運営事後振り返り】

こども家庭庁・ファシリテーター・テーマ担当課・受託者・その他関係者による振り返りの会（オンライン）を開催し、主に以下の事項について確認や意見交換を行った。

- 参加者から挙げた意見の概要
- 今回いけんひろばの良かったところ・改善点（話し合いの環境、テーマや設問のわかりやすさ、ファシリテーターの進め方等）

（４）手法：出向く型

【開催準備】

児童養護施設や障害児施設、ひとり親家庭の支援団体に対して、テーマの担当課から、参加者確保や開催場所の提供を依頼した。また、ファシリテーターの人选は対象者の属性を鑑みて実施した。

³ <https://guide.line.me/ja/chats-calls-notifications/chats/chat-announce.html>

表 6 出向く型の対象者・運営方法等

対象者	開催方法	参加者の選び方	ファシリテーターの人選
児童養護施設に入所している こども・若者	対面 (訪問)	<ul style="list-style-type: none"> 施設側にて調整 	<ul style="list-style-type: none"> こども家庭庁が選任 (登録ファシリテーター以外も含む)
障害児施設を利用している こども・若者	対面 (訪問)	<ul style="list-style-type: none"> 施設側にて調整 	<ul style="list-style-type: none"> 施設職員が実施
ひとり親家庭の こども・若者	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ひとり親家庭の支援団体にて調整 	<ul style="list-style-type: none"> 登録ファシリテーターから募集
児童館を利用している こども・若者	対面 (訪問)	<ul style="list-style-type: none"> 当日児童館にいるこども・若者に声掛け 	<ul style="list-style-type: none"> 登録ファシリテーターから募集

【当日運営】

(児童養護施設・障害児施設・ひとり親家庭)

基本的には通常の対面回・オンライン回と同様に「テーマ説明→アイスブレイク→意見交換」の流れとしたが、事前説明会がないことを踏まえてテーマ説明を丁寧に実施したり、参加者がリラックスできるように普段施設で実施している活動を混ぜながら進めたりするなどの工夫を行った。

(児童館)

当日その場にいたこどもに声をかけながら参加者を募った。また、こどもが会場となるスペースに来るタイミングが様々であったため、2～3名くらいの人数が集まった段階で順次グループを作り、グループごとにテーマ説明、アイスブレイク、意見交換を実施した。しかし、児童館には遊び目的で来ているこどもが多く、いけんひろばの参加者が多くは集まらなかったり、長い時間拘束したりすることは難しかったため、街頭インタビューのような形式での意見聴取も実施した。

【開催後】

出向く型以外の手法では事務局から参加者に対して直接メールを送付する形でいけんのまとめの確認依頼を行っているが、出向く型は参加者の個人情報（メールアドレス含む）を事務局が把握しない形で進めたため、テーマ担当課から出向く型の開催に協力いただいた施設や団体を通していけんのまとめの確認を行った。また、いけんのまとめの内容を協力施設や団体の職員を目を通さずに確認する必要がある場合には、参加したこども・若者のみに内容が伝わるよう工夫した。また、児童館では後日改めて確認を取ることが難しいと想定されたため、撤回したい意見の有無はいけんひろばの最後にファシリテーターから確認した。

(5) 手法：アンケート

【調査設計】

各テーマ担当課が作成した設問案に沿って回答フォーム（Google Forms）を作成した。設問の種類は単数回答（選択肢形式）、複数回答（選択肢形式）、自由記述の3種類とした。また、答えたくない質問には答えなくてよい旨を回答フォーム内及び「アンケートのお知らせ（募集要項）」で明示した。

また、調査設計の際には「回答者の負担軽減」や「答えやすさ」の観点からテーマ担当課に対する助言を行った。

本手法では、匿名で意見を出したいと感じている参加者にも回答してもらおう（いけんひろばに参加してもらおう）ことを重視したため、氏名やメールアドレスなど個人の特定につながる情報の収集は行わずに匿名性を最大限担保した。

【実査】

回答フォームの作成後、対象のぷらすメンバーに対してアンケートの回答依頼メール（回答フォームURL）を配信した。回答期間はこども家庭庁・テーマ担当課と協議のうえで決定し、概ね3～6週間程度の期間をとった。

また、回答率の向上を目的に、回答締切日の5営業日程度前に以下の対応を行った。

- 最初の回答依頼メール配信日以後に新規登録したぷらすメンバーへの回答依頼メールの送付
- 最初の回答依頼メールの配信対象であったぷらすメンバーへのリマインドメールの送付

【データクリーニング・集計】

回答期間終了後、データクリーニング（回答の誤りや矛盾などの確認・修正）を実施の上で単純集計を行った。また、テーマ担当課からの要望に応じてクロス集計も実施した。

3) とりまとめの方法と工夫（いけんのまとめ～FB資料まで）

（1）いけんのまとめ

いけんのまとめは、いけんひろばで表明された意見全件を起こしたもので、こども・若者から出た意見をテーマ担当課に網羅的に伝える資料である。アンケート形式以外のいけんひろばの場合では、参加者の当日の意見を原則としてそのままに文字に起こした。アンケート形式のいけんひろばの場合では、アンケート結果をグラフ形式または表形式にまとめ、自由記述はそのままの文章を掲載する形式で作成した。

後述の報告資料・フィードバック資料とともに、後日こども家庭庁ホームページで公開されることから、いけんひろばで挙げられた意見を国民に示す資料ともなる。

いけんのまとめ作成にあたっては、いけんひろばでの意見を尊重しつつ、以下の点にも留意して作成した。いずれの観点も重要であり、記載順は重要度を示すものではない。

- ① 参加者の意図に沿った意見が記載されること
- ② 参加者の個人情報やプライバシーが守られること
- ③ いけんひろばに参加していない第三者でも内容がわかりやすいこと
- ④ 特定の人物、商品やサービス、施設等の評価や推奨とならないようにすること

具体的には以下のプロセスを通じて、上記3点を担保した。

【発言内容に応じた記載箇所の調整等】（①③に関連）

いけんひろばの発言について、より読みやすくなると判断される場合や指示語が一見してわかりにくい場合には適宜記載箇所の調整や発言内容の明確化を行った。

【発言者の匿名化、固有名詞の一般名詞化、具体例の抽象化】（②④に関連）

参加者の保護や発言内容の守秘のため、意見は、ニックネームであっても参加者の誰が発言したかがわからないように匿名化を施した。あわせて、発言意図を変えない範囲で固有名詞の一般名詞化や具体例の抽象化を行い、発言者の特定につながらないようにするとともに、特定の人物や商品等への評価や推奨とならないようにした。

【参加者への内容確認】（①に関連）

アンケート形式以外のいけんひろばでは、いけんのまとめ作成後、参加者に対し、メール等にて⁴内容の確認を依頼した。

内容確認において、取り消したい意見や修正したい意見があると参加者本人から表明があった場合には、本人の意図に応じて意見の加除修正を行った。当日のいけんひろばで言い切れなかった追加の意見は、開催後に実施している参加者アンケートの中で記載

⁴ 出向く型では事務局が参加者のメールアドレスを把握していないため、施設を通じて参加者への内容確認を行った。

してもらい、いけんのまとめに追加した。いけんひろば後、速やかにいけんのまとめをテーマ担当課に提供する趣旨から、追加の意見受付は開催後1週間程度（アンケートの締め切り）までとした。追加された意見は「いけんひろば後に追加のあった意見」として、当日の議論を経た他の意見とは区分していけんのまとめに掲載した。

なお、アンケート形式のいけんひろばについては、参加者を特定しない形でアンケート回答（意見）を得たことから、いけんのまとめの確認プロセスは生じなかった。

（2）報告資料

報告資料は、いけんひろばで出た意見を分かりやすく整理し、いけんひろばの参加者、そのほか一般の方に「いけんひろばの概要（テーマ・開催方法・参加人数）」や「いけんひろばで出た意見の概要」を伝えるための資料である。報告資料は、いけんのまとめ、フィードバック資料と併せてこども家庭庁のホームページ⁵で公開した。

分かりやすい資料とするため、いけんひろばで出た意見をカテゴライズ・グルーピングして整理するとともに、各カテゴリーの主な意見を紹介した。また、イラストなどを用いて見やすさ・親しみやすさに配慮しながら作成した。

⁵ <https://www.cfa.go.jp/policies/iken-plus/hiroba>

図 8 報告資料の例（あなたが思う「居場所」は？）

<small>こどもまんなか</small> こども家庭庁	
テーマ	あなたが思う「居場所」は？ （「こども家庭審議会こどもの居場所部会」のなかで「こども・若者からのヒアリング」として開催）
担当省庁	こども家庭庁
開催日時	令和5年7月31日（月）15:20～17:30ごろ
開催場所	東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング21階、22階（こども家庭庁内会議室）
参加対象者	ぶらすメンバー全体
参加人数／グループ数	23名／5グループ
主なヒアリング内容	<ul style="list-style-type: none"> 自分にとって居場所だと感じる場などがあります（います）か？ また、それはどんな場ですか？ その居場所では、どんな気持ち（感情）になりますか？ その居場所に対して、もっとこうであってほしいなどありますか？ <p style="text-align: right;">など</p>

2

こどもまんなか
こども家庭庁

「居場所」をより心地の良いものにするために求めること

居場所にいるひと（大人・スタッフ）

部屋にスタッフがいて見守ってくれるといい。
こどもだけでは解決できないトラブルがあるときに助けてほしい。（小学生）

優しい人、良く意見をきいてくれる人、
ダメなことはためといってくれる人であれば大人がいてもいい。（小学生）

方向性を決めつけない大人が良い。大人の経験論が大事な時もあるが、**こどもの未来の方向性はこどもの主体性に任せてほしい。**こどもがやりたいことを尊重してくれる大人が良い。（中学生）

危険なことが起きたときに止めてくれる役割を担う大人は必要なものの、**大人があまり干渉しないほうが良い**と思う。（高校生・大学生）

大人はいるけど、**主に見守りとして何かあった時に助けるくらいの干渉しすぎない距離感**が良い。（中学生）

専門的な知識を教えてくれたりアドバイスをしてくれたりする人がいてくれると嬉しい。（小学生）

居場所にいるひと（こども・利用者）

どの学年の人もいれる場所だと、低学年の子たちが騒がしく宿題や勉強に集中できないので、**同学年どうして集まれる場所**があったら嬉しい。（小学生）

親と一緒にだと「早く帰るよ」と言われて嫌な気持ちになるから、**二人で行けて一人で過ごせる場所**がほしい。（小学生）

親と話す内容と友達と話す内容は違うから、それを親に知られたくない。（小学生）

こどもだけで話せる場所が欲しい。（小学生）

居場所のルール・雰囲気

静かに過ごす場所と、ワイワイ過ごす場所を選べるほしい。（小学生～高校生）

一人になって自分の気持ちを考えたりして落ち着いたり、自分でコントロールできるようになる場所があればいいと思う。（中学生）

いじめが無い場所がいい。ルールを守れない人が一人いると「あの人ルールを破っているなら自分も」という風になって、悪い循環が起きてしまう。（小学生）

最近は屋外以外では私語禁止が多いので、もう少し**こどものための自由にできる場所**があっても良いと思う。（中学生）

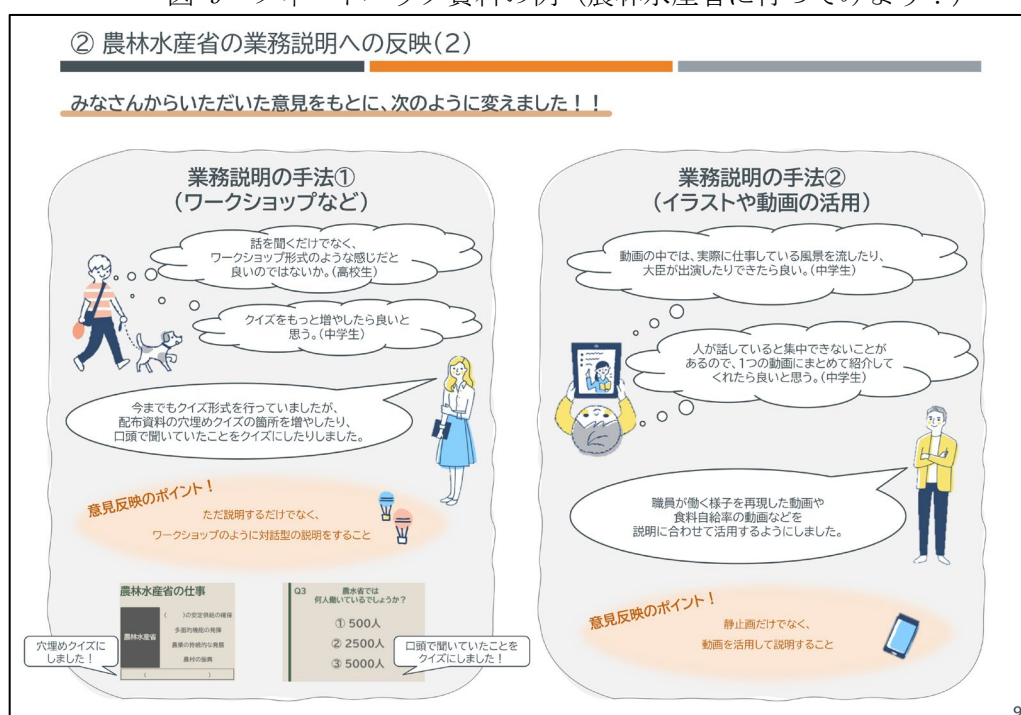
9

(3) フィードバック資料

フィードバック資料は、いけんひろばで出た意見がテーマ担当課の政策にどのように反映されたのか（反映される予定なのか）を、いけんひろばの参加者、そのほか一般の方に伝えるための資料である。フィードバック資料は、いけんのまとめ、報告資料と併せてこども家庭庁のホームページ⁶で公開した⁷。

フィードバック資料では、政策に反映されるプロセスが見えるよう、原則として「いけんひろばで出た意見」と「テーマ担当課の解釈（意見をどのように受け止めたのか、意見反映のポイントは何か）」、「どのように政策に反映したのか（なぜ反映できなかったのか）」の3点を明示するよう努めた。

図 9 フィードバック資料の例（農林水産省に行ってみよう！）



⁶ <https://www.cfa.go.jp/policies/iken-plus/hiroba>

⁷ 一部のいけんひろばについては、開催時期やテーマ担当課内の調整の都合により、フィードバック資料の作成が次年度に持ち越しとなっている。

5. 業務④ ぼんぱーによる活動の支援

1) 業務の全体像

(1) 本事業におけるぼんぱーの位置づけ

こども家庭庁がふらすメンバーに対して募集し、作文や面談を経て決定した運営メンバーである「みんなのパートナーぼんぱー」（以降、「ぼんぱー」）の活動支援を行った。

ぼんぱーは、中学生から社会人のふらすメンバーで構成され、ふらすメンバーから広く意見を聴くための工夫や、こども・若者にとってわかりやすい情報発信などについて、運営事務局であるこども家庭庁の職員などと一緒に取り組むことを目的とした。

「みんなのパートナーぼんぱー」という名称は、活動冒頭にぼんぱー全体で話し合ったうえで決定した。「みんなのパートナー」は、こども達と対等な関係で寄り添う存在であることを示し、「ぼんぱー」はポンプのように意見をくみ上げていく役割を示している。

(2) 活動体制

ぼんぱーの活動は、後述の3班に分かれての班会議での話し合いや、3班合同での隔月の会議での報告、LINE オープンチャットでのチャットコミュニケーションを通じて進められた。

令和5年度の21人のぼんぱーは、表7のとおり3班に分かれて活動した。

表 7 ぽんぱーの活動体制

班名	メンバー	目的	実施内容
運営班	<ul style="list-style-type: none"> 中学生 2人 高校生 2人 大学生・大学院生 2人 社会人 1人 	いけんぷらすの活動内容を一緒に考えること、いけんひろばの運営スタッフとして場づくりをすること	<ul style="list-style-type: none"> ぽんぱー同士の連絡のために使用するツールの選定 ぷらすメンバー向けアンケートの検討 ぷらすメンバーの会の企画・運営 ぽんぱー合同会議の司会 いけんひろばの運営に関する理解を深め、上記の活動をより円滑に進めることを目的とした、いけんひろばの見学（こども大綱・こどもホームページ）
企画班	<ul style="list-style-type: none"> 中学生 2人 高校生 4人 大学生・大学院生 1人 社会人 1人 	こども・若者から提案のあったテーマについてのいけんひろばを開催するために意見を募集し、実際に開催すること	<ul style="list-style-type: none"> こども・若者から提案のあったテーマについてのいけんひろばの実施時期の設定 ぷらすメンバーからのテーマ募集（2回。2回目はより具体のテーマ希望を尋ねるもの） 参加者募集要項の作成 いけんひろばの運営
広報・情報発信班	<ul style="list-style-type: none"> 中学生 2人 高校生 2人 大学生・大学院生 1人 社会人 1人 	いけんぷらすを幅広く知ってもらうために様々な広報を検討・実施すること	<ul style="list-style-type: none"> こども若者に向けた効果的な発信チャネルの提案 いけんひろばの見学・参加者インタビュー いけんひろばの運営 いけんのまとめ・報告資料の確認

ぽんぱーの活動は、「こども家庭庁」「受託者」「サポーター」の3者の大人がそれぞれの立場から支援した⁸。

- こども家庭庁は、いけんぷらすやぽんぱーの活動の大きな方向性や進め方を考える役割を担った。
- 受託者は、ミーティングの場の設定や資料の整理など、いけんぷらすやぽんぱー活動に関わる様々な事務作業を担当した。
- サポーターは、ぽんぱーの班活動における話し合いの進行や、ぽんぱーが話し合いしやすい雰囲気作り、ぽんぱーの気軽な相談相手となる役割を担った。サポーター

⁸ 事業全体における体制については、1. 業務の全体像で記載の通り。

は、後述のとおりこども・若者支援の事業等を行うNPOや団体等から適任だと考えられる組織を選定し、適任者を5名選任した。

(3) 年間活動スケジュール

隔月の合同会議及び3班それぞれの班会議の一覧は次のとおり。

表 8 合同会議一覧⁹

回数	日付	議題
プレミーティング	令和5年6月13日(火)	<ul style="list-style-type: none"> こども家庭庁職員の自己紹介 運営パートナー(仮)の自己紹介 運営パートナー(仮)の正式名称について 今後の事務連絡
第1回	令和5年6月18日(日)	<ul style="list-style-type: none"> みんなのパートナーぼんぱーのグランドルールについて プレミーティングでやり残したことについて 第1回いけんひろばと今後のいけんひろばについて それぞれの班の役割について 班決めについて
第2回	令和5年7月18日(火)	<ul style="list-style-type: none"> サポーター自己紹介 関係する大人の役割紹介 運営班からの報告 広報班からの報告 事務局からの連絡事項 班活動について
第3回	令和5年9月21日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 各班からの活動報告 活動報告に対する質疑応答
第4回	令和5年11月21日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 各班からの活動報告 専門委員会の感想共有 シンポジウムの感想共有 質疑応答
第5回	令和6年1月18日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 各班からの活動報告 質疑応答・まとめ
第6回	令和6年3月23日(土)	<ul style="list-style-type: none"> 各班からの1年間の活動報告 長官からのコメント・ご質問 各班の質疑応答 ぼんぱー一人ひとりからの1年間の感想 ぼんぱーの自由時間

⁹ 第1回合同会議、第6回合同会議は対面・オンラインのハイブリッド形式で開催した。

表 9 運営班 班会議一覧

回数	日付	議題
第1回	令和5年7月4日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 「こども若者★いけんぷらす」に関する説明 いけんひろばで取り扱うテーマについて 班活動で使う連絡ツールについて
第2回	令和5年7月18日(火)	<ul style="list-style-type: none"> サポーター、メンバー自己紹介 定例ミーティングの司会者決め 班内連絡ツールについて いけんひろばテーマの情報共有について 今後の運営班の活動アイデア
第3回	令和5年8月1日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 班活動で使う連絡ツールについて 今後のぼんぱー・運営班の活動の進め方
第4回	令和5年8月25日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 班活動で使う連絡ツールについて 今後の運営班の活動について
第5回	令和5年9月8日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 合同会議(令和5年9月21日(木))の運営班活動報告について 今後の運営班の活動について 運営班として大切にしたいことについて LINEオープンチャットの使い方について
第6回	令和5年10月4日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ぼんぱー運営班のいけんぷらすへの関わり方 「こども政策担当大臣との意見交換会」及び「こども・若者参画及び意見反映専門委員会」への参加者について
第7回	令和5年11月1日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ぼんぱー運営班の立ち位置・役割について
第8回	令和5年11月8日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 合同会議(令和5年11月21日(火))について いけんひろばを見学した感想について
第9回	令和5年11月29日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 第4回合同会議の振り返り 運営班の活動内容案の確認・今後の活動についての相談
第10回	令和5年12月11日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ぷらすメンバーの会・ぷらすメンバー向けアンケートについて 運営班メンバーの交流の場について
第11回	令和6年1月11日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 合同会議(令和6年1月18日(木))について ぷらすメンバーの会について
第12回	令和6年1月24日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 合同会議(令和6年1月18日(木))の振り返り ぷらすメンバーの会について
第13回	令和6年2月9日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ぷらすメンバーの会について 合同会議(令和6年3月23日(土))について
第14回	令和6年2月19日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ぷらすメンバーの会について
第15回	令和6年3月8日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ぷらすメンバーの会の振り返り 合同会議(令和6年3月23日(土))について 運営班活動の振り返り LINEオープンチャットについて

表 10 企画班 班会議一覧

回数	日付	議題
第1回	令和5年7月18日(火)	<ul style="list-style-type: none"> サポーターの役割と自己紹介 企画班がやることの再確認 今日話したいこと 次回以降の企画班活動について
第2回	令和5年8月2日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ぷらすメンバーへのテーマ案の募集時期について テーマ案の募集方法について
第3回	令和5年8月16日(水)	<ul style="list-style-type: none"> テーマ案の募集からいけんひろば開催までのスケジュール テーマ案の募集方法について
第4回	令和5年9月14日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ぷらすメンバーからの希望テーマ応募状況・テーマ応募内容の共有 チャットツール(LINEオープンチャット)の導入 合同会議(令和5年9月21日(木))での発表者について
第5回	令和5年10月12日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ぷらすメンバーからの希望テーマ応募状況の共有(最終結果) テーマ案の絞り方について
第6回	令和5年10月23日(月)	<ul style="list-style-type: none"> テーマ案の絞り方について
第7回	令和5年11月14日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 合同会議に向けた話し合い いけんひろば開催に向けた話し合い
第8回	令和5年12月7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> こども家庭庁からの説明 いけんひろば開催に向けた話し合い
第9回	令和5年12月26日(火)	<ul style="list-style-type: none"> いけんひろばの大テーマ(タイトル)について いけんひろばの中テーマの選定 募集要項作成についての説明 全体会議についての連絡
第10回	令和6年1月16日(火)	<ul style="list-style-type: none"> こども家庭庁からの説明 合同会議について いけんひろばの募集要項作成について
第11回	令和6年1月30日(火)	<ul style="list-style-type: none"> いけんひろば当日の運営側としての参加について 募集要項作成についての共有 いけんひろばの質問案の選定
第12回	令和6年2月8日(木)	<ul style="list-style-type: none"> こども家庭庁から いけんひろば当日のスケジュールの共有 いけんひろばでやりたいことを話し合う
第13回	令和6年2月27日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 基本政策部会の参加希望者の募集 いけんひろばの振り返り
第14回	令和6年3月21日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 合同会議について共有 いけんひろばの振り返り 基本政策部会について

表 11 広報・情報発信班 班会議一覧

回数	日付	議題
第1回	令和5年6月30日(金)	<ul style="list-style-type: none"> いけんぷらすを知ってもらう・ぷらすメンバーを増やすための広報の方法について 8月以降のいけんひろばの広報の方法について 合同会議(令和5年7月18日(火))について
第2回	令和5年7月18日(火)	<ul style="list-style-type: none"> サポーターの役割と自己紹介 広報班がやることの再確認 次回以降の広報班活動について
第3回	令和5年8月1日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ぷらすメンバーを増やすための広報の仕方について ぼんぱーのロゴについて
第4回	令和5年8月31日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ぼんぱーのロゴ結果について ぷらすメンバーからのテーマ募集について いけんひろばの広報の仕方について 班活動で使う連絡ツールについて
第5回	令和5年9月28日(木)	<ul style="list-style-type: none"> いけんひろばの広報について 今後の班活動で検討したいことの共有 専門委員会での発表者について
第6回	令和5年11月15日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ぼんぱー自身が感じたことの発信について ロゴに関するレクチャー
第7回	令和5年12月12日(火)	<ul style="list-style-type: none"> こども家庭庁の「いけんぷらす広報」事業について 広報班メンバー発のアジェンダ出し
第8回	令和5年12月20日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 公式アカウントの運用について 今後の発信内容・方法について 合同会議での発表内容について
第9回	令和6年1月17日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 公式アカウントに関する意見の振り返り・発信の枠組みについて Xでの発信に関する共有 アンケート結果の発信について インタビュー結果の発信について
第10回	令和6年2月7日(水)	<ul style="list-style-type: none"> これまでの議論の整理・前回の班会議で出た意見への回答 アンケート結果の発信について インタビュー結果の発信について Instagram初回投稿の内容について ぷらすメンバーの会にあたって
第11回	令和6年2月22日(木)	<ul style="list-style-type: none"> Instagramの2月・3月の投稿について ぷらすメンバーの会にあたって
第12回	令和6年3月13日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ぷらすメンバーの会共有 Instagram進捗共有 今期できたことと検討中のことについて共有 来年度のメンバーに伝えたいことのワーク さいごに、一人一言

2) 支援の方法と工夫

(1) サポーターの配置

ぼんぱーの活動及び事務局との情報連携等を円滑に進めるために、こども・若者との関わりに相応の経験を有する者から、こども・若者へ適切で十分なサポートを行うことを目的として、こども・若者支援経験のある5名をぼんぱーの「サポーター」として配置した。

サポーターの主な業務は以下のとおり。

- ぼんぱーの会議への出席（班会議での話し合いのファシリテーション、班会議や合同会議でのぼんぱーが話し合いしやすい雰囲気作り）
- ぼんぱーの会議の運営補佐（班会議・臨時会議の日程調整、会議設計補佐、班会議以外でのぼんぱーの相談支援や検討の様子の確認）

(2) コミュニケーション方法

ぼんぱーの活動を進める中で、班会議の場に限らずぼんぱーの検討や合意を進めるためにはチャットルームが必要であると考えに至り、8月にぼんぱーの活動専用のチャットルームをLINE オープンチャットに開設した。チャットルームのツール選定については運営班を中心に検討を重ね、以下の理由からLINE オープンチャットを選定した。

- 任意のニックネームによる利用が可能なこと
- 既読人数がわかること
- 個人のSNSなどとの連携の懸念がないこと

チャットルームは、全体ルーム、運営班ルーム、企画班ルーム、広報・情報発信班ルームの4つをオープンした。さらに、必要に応じて、4つのルームからサブトークルームを作成する仕組みとした。具体的には、各班で検討されるテーマごとにサブトークルームを立てたり、合同会議での司会を担当するぼんぱーが進行を確認するために活用したりした。

(3) ぼんぱー個人のフォロー

活動の中でぼんぱー一人ひとりが意見を言えているか、やりたいことができているかなどを聴くため、こども家庭庁・受託者・サポーターとぼんぱーの個別の面談も実施した。その際、こども家庭庁・受託者・サポーターからの出席者については、ぼんぱーが事前に希望する者とした。

また、事業の後半からは、班によっては班会議の直後にぼんぱーへ「班会議後アンケート」を実施し、会議の中で意見を言えたか、言い足りなかったことはないか、その他こども家庭庁・受託者・サポーターに伝えたいことなどを答えてもらった。その結果を踏まえ、必要に応じてぼんぱーへ個別に連絡を取ってフォローを行った。

6. 業務⑤ 地方自治体におけるこども・若者意見反映の取組サポート

1) 業務の全体像

こども基本法では、こども施策の策定等に当たってこども等の意見の反映に係る措置を講ずることを国及び地方自治体に対し義務付けていることを踏まえ、地方自治体における円滑なこども意見聴取の推進のため、こども・若者意見反映サポート事業及び「地方自治体におけるこどもの意見表明・反映の推進」研修を行った。

2) こども・若者意見反映サポート事業

地方自治体から、こども等の意見の反映に係る措置の実施のためのファシリテーターを確保できないとの意見が寄せられていたことを踏まえ、地方自治体における意見聴取の取組を推進するため、こども家庭庁から希望する地方自治体に対し、こども意見聴取のためのファシリテーター及びこども家庭庁職員が派遣された。ファシリテーターは、「こども若者★いけんぷらす」の登録ファシリテーターの中から募り、決定した。

派遣は、第1期（10月頃募集～11・12月実施）と第2期（12月頃募集～1・2月実施）の2回に分けて実施した。

派遣の流れは表 12、派遣した地方自治体は表 13のとおり。

表 12 ファシリテーター派遣の流れ

流れ	補足
①地方自治体募集	<ul style="list-style-type: none"> こども家庭庁から、都道府県及び市区町村に募集案内を行った。
②地方自治体選定	<ul style="list-style-type: none"> 過去にこども・若者意見聴取の実績があるかどうかや、ほかの地方自治体の視察が可能かどうかといった観点から選定した。
③こども家庭庁からの助言（地方自治体との事前打ち合わせ含む）	<ul style="list-style-type: none"> オンライン会議において、「こども若者★いけんぷらす」の枠組みをお伝えするとともに、意見聴取の場づくりについて助言した。
④ファシリテーターの募集	<ul style="list-style-type: none"> テーマや開催日程をまとめたファシリテーター募集資料を作成し、登録ファシリテーターに募集案内を行った。
⑤ファシリテーターの選定	<ul style="list-style-type: none"> 応募のあったファシリテーターの中から、該当いけんひろばの概要やファシリテーター自身の経験等を踏まえ、派遣するファシリテーターの選定を行った。
⑥地方自治体とファシリテーターの事前打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 円滑な意見聴取の進行のため、本事業の事務局の同席のもと、地方自治体とファシリテーターの間で地方自治体が意見を聴取したいポイントや、当日の会場の雰囲気などについて認識合わせを行った。
⑦意見聴取当日	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の事務局とファシリテーターが地方自治体に出向き、意見聴取の場を運営した。

表 13 ファシリテーターを派遣した地方自治体

No.	地方自治体	意見聴取実施日	対象年代	場所	テーマ
1	山梨県	令和5年 11月27日(月)	小学生～ 20代	県立愛宕山 こどもの国 工作室	幸福な生活を送るため に必要なこと
2	大田区	令和5年 12月6日(水)	児童館を利用 している 小学1年生 ～3年生	高畑児童館	みんながつくる児童館 こどもまんなか meeting!!
		令和5年 12月13日(水)	児童館を利用 している 小学2年生 ～4年生	下丸子四丁 目児童館	みんながつくる児童館
3	宮城県	令和6年 1月24日(水)	県内の 中学1年～ 29歳	宮城県庁会 議室	こども政策への意見の 聞き取り 痴漢撲滅に向けた方策 インターネットやSNSに 起因する 非行と被害防止対策
4	近江八幡 市	令和6年 2月7日(水)	児童クラブ 所属の児童	安土児童ク ラブ「かざ ぐるま」	自分たちの居場所をよ り良くするには

3) 「地方自治体におけるこどもの意見表明・反映の推進」研修の開催

こども・若者の声を聴く政策づくりを担っている、また今後実施したいと考えている地方自治体担当者を対象に、「地方自治体におけるこどもの意見表明・反映の推進」研修をオンラインで4回開催した。

表 14 研修の開催概要

日時	令和6年1月17日(水), 18日(木), 25日(木), 30日(火)
開催手法	オンライン (Webex)
対象	都道府県職員、市区町村職員
申込期間	令和5年12月15日(金)～令和6年1月12日(金)

表 15 研修プログラム

時間	プログラム
15:00～15:05 (5分)	開会挨拶
15:05～16:00 (55分)	講義
16:00～16:30 (30分)	グループワーク
16:30～16:55 (25分)	グループワーク結果の共有・質疑応答
16:55～17:00 (5分)	閉会挨拶・アナウンス

グループワークを行う研修形式とした意図として、講義を聞いた感想や質問のほか、地方自治体職員が今抱えている悩みや思いなどを、地方自治体を超えて共有・相談してもらうことがあった。

講義の講師は、こども家庭庁のアドバイザーである西崎氏が務めた。

【運営面での工夫】

グループワークについては、地方自治体同士での話し合いがより地方自治体職員のニーズを満たすものになるよう、研修申込時にグループワークに参加する地方自治体の人口規模についてアンケートを取り、その結果を踏まえてグルーピングを行った。

開催形式・回数については、より多くの地方自治体職員に参加いただけるよう、スケジュールの都合をつけやすいと考えられるオンライン形式での開催として、日程も4回用意した。

オンライン開催のツールについては、地方自治体がセキュリティ観点からもアクセスしやすく、ブレイクアウトセッションの利用も可能なWebexを選定した。また、Webexへの円滑な接続や利用のため、Webexの操作に関する資料も作成し、参加地方自治体に事前に配布した。

7. 業務⑥ 事業のとりまとめ

1) 成果物

本事業全体での成果や課題をとりまとめるため、3つの成果物を作成した。

表 16 本事業の成果物

成果物名	想定読者	成果物の目的
① 活動報告書	• 社会全体 • 特に地方自治体担当者	広く社会や地方自治体に事業の実施概要や課題を周知すること
② 活動報告書概要版		広く社会や地方自治体に事業の実施概要や課題を周知すること (①のうち特に重要な内容を抜粋)
③ 活動報告書やさしい版 ¹⁰	• ぶらすメンバー世代のこども・若者	こども・若者に事業の意義や成果を伝えること。 (①②と異なり、「意見を聞くプロセスと意見が反映されたという成果」を伝えるもの)

¹⁰ こどもにも分かりやすい表現やデザインの資料を指す。

第三章 事業の実施結果

1. 業務① ぷらすメンバー登録管理

ぷらすメンバーの登録者は事業終了時点では、4,206人であった（令和6年3月27日時点）。なお、登録者のうち、いけんひろばに参加した延べ人数は2,650人であった。

2. 業務② ファシリテーター登録管理

ファシリテーター登録者は、事業終了時点では44人であった（令和6年3月27日時点）。

3. 業務③ いけんひろば運営

1) いけんひろば参加者アンケート結果

令和5年度に延べ40回¹¹開催したいけんひろばのうち、対面・オンライン・チャットの形式で実施した計25回のいけんひろばにて、参加者から参加したいけんひろばに関するアンケートの回答を得た。主なアンケート項目への回答結果をまとめた表を以下に示す。

いけんひろばへの参加者満足度は高く、「いけんひろばに参加して良かったと思いますか？」という設問に対して「そう思う」と回答した参加者の割合は、対面（全13回）・オンライン（全9回）・出向く型（全2回）では、いずれも「100.0%」であった。チャット（全1回）においては、「90.0%以上100.0%未満」が1回という結果となった。

図 10 「いけんひろばに参加して良かったか」に対するアンケート結果

アンケート項目	開催手法	集計結果 「そう思う」の割合別いけんひろば回数	主な意見
1 「いけんひろば」に参加して良かったと思いますか？	対面 (全13回)	<ul style="list-style-type: none"> 100.0%…13回 90.0%以上100.0%未満…0回 80.0%以上90.0%未満…0回 80.0%未満…0回 	<p><参加してよかったと思う理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 全国各地の同年代の人たちの多様な意見を聴いて、自分の知見を深められたため。 ふだん、体験できないことができてよかった。 自分の中の意見をみんなに共有することができたため。 自分の意見を省庁に届けることができたため。 省庁見学を通して、国が行っている仕事について関心を高めることができたからです。 話しやすい雰囲気だったし、スタッフの方も優しく対応してくれたから。
	オンライン (全9回)	<ul style="list-style-type: none"> 100.0%…9回 90.0%以上100.0%未満…0回 80.0%以上90.0%未満…0回 80.0%未満…0回 	
	出向く (全2回)	<ul style="list-style-type: none"> 100.0%…2回 90.0%以上100.0%未満…0回 80.0%以上90.0%未満…0回 80.0%未満…0回 	
	チャット (全1回)	<ul style="list-style-type: none"> 100.0%…0回 90.0%以上100.0%未満…1回 80.0%以上90.0%未満…0回 80.0%未満…0回 	

¹¹ テーマが同じいけんひろばでも開催日時・対象者が異なる場合は、開催日時ごとに別に計上した。

「いけんひろばでは自分が話したいと思ったことを言えましたか？」という設問に対し「そう思う」と回答した参加者の割合は、対面・オンラインでは「100.0%」が最も多く（それぞれ8回/13回、6回/9回）、出向く型では「90.0%以上100.0%未満」「80.0%以上90.0%未満」が各1回（全2回）となった。チャットにおいては「80.0%未満」（具体的には74.2%）が1回/1回となった。チャットにおいて話すのが難しかった理由には、「投稿した頃に次の話題に行っていたりと、議論にタイムラグを作ってしまった」「文字の会話なので、テンポとしてゆっくりになってしまい、議論が闊達とならなかった」などが挙げられた。

チャットならではの「参加者が集中して議論できる時間のずれ」「参加者の表情が見えない文字のみによるコミュニケーション」といった点が他のいけんひろばと比較してポイントが低下した要因と見られる。

図 11 「いけんひろばでは、自分が話したいと思ったことを言えたか」に対するアンケート結果

アンケート項目	開催手法	集計結果 「そう思う」の割合別いけんひろば回数	主な意見
2 「いけんひろば」では、自分が話したいと思ったことを言えましたか？	対面 (全13回)	<ul style="list-style-type: none"> 100.0%…8回 90.0%以上100.0%未満…5回 80.0%以上90.0%未満…0回 80.0%未満…0回 	<p><話すのが難しかった理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 緊張で言い出すことがほとんどできなかった。 話し始めるタイミングがすごい難しかったです。 時間がもう少しあったらよかった。気付いたら時間になっていた。 最初は緊張していたけれど、だんだん慣れて意見が言えるようになってきました。同じメンバーでこのような場所があれば、より意見が言いやすくなると思います。 質問が難しい時があった。
	オンライン (全9回)	<ul style="list-style-type: none"> 100.0%…6回 90.0%以上100.0%未満…2回 80.0%以上90.0%未満…1回 80.0%未満…0回 	
	出向く (全2回)	<ul style="list-style-type: none"> 100.0%…0回 90.0%以上100.0%未満…1回 80.0%以上90.0%未満…1回 80.0%未満…0回 	
	チャット (全1回)	<ul style="list-style-type: none"> 100.0%…0回 90.0%以上100.0%未満…0回 80.0%以上90.0%未満…0回 80.0%未満…1回 	

「いけんひろばのテーマは意見を言いやすいものでしたか？」という設問に対して「そう思う」と回答した参加者の割合は、対面とオンラインでは「100.0%」が最も多かった（それぞれ5回/13回、3回/9回。なお、オンラインは「90.0%以上100.0%未満」「80.0%以上90.0%未満」も同数の3回/9回であった）。

一方で、対面、出向く型、チャットで「80.0%未満」のいけんひろばが各1回（それぞれ1回/13回、1回/2回、1回/1回）あった。具体的な回答割合は対面72.5%、出向く型62.5%、チャット74.2%であった。

意見を言いづらかった主な理由としては、テーマが身近でない、難しいといった点や、テーマ設定とも関連して、自身の経験や思いの意見出しが難しかったという点、またグループの人数が少なかったなどの進行・運営に関する点が挙げられた。

図 12 「いけんひろばのテーマは意見を言いやすいものだったか」に対するアンケート結果

アンケート項目	開催手法	集計結果 「そう思う」の割合別いけんひろば回数	主な意見
3 「いけんひろば」の テーマは意見を言い やすいものでしたか	対面 (全13回)	<ul style="list-style-type: none"> 100.0%…5回 90.0%以上100.0%未満…3回 80.0%以上90.0%未満…4回 80.0%未満…1回 	<意見を言いやすかった理由> <ul style="list-style-type: none"> ファシリテーターの人が自分にふっけてくれたから意見が言いやすかった。 身近な話題だったから。 他の人と楽しい雰囲気での議論できた。
	オンライン (全9回)	<ul style="list-style-type: none"> 100.0%…3回 90.0%以上100.0%未満…3回 80.0%以上90.0%未満…3回 80.0%未満…0回 	<意見を言いづらかった理由> <ul style="list-style-type: none"> ●テーマ関連 <ul style="list-style-type: none"> 自分にとって身近に考えられることが少なく、ピンポイントの意見ではなく、おおまかな意見になってしまった。 括りの大きさと影響範囲の広さから、抽象的な話や解像度の低い経験談の共有、活発に議論された話題の偏りがあってしまったかもしれない、と思いました。 テーマが難しく、あまり自分の考えを言えなかった。
	出向く (全2回)	<ul style="list-style-type: none"> 100.0%…0回 90.0%以上100.0%未満…1回 80.0%以上90.0%未満…0回 80.0%未満…1回 	<ul style="list-style-type: none"> ●自身の知識、関心関連 <ul style="list-style-type: none"> 元々自分の中に言いたいことがあったわけではなかったのに、何気ない思いを言語化するのが難しかったから。 自分がほかの参加者と比べて社会的な経験を積んでいないと感じたから。 6-18歳のわたしが当事者でない層への意見出しは難しく、どうしても6-18歳を取り巻く環境を整備する方向で進んでしまったため。
	チャット (全1回)	<ul style="list-style-type: none"> 100.0%…0回 90.0%以上100.0%未満…0回 80.0%以上90.0%未満…0回 80.0%未満…1回 	<ul style="list-style-type: none"> ●進行関連 <ul style="list-style-type: none"> 人それぞれ居場所と思う所が違うので難しかった。内容が難しかった。内容について説明してくれる人がいてもよかった。 あと2、3人程度であれば問題なくやりとりできたと思うので、ひとグループごとの人数をもう少し増やして意見を言う人の多様性を高め、刺激し合えばより広い意見が出せたかもしれないと思いました。

「ファシリテーターやスタッフの関わり方やふるまいについて、どう思いましたか？」という設問に対して「とてもよかった」または「よかった」と回答した参加者の割合は、対面・オンライン・出向く型では「100.0%」が最も多かった（それぞれ8回/13回、8回/9回、1回/2回）。なお、出向く型は「80.0%以上90.0%未満」も同数の1回/2回）。チャットでは「90.0%以上100.0%未満」が1回/1回であった。

全いけんひろばを通じて、「よくなかった」「とてもよくなかった」を付けた参加者も一部見られた（本設問に回答した参加者402名のうち（無回答除く）、当該回答者は3名（0.7%））。当該回答をした参加者のアンケートの中で、関連すると思われる記述を一部抜粋する。「(テーマについて) 省庁でどのような議論がされていたか、有名どころの議論

については最低限把握しておいてください」、「子供たちの意見を聞く場で大人が司会進行？をするのは少し道はずれている気がしました」、「時間が押していたのはあるが、ゆっくり途切れ途切れ喋っている方の発言中に遮りがあった」等の記載があった。

図 13 ファシリテーターやスタッフの関わり方等に対するアンケート結果

アンケート項目		開催手法	集計結果 「とてもよかった」または「よかった」 の割合別いけんひろば回数
4	ファシリテーターやスタッフの関わり方やふるまいについて、どう思いましたか？	対面 (全13回)	<ul style="list-style-type: none"> 100.0%…8回 90.0%以上100.0%未満…4回 80.0%以上90.0%未満…1回 80.0%未満…0回
		オンライン (全9回)	<ul style="list-style-type: none"> 100.0%…8回 90.0%以上100.0%未満…0回 80.0%以上90.0%未満…1回 80.0%未満…0回
		出向く (全2回)	<ul style="list-style-type: none"> 100.0%…1回 90.0%以上100.0%未満…0回 80.0%以上90.0%未満…1回 80.0%未満…0回
		チャット (全1回)	<ul style="list-style-type: none"> 100.0%…0回 90.0%以上100.0%未満…1回 80.0%以上90.0%未満…0回 80.0%未満…0回

2) ファシリテーターによるいけんひろば運営へのフィードバック結果

アンケート形式以外のいけんひろばでは開催後すぐ、参加したファシリテーターとの座談会形式でフィードバックを受けた。なお、いけんひろばごとに開催手法が異なるため、開催手法に応じてフィードバックを活かす必要がある点には留意が必要である。主な内容は図 14のとおり。

図 14 ファシリテーターからの主なフィードバック

<p>評価できる点 今後も継続すべき点</p>	<ul style="list-style-type: none"> • こども家庭庁の担当職員が班の中にいたのが良かった。担当者に質問したり、質問されたりすることで自分の意見が伝えられたと思う。 • みんなそれぞれでそれぞれがアイテムを持ち寄ったのがよかった。場づくりにそれぞれが主体的にかかわったのが一番ありがたい大きかった。 • エクセルシートで「質問してほしいこと」が詳細にあり、省庁の担当者の方がどの視点を気にしているかが分かった。問いがあればあるほどファシリテーターはやりやすいと思う。 • 事前資料がすごく良かった。なかったらこんなに話せなかった。 • 参加者はまだ話し足りないという感じだった。しかし、少し話し足りないくらいで切り上げるのがいいのではないか。こどもたちの興味関心をひきつける意味では有用だと思った。
<p>改善点 今後検討が必要な点</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 参加者の中から専門性が高い内容についてはガイドがあると話しやすいという話があったが、ファシリテーターがコンテンツのガイドをすると、そこにはまってしまった。省庁の担当者との役割分担ができるといいなと思った。 • 事前説明会などでWebexに慣れる機会をもうけてもらったほうが良いと思った。 • 資料を基に時間内に進行はできたので、ボリューム的には問題なかった気がする。アンケートの回答として、「知れた」「知識が深まった」などが多かった。知れたところから意見に変えていく点に時間がかかる。インプットを増やすべきなのかと考えていた。 • 出席の返信だけではなく、早めの段階から参加させるのが大事。アンケートを書いたら参加するので、事前にアンケートを取る。事前のアンケートを書いたら参加してくれる。「参加します」という返信とともに、「あらかじめ聞きたいことを書いてください」など事前にアンケートを取るようになるとよい。 • グループ編成の基準は存じ上げないが、色々な地域から色々なこどもが参加しているグループの方が、実りのある話し合いになったと思う。 • 用意した話題をすべて話した後や、脱線したところにこどもたちの生の声が聞ける貴重な時間がある。政策に対する意見を聞きたいということでテーマについての意見を聞かなければという思いが強い一方、脱線したところにも重要な意見があるのだと理解した。しっかり聞いた方がいい・脱線しても良いというのは方針の問題でもあるので、そのあたりは事前に決めておきたい。

3) テーマ担当課アンケート結果

いけんひろばの開催後、テーマ担当課にいけんひろば実施後の感想や成果等を尋ねた。アンケート結果は図 15のとおり。なお、「2) ファシリテーターによるいけんひろば運営へのフィードバック結果」と同様に、いけんひろばごとに開催手法が異なるため、開催手法に応じてフィードバックを活かす必要がある点には留意が必要である。

1 の設問では、概ね、いけんひろばに期待していた結果が得られたとする結果となった。また、7 の設問では、いずれのテーマ担当課においても今後も事業を活用したいとする意向が示された。

本事業に対して成果が得られた点として、ふだん省庁で接点のないこども・若者の意見を直接聞くことができたという点や抜けていた視点を補うことができた等が挙げられた。

他方、成果が得られなかった点、改善すべき点等として、結果について報道に取り上げられにくいという点や、意見を聞いたことを対外的にアピールするために報道で活用できる写真をもらえるとよいといった回答があった。

また、運営に関する改善要望も挙げられた。具体的には、資料の公開有無の案内、オンライン接続時の音声トラブル解消、意見のとりまとめの迅速化等の回答があった。

図 15 テーマ担当課アンケート結果

主なアンケート項目	主な回答
<p>1 いけんひろばについて、期待していた結果は得られましたか。(n=7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 期待していた結果以上の結果が得られた…14.3% 期待していた結果が得られた…85.7%
<p>2 成果が得られた点</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもからの裏表のない鋭い意見は、大人では思いつかない内容だった。 いけんぶらす含めて、4000件近い意見が得られた点 子ども向けホームページの制作にあたり、訴求対象の子どもから直接意見を伺えたことは有意義だった。 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン答申の策定に関して、子ども若者からの実際の声を聴くことで、答申策定に関して、よりよい内容への記載とすることができたことや、実際に抜けていた視点等を補うことができた。 多様な年齢からの意見、部会の中でのヒアリングができたこと、委員がファシリテーターとして参画できた。 普段はなかなか聞くことができない中高生の意見を聞くことができた。 接点が少なく、意見を聞くことが難しかった中高生の意見を聞くことができた。また、(対面で特に)活発な議論が行われ、様々な意見を幅広く得ることができた。
<p>3 成果が得られなかった点</p>	<ul style="list-style-type: none"> 得られた回答をより深掘りしていく中で、新たなインサイトが見つかったかというそうではなかった。 結果について報道に取り上げられにくく、幅広く知ってもらうことがなかなか難しい。
<p>4 いけんひろばで良かった点</p>	<ul style="list-style-type: none"> 報告資料とFB資料の作成の際に、アイコンなどを使って分かりやすく親しみやすいレイアウトにしてくださった。 多くの方に意見聴取にご参加いただけた。 上手にこどもに意見を聴いていただけていたと思います。 作成いただいた資料のみやすさ。 委託業者との実施者との間に入り、丁寧に調整していた点。特に事前事後。 ファシリテーターの方々に議論をうまく先導していただき、メンバーが自由に発言、議論できたのはありがたかった。 ファシリテーターの方々が発言しやすい雰囲気づくりを行ってくださったため、こどもたちの議論が期待以上に活発に行われた。
<p>5 いけんひろばで改善すべき点</p>	<ul style="list-style-type: none"> どの資料がHP公開資料なのか、はっきり事前に教えてもらいたかった。 部会でのヒアリングというイレギュラーで想定していた音声等のトラブルは改善できると、部会や委員会での実施がより進むと感じる。 意見を取りまとめるのは大変だが、「いけんのまとめ」、「報告書資料」をもう少し早くできた方が良い。
<p>6 こども・若者の意見を聴いて感じた意義や感想、もしくは課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 意見を聴くテーマについて、こどもが意見を言いやすいように工夫する必要があると感じた。 こどもを訴求対象とする事業においては、こどもに直接意見を伺える本機会は重要だと思います。 こども若者の意見を聴くことで、抜けていた視点を補完できるという点は良かった。 バイアスを持たずにファシリすることは重要だが、専門性や趣旨を十分に理解したファシリテーターによるヒアリングでは、深い洞察(＝こどもの本音や思いに迫れる)を得る可能性が高まると考えるため、このバランスをどう設計するかどうかが重要であると考え。意見を聴くということが形骸化しないためにも、大変重要ではないかと思う。 若い世代が農林水産業に関心を持っていることを知ることができたのは良かった。 意見を聴いたことを対外的にアピールするためにはその場の状況がわかる写真などが必要であり、個々の顔がわからないような写真であれば報道で活用できるなどの配慮をいただければ今後さらに活用しやすいものになると感じました。
<p>7 今後もこども若者★いけんぶらすを活用したいと思いますか。(n=7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活用したいと思う…100.0%

4) ぷらすメンバー全員アンケート「いけんぷらすをより良くするために」結果

今後の「こども若者★いけんぷらす」をより良いものにするため、いけんぷらすに対する感想や参加歴等を尋ねるアンケートをぷらすメンバーに対して実施した。実施概要は表17のとおり。

表 17 いけんぷらす改善アンケート 実施概要

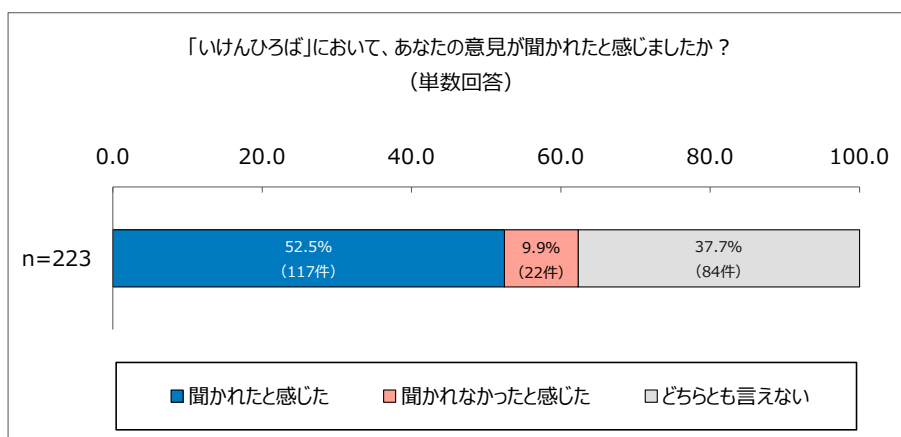
調査テーマ	いけんぷらすをより良くするために
調査対象	ぷらすメンバー登録者
回答数	368件
調査方法	Google Formsを用いたWEBアンケート調査
調査期間	令和6年1月9日（火）～1月31日（水）

当該アンケートのうち、いけんひろばの実施に係る主な回答結果を以下に抜粋する。

【参加したいけんひろばでの意見の取り扱い】

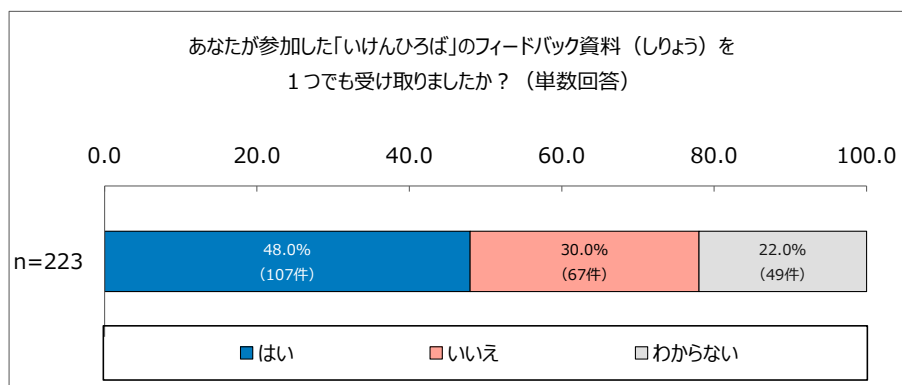
いけんひろばに参加したと回答したぷらすメンバーのうち、いけんひろばにおいて意見が聞かれたと感じたと回答したぷらすメンバーは52.5%であった。

図 16 いけんひろばで意見が聞かれたと感じたか



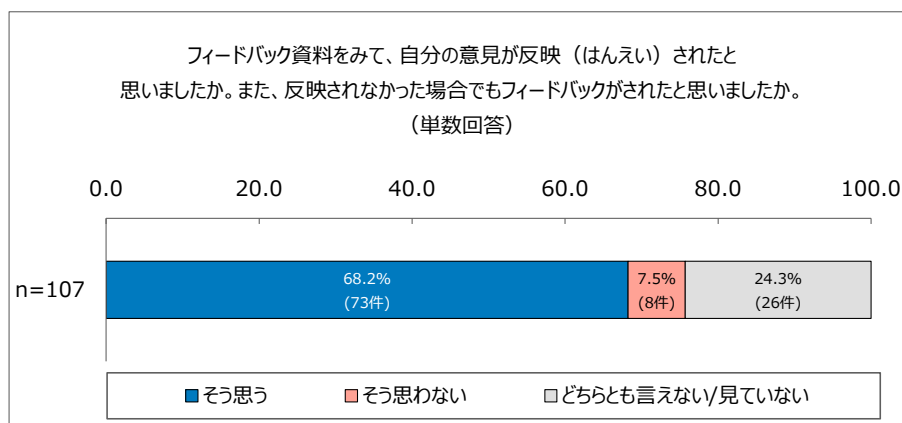
いけんひろばに参加したと回答したぶらすメンバーのうち、参加したいけんひろばのフィードバック資料を受け取ったと回答したぶらすメンバーは48.0%であった。

図 17 フィードバック資料を受け取ったか



フィードバック資料を受け取ったぶらすメンバーのうち、自分の意見が反映されたと考えたあるいは反映されなかった場合でもフィードバックがされたと思ったぶらすメンバーは68.2%であった。

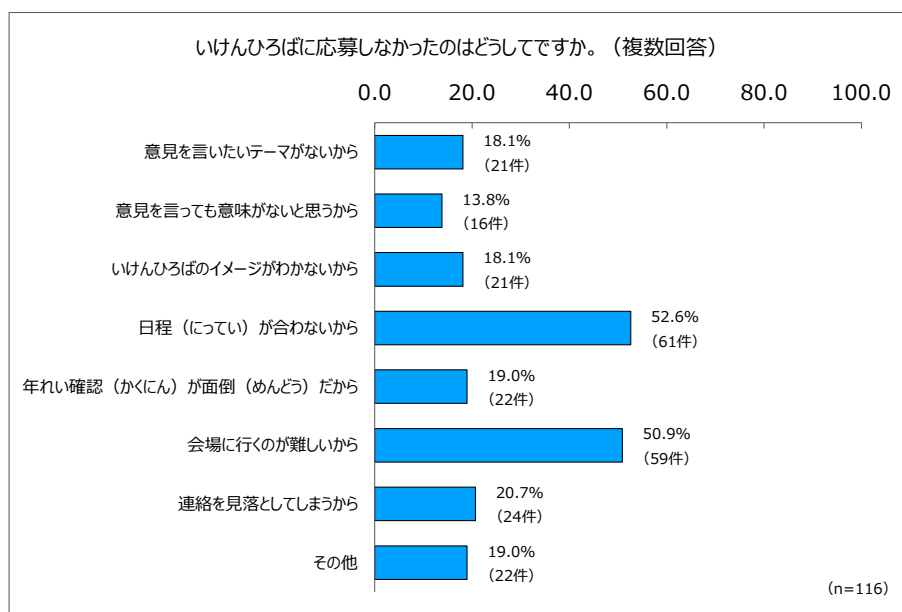
図 18 フィードバック資料でフィードバックがされたと思ったか



【いけんひろばに応募しなかった理由】

いけんひろばに応募したことのないがらすメンバーがいけんひろばに応募しなかった理由は「日程が合わないから」が最も多く（52.6%）、次に「会場に行くのが難しいから」が続いた（50.9%）。

図 19 いけんひろばに応募しなかった理由（複数回答）



4. 業務④ ぽんぱーによる活動の支援

1) ぽんぱーの活動実績

ぽんぱーを支援した結果、各班において班活動が進められた。活動結果の一部を以下画像にて例示する。

表 18 各班の活動実績

班名	活動実績
運営班	<ul style="list-style-type: none">• ぽんぱー同士の連絡のために使用するツールの選定• ぷらすメンバー全員アンケート「いけんぷらすをより良くするために」の設問の検討• ぷらすメンバーの会（令和6年2月24日（土））の企画立案、当日運営
企画班	<ul style="list-style-type: none">• いけんひろばの開催テーマを募集するためのアンケート（ぷらすメンバー向け）の実施• ぷらすメンバーから募集したテーマのいけんひろば「安心して子どもを産み育てられるために、どんな社会になってほしいですか？」の参加者募集要項作成・当日運営の補助
広報・情報発信班	<ul style="list-style-type: none">• いけんひろばを開催している様子の取材• 取材結果等のSNSでの発信

図 20 活動報告会 発表資料 (運営班)

ぼんぱー運営班からの活動報告 ～いけんぷらす編

・いけんひろばに参加して場づくりに関する意見を出した

→実際に行われたいけんひろばに参加し、参加しやすい場づくりについて考え、意見を提出した。



・ぷらすメンバー向けアンケートの実施

→メールやアンケート内容を確認し、こども・若者目線で分かりやすいメールの文章アンケートの質問文にした。



・いけんひろばの実施時期やアンケートの内容について意見を出した

→いけんひろばの実施時期の優先順位を設定したり、アンケートの内容を小さい子でも分かるような文章にするように提案した。

・ぷらすメンバーの会を開催した

→2月24日に、小中学生向け、高校生以上向けに分けてぷらすメンバーの会を開催した。いけんひろばや、ぼんぱーの説明を行い、ぷらすメンバーの質問に対してリアルタイムで回答しました。



ぼんぱー運営班からの活動報告 ～ぼんぱー運営編

・オープンチャットの提案

→こども家庭庁側からのメールだけでなく、ぼんぱーや大人の方がより会話しやすい環境をつくることできました。



・班会議や、合同会議の司会を担当

→大人の人に任せきりではなく、ぼんぱー主体で動くことができた。



図 21 企画したいけんひろばの募集要項（企画班）

いけんひろば

申込締め切り
2月2日（金）
18時まで

安心して子どもを産み育てられるために、 どんな社会になってほしいですか？

ぶらすメンバーから提案のあったテーマについてのいけんひろばをはじめて開催します！！

ぶらすメンバーあてに行ったアンケートの結果をもとに、「みんなのパートナーぼんばー」のみなさんと相談してテーマを決めました。多くのぶらすメンバーの参加をお待ちしております！！

テーマについて

ぶらすメンバーのみなさんにも意見を聞きながら、2023年の12月に「こども大綱」が完成しました。国では、「こども大綱」をもとにこどもに関する取組をすすめていきますが、その取組をすすめる上で、みなさんの意見を聴きたいです。

募集する年代と人数

**ぶらすメンバー全年代
30人でいど
を募集します！**

高校生や大学生のみなさんにとって
話しやすい質問も用意しています！

開催日時など

**対面とオンラインでやります！
（オンライン）**

2月23日（金・祝）10時～12時
Webexを使ってやります
（対面）

2月23日（金・祝）14時～16時
こども家庭庁でやります
（東京都千代田区霞が関3-2-5
霞が関ビルディング22階）

話し合う方法

6つの班に少人数で分かれてもらい、それぞれの班で違う内容について話してもらいます。
みなさんが安心して参加ができるようにきき役のおとな（ファシリテーター）がさまざまな工夫をします。

安心して参加してください！

みなさんに話し合ってもらう6つのテーマ

①班：遊びや体験活動などについて
質問（イメージ）
○公園やプレーパークなど、どんな遊び場が近くにふえてほしいですか？

②班：こどもまんかまちづくりについて
質問（イメージ）
○こどもがくらしやすいまちは、どんなまちだと思いますか？

③班：共働き・共育でなどについて
質問（イメージ）
○大人になって、どのように仕事をし、どのように子育てをしたいですか？

④班：地域子育て支援、家庭教育支援について
質問（イメージ）
○子育ての悩みを相談しやすい相手や場所、方法はありますか？

⑤班：こどもの貧困対策について
質問（イメージ）
○貧困の状態にあるこどもが、支援を受けやすくなるには、行政として、何ができると思いますか？

⑥班：子育てや教育に関する経済的負担の軽減について
質問（イメージ）
○自分や周囲の人が、子育てや教育に関する経済的負担を感じた（ていた）経験はありますか。その時どういった支援が必要でしたか？

今後の予定

2月2日（金）：募集のしめ切り
2月6日（火）：参加者決定（抽選結果）のご連絡
2月21日（水）：事前説明会（オンライン）
【①班～③班】18時00分～18時45分
【④班～⑥班】19時00分～19時45分
2月23日（金・祝）：いけんひろば当日
【オンライン】10時～12時（集合は9時50分）
【対面】14時～16時（集合は13時50分）

みなさんからいただいた意見は、国の大人の会議の資料となり、その資料をもとに話し合いが行われます。

①～③を小学生～高校生の方は、④～⑥を高校生から社会人の方に話してもらいます！

図 22 こども若者★いけんぶらす 公式Instagram投稿例1（広報・情報発信班）

< 本文 >

ikenplus_kodomo.katei こんにちは！
「みんなのパートナー ぼんばー」広報班です。

◎今回はこども家庭庁の新しい取組「こども若者★いけんぶらす」について解説していきます！

「こども若者★いけんぶらす」とは？
こども・若者にかかわる様々なテーマについて意見を伝えられる（国の政策づくりなどに参画できる）取組です。

「こども若者★いけんぶらす」を行う目的は？
こども・若者が、政策に対して意見を伝えて、政策を決める過程に主体的に参画できること
政府が、こども・若者の意見を広く聴いて、制度や政策に反映し、制度や政策をより良くすること
社会全体にこの取組を広く発信することで、こども・若者の意見を聴くことの大切さについて理解をひろげていくこと

登録できる対象者は？
小学生世代から20代の方であれば、誰でもいつでも登録できます👏

登録をすると、「ぶらすメンバー」となり意見を伝える場「いけんひろば」に参加できます！
※私たちぼんばーも、この取り組みに参加する「ぶらすメンバー」の一員です👏

詳しくは、プロフィール欄のリンクから「ぶらすメンバー」に登録する方法ページへ！または「いけんぶらす 登録」と検索してください！🔍

#ぼんばー #いけんぶらす #ぶらすメンバー
2月26日

< 画像 >

①

国の政策づくりに関われる？

こども若者★ いけんぶらす ってなに？！

聞いてもメンバーに！

②

こども若者★いけんぶらすとは？

こども・若者にかかわる様々なテーマについて意見を伝えられるこども家庭庁の取り組みです

目的

- 政府がこども・若者の意見を広く聴く
- 制度や政策に反映しより良くしていく

○こども・若者が政策に対して意見を伝える

- 政策づくりの過程に主体的に参画できる

対象

小学1年生から20代の方！
だれでも、いつでも登録できます
登録したら若者ぶらすメンバー！

③

ぶらすメンバーに登録するには？

プロフィール欄のリンクから
「ぶらすメンバー」に登録する方法
ページへ！
または
いけんぶらす 登録
と検索してください！

④

THANK YOU!

気になる方は
いいね / フォロー
を
よろしくお願いします！

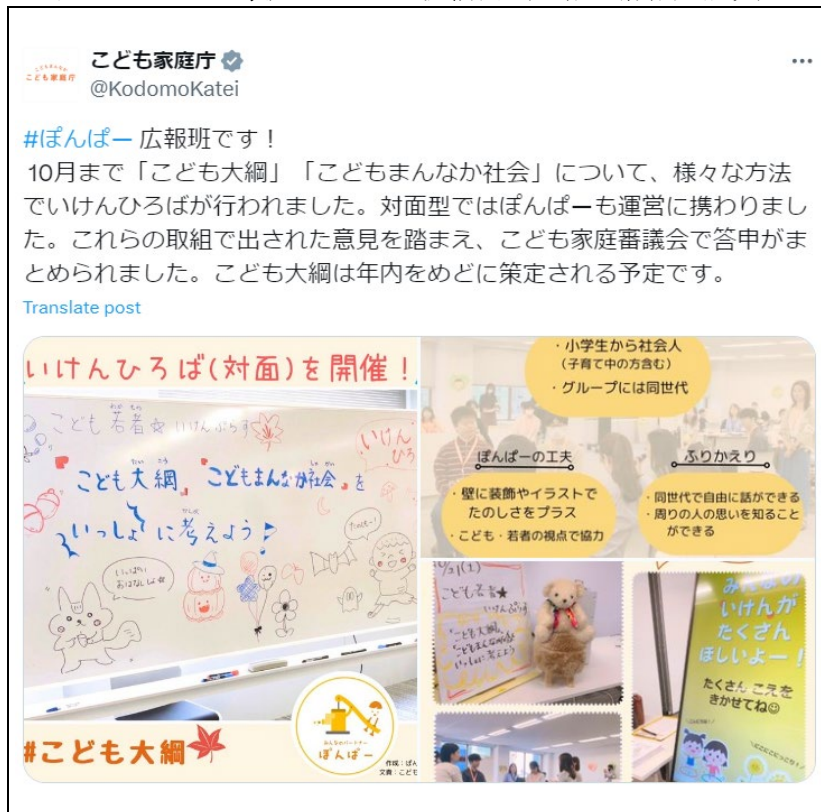
投稿はストーリーでシェアできます
こども家庭庁公式アカウント (@kodomo.katei) でも様々な情報を発信しています

53

図 23 こども若者★いけんぷらす 公式Instagram投稿例 2 (広報・情報発信班)



図 24 こども家庭庁公式X 投稿例 (広報・情報発信班)



2) ぼんぱーによる振り返り

ぼんぱーによる活動の振り返りは以下のとおり。

表 19 ぼんぱーによる活動の振り返り

- 私は、ぼんぱーになってみて普段は話せない年代の人と話せたり、普段はできない経験ができたりしたのがすごく楽しかったです。また、自分の学校や習い事の都合を考慮していただけるのも、できる範囲で活動できてよかったです。これから、もっといろんな人にぼんぱーのことを知っていただけたらいいなと思います。(運営班・中学生)
- ぼんぱーになってみて、自分の意見が尊重されていると感じたので、よかったです。ですが、世間にはぼんぱーの仕事に対して悪く言うかたがいらっしゃいます。今後のぼんぱーのためにも、できる限りぼんぱーを世間に公開したり、世間のみなさんの納得のいく形に変えていかないといけないのかなと思いました。(運営班・中学生)
- 第一回ぼんぱー運営班として、いけんひろばの運営のお手伝いや、ぼんぱーの運営等に取り組みました。月2回程度の運営班会議にて班員はもちろんですが、こども家庭庁・事務局・サポーターの大人の皆様とも意見を交換し、共通の認識を持って活動に取り組めたことがとても良かったと思います。(運営班・高校生)
- これまで国の取り組みというと、自分とは遠い場所で行われているものに感じていました。しかし活動に参加して、こども・若者に対して真摯に向き合ってくれる大人たちが取り組みを進めてくれるのだと知ることができました。すぐに目に見えた成果を上げることは難しいことも実感したけれど、参加できてよかったです。(運営班・高校生)
- 初めての取り組みということで、ぼんぱーも大人も試行錯誤を重ねた1年であったと強く感じた。活動では、ぼんぱーの意見を大人が尊重してくれた点が良かった。前例がない中での活動は難しかったが、前例を作れたという達成感は大きい。取り組んだことや出した意見で、少しずつでもこの制度がより良いものとなれば嬉しい。(運営班・大学生)
- ぼんぱーとして、私はぶらすメンバーの会のサムネを初めて作った。途中で活動をやめるなどして、みんなに迷惑をかけることもたくさんあったが、温かく迎えてくれる人ばかりだった。こども家庭庁の方々話す時間もすごく楽しかった。任期終了が悲しいが、これから仕事をするとき絶対活かせるかけがえのない経験ができた。(運営班・大学生)
- 初の事業に参加することができ、非常に良い経験になりました。様々な年代のメンバーがいたため自分にはない視点を持っている方々が居り、多くの気づきがありました！しかし、基本はオンライン上のみで会議を行うため、アイスブレイクが不十分だったと思います。来年度は関係作りに力を入れられると良いかもしれません。(運営班・社会人)
- 様々な活動をしている同年代の人がいて、視野が広がった。もっとできることがあるかもしれないと思い、今まで何となく考えていたことを、行動に移し、活動できるようになった。意見を言葉にして伝えることの尊さ、自分の考えを否定せずに聞いてもらえることの安心感を感じた。ぼんぱーでの経験は、一生の宝物になると思う。(企画班・中学生)
- 知識も経験も乏しい中、今の自分なりに子ども若者のために活動をすることができ、ぼんぱーに参加して良かったと思う。活動を通し、こども若者の意見が政治に関わる場に対する理解が深まった。認知度向上が今後のぼんぱーの課題だと思う。こどもが堂々と意見を言える場を作るために、ぼんぱーの存在が重要だと強く感じた。(企画班・中学生)
- ぶらすメンバーにいけんひろばのテーマ案を募集した際、それぞれの人がどのような課題を抱えてい

るのかを実際に可視化することができ、現在の仕組みではそれらの若者の意見を集めることがいかに難しいかを実感しました。ぼんぱーの活動を通じて、若い世代の意見を伝えるお手伝いができ、非常に学びの多い時間となりました。(企画班・高校生)

- ぼんぱーでは中学生から社会人まで日本各地から集まったいろいろな年代の人たちから刺激を受けながら活動することができました！企画班では主に2月の意見ひろば開催に向けてアンケートやテーマ決めなどを行い、実際に当日の意見ひろばにも参加することができ、ぼんぱーとしての1年間はとても充実していました！(企画班・高校生)
- 初の試みだったので、試行錯誤を重ね進めてきました。班活動では、こども家庭庁の方々からのフィードバックやメンバーの発言から多くの気づきを得ることができました。大臣にお会いしたり、YouTubeライブに参加したりと今までに無い挑戦もでき、参加して良かったです！この経験を今後活かしていきたいです！(企画班・高校生)
- ぼんぱーの活動を通して、他者から意見を聴き、現状を変化させていくことの重要性について、改めて学ぶことができたと感じています。今後の課題としては、より多くの方々に、より多様な意見を聴くことができるよう、「いけんひろば」の実施方法やテーマの募集方法について、さらなる検討の必要性があると考えています。(企画班・大学生)
- ぼんぱーの活動から、政策決定の一端を担うことの意義深さや充実感を得ることができました。特に、基本政策部会で有識者の皆さまに直接こども・若者の声を届けた体験は、とても素敵なものでした。年間スケジュールなど改善していける部分もまだありますので、歳を重ねるごとにより良い活動にしていだければと思います。(企画班・社会人)
- ぼんぱーになったことで同じような意見を持った人たちと交流することができてとても良かった。また、世の仕組みがどうやって出来ているか知ることが出来た。ただ、認知度がまだ低いという課題があると思った。(広報・情報発信班・中学生)
- 広報班として活動し、広報のやりがいや面白さを知ることができました。特に自分たちが考えた文章がこども家庭庁のSNSに載ることは、貴重な経験でした。活動のメインはオンラインではありましたが、皆さんで意見を考えたり話し合ったりする喜びを感じました。(広報・情報発信班・中学生)
- 私は今年1年間、ぼんぱーの広報班として「全国にいるメンバー」と「日本全国や国を超えた誰かに届くかもしれないSNS」で発信する、というなかなかできない経験ができ、楽しかったです。また、自分では気づかなかった点を、今までの経験が異なるメンバーに見てもらい指摘してもらうことは、私自身とても刺激的でした。(広報・情報発信班・高校生)
- こども若者★いけんぷらすは、子どもや若者の意見を聞き、国の施策に反映することはもちろん、子どもや若者の社会参画を進めることができる素晴らしい取り組みであると思います。その中の運営として携わることができ貴重な体験をすることができました。(広報・情報発信班・高校生)
- いけんぷらすの事業目的に共感し、広く知られて欲しいとぼんぱーに参加しました。携わらせて頂いた広報は頻度や手段の多様さ等まだ伸び代があるかと思いますが、当事業の必要性について思いを同じくする中学生～20代の皆さんや真剣に話を聞いて下さる職員の方々と一緒に活動でき、沢山の嬉しい気持ちや刺激を頂きました。(広報・情報発信班・大学院生)
- 率直にワクワクするような活動でした！班活動の方向性から広報内容まで、メンバー同士自由に意見を出し合い、新たに挑戦できた点が楽しかったです。思いを形にしていく難しさもありましたが、活動を前進させることができて良かったです。若者世代の生の声を活かす、ぼんぱーのような取り組みがもっと広がってほしいです。(広報・情報発信班・社会人)

3) サポーターによる振り返り

サポーターによる活動の振り返りは以下のとおり。

表 20 サポーターによる活動の振り返り

- 良かった点は、こども・若者自身が「やりたい」と思ったことを自分たちの手で形にできていたことである。ぶらすメンバーの会といった取り組みが子ども若者に伝わりやすく形になったこと・それが子ども若者の主体的な参画によって実現したことが、みんなのパートナーぼんばーの成果であると感じる。
改善できるとよい点は、事務局における子ども若者の役割の明確化である。子ども若者に主体的に活動してほしいというねらいから、当初、特に運営班においては大人からの提案があまりされていなかった。しかし、そのことにより子ども若者が「何をすればいいのか考えられない」といった意見形成段階での躓きが生じることになった。子ども若者が事務局の一員となることの期待値・その達成のための情報提供を始めとした土台作りをさらに整理していく必要がある。(運営班)
- 良かった点は、企画・運営を担う子ども若者たちの理想状態（ミニマム&マックス）を大人側で共通理解を持ったこと、それに基づいて大人達が何をできるといいか明らかにし、都度の関わりが理想に近づいているか検証していったことである。
改善できると良かった点は、こども・若者たちへの期待値と役割の整理、こども・若者および大人との関係性構築である。前者は企画・運営を担う上でどんな人材に、どれくらいのコミットメントでどんな役割を担ってほしいかを明らかにし、本人が理解した上で参加してもらうこと。加えて、なぜこの取り組みに関わるのかという本人の想いも聞いた上で適性を判断できると、活動する上での納得感やミスマッチを防げるのではと感じた。後者はお互いに気軽に意見を言いやすくなるための機会や仕掛けを早い段階から設けることで、チームでの活発な意見交換や不安や困り事を話しやすくなる場になると感じた。(運営班、企画班)
- 良かった点は、3者（こども家庭庁、事務局、サポーター）で役割分担を行ってぼんばーと関わったことである。こども家庭庁や事務局は政策への反映のしやすさや実現可能性という観点からぼんばーの意見にフィードバックを行ってくださったからこそ、サポーターはぼんばーに寄り添って意見表明のサポートを行う役割を担うことができた。
改善できるとよい点は、意見形成段階における情報提供についてである。今年度は初年度ということもあり、事業について大人側でも設計しきれていなかったために情報提供が十分にできず、その結果、ぼんばーが見通しを持って意見形成ができないことや、ぼんばーの意見が反映されきれないこともあった。1年間の流れや制約を含めて情報提供を丁寧に行うことで、よりこども・若者の意見形成や意見反映が進むと考えられる。(企画班)
- わたし自身は対話を促す役割でもありつつ、ぼんばーと共に悩む時間も持てたことがありがたかったです。最初、ぼんばーの声が出づらかったのですがその要因の一つとして、声を聴こうとするあまりサポーターが口をつぐんでおり、ぼんばーが話しづらかったということが考えられます。サポーターも時に意見を出し、時に共に悩む姿勢でいることで、ぼんばーから声が出てきやすくなったように感じます。年度末ごろには、ぼんばー自身がファシリテーションをし、周りのぼんばーの声を聴こうとする場面もあり、今後もそのようなぼんばーの動きを目指せると良いと感じます。
わたし共がサポーターとして参画したのが第2回班会議後だったのですが、ぼんばー毎の班が決定する前後のタイミングから関わればより良かったと思います。ぼんばーのニーズや得意不得意、忙しくなる時期などを知った上で参画することで、齟齬を少なく、より円滑に進めていけたらと思います。
(広報・情報発信班)

- 良かった点は、ぼんぱ一の皆さんと事務局で和気あいあいと温かい雰囲気です活動をする事ができたことだと感じています。特に、ぼんぱ一の皆さんからの提案で班活動の日程を増やして隔週での開催を目安にすると、顔を合わせる機会が増えたことでより活発に意見が出るようになりました。また、広報班としてはSNSの投稿をゼロベースで考えることができ、実際に発信できて良かったです。一方で、改善できると良い点としては、ぼんぱ一の皆さん一人ひとりとのコミュニケーションを重点的に行うことです。今年度サポーターとしては終了時の1on1で話す時間がありましたが、開始時からぼんぱ一の皆さんと個別に話しておくことで、一人ひとりの期待感や得意不得意などを把握することができ、それぞれに応じたフォローができるようになるように感じました。貴重な機会をありがとうございました。(広報・情報発信班)

5. 業務⑤ 地方自治体におけるこども・若者意見反映の取組サポート

1) こども・若者意見反映サポート事業

地方自治体へのファシリテーターの派遣人数は、延べ14人であった。

また、第2期に派遣を行った2自治体での意見聴取の場を視察した地方自治体は、延べ17自治体であった。

具体的な取組内容についてはこども家庭庁ホームページを参照されたい。

2) 「地方自治体におけるこどもの意見表明・反映の推進」研修

研修の感想等を尋ねるアンケートを、研修に参加した地方自治体担当者に対して実施した。主なアンケートの結果は以下のとおり。

図 25 地方自治体の規模

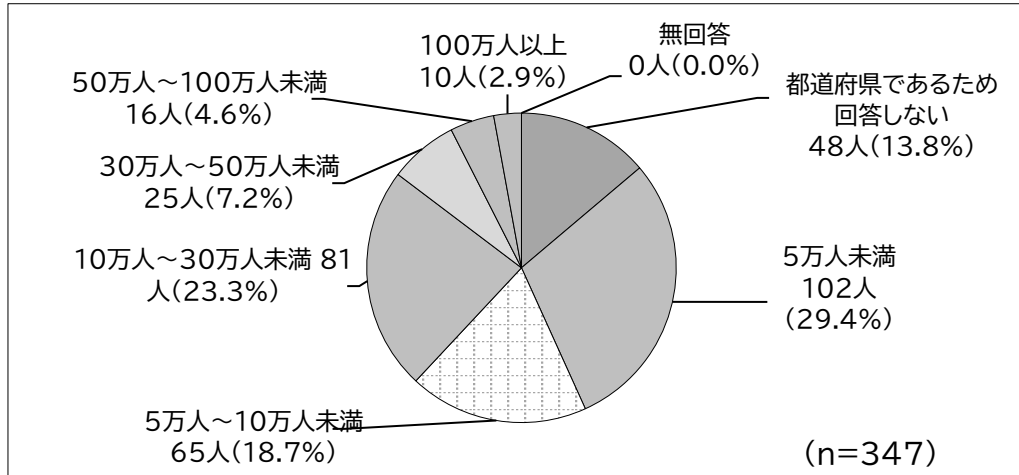


図 26 研修全体の満足度

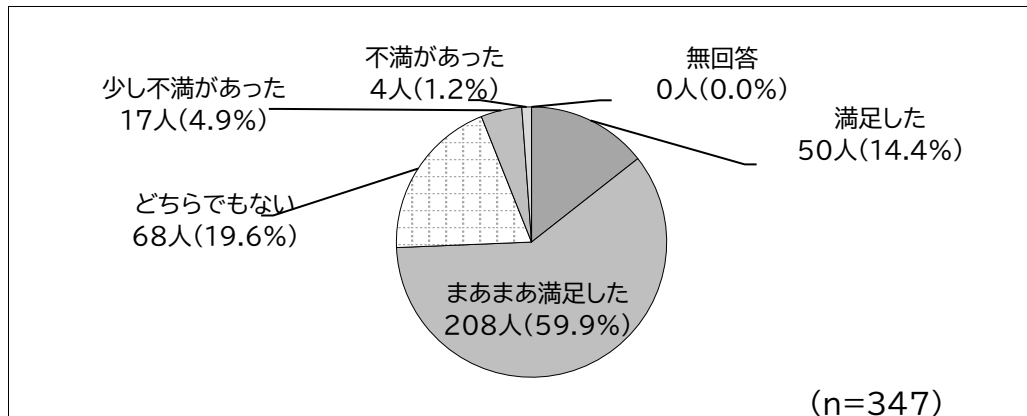
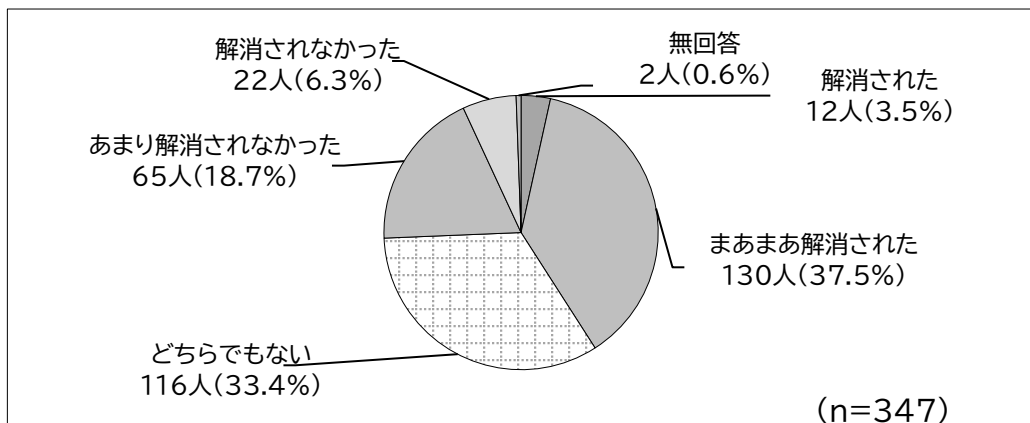


図 27 申込時に回答いただいた「気になる課題」は解消されたか



第IV章 考察

1. 考察手法

業務①ぷらすメンバー登録管理、業務②ファシリテーター登録管理、業務③いけんひろば運営、業務④みんなのパートナーぼんぱーによる活動の支援、業務⑤地方自治体におけるこども・若者意見反映の取組サポートにおいて、事業の概要（Ⅱ章）及び事業の実施結果（Ⅲ章）を検討材料として考察する。考察の結果として、それぞれの業務における成果と課題・対応案について記載する。

2. 各業務の振り返り

1) 業務① ぷらすメンバー登録管理

（1）成果

【成果：登録者について正確な情報管理を行うことができた】

新規登録申請・退会申請・登録情報変更申請の日次での対応や、問い合わせメール対応担当者による即時的な問い合わせ内容の確認、そして登録者管理に関する重要な部分においては、原則2人以上でその内容を確認するといった仕組みを通じ、登録者について正確な情報管理を行うことができたといえる。

（2）課題・対応案

【課題①：登録手順がわかりづらかった】

登録者管理を行う上では、年齢確認の書類のみが提出され登録情報がない場合や、情報変更申請がされたが登録情報がない場合などが複数確認された。このことから、登録を望みながらも、登録手順の複雑さにより誤った申請を行ってしまったり、途中で登録を諦めてしまったりするケースがあったことが推察される。

【対応案①：わかりやすく簡単に登録が可能な仕組みづくり】

登録希望者にとってわかりやすく、簡単に登録が可能な仕組みづくりが必要である。例えば、一目で操作方法がわかるようなインターフェースを持ち、少ないステップで登録が可能なウェブサイトの立ち上げなどが考えうる。本事業においては登録者数を増加させることが、事業の趣旨に鑑みて重要であるため、登録のハードルを下げるための施策については優先度が高いと考えられる。

【課題②：受託者の管理工数が膨大であった】

登録者管理を行う上での受託者の管理工数が膨大であった。要因として、年齢確認や

登録者管理マスタの情報更新について自動で行うことができず人による作業であったことや、いけんひろばの募集を含むぷらすメンバーへの一斉周知の手法としてメールの送信が前提となっていることが挙げられる。

【対応案②：システムを活用した登録者管理】

顧客管理システムといった何らかのシステムにて登録者管理や登録者への周知を行う仕組みにすることで、効率的に管理ができ、受託者による人的ミスの防止や管理工数の削減につながると考えられる。

2) 業務② ファシリテーター登録管理

(1) 成果

【成果：ファシリテーターの存在が、いけんひろばの参加者にとって良い場づくりに寄与した】

Ⅲ. 3. 1) いけんひろば参加者アンケート結果で示したとおり、「ファシリテーターやスタッフの関わり方やふるまいについて、どう思いましたか？」という設問に対して「とてもよかった」または「よかった」と回答した参加者の割合は、すべてのいけんひろばで80.0%以上であった。

ファシリテーターが、意見を安心して表明できる場づくりに寄与した点は成果だといえる。

(2) 課題・対応案

【課題①：登録ファシリテーターの不足】

一部のいけんひろばでは募集締め切りまでに必要なファシリテーターの人数が集まらず、募集開始後に何度もリマインドを行い、当日には人数が足りるように調整している状態であった。

必要なファシリテーターが集まらない要因の一つには、登録ファシリテーターの人数が十分ではなかったことが考えられる。さらにその背景には、こども・若者の意見表明に特化した知識をもつ人物（ファシリテーター候補となる人材）が少ないことが考えられる。

【対応案①：モデルプログラムに沿ったファシリテーター養成】

令和5年度に実施されているこども家庭庁「ファシリテーター養成プログラム作成のための調査研究」では「こども意見ファシリテーター」の養成研修のモデルプログラムが検討された。この内容を踏まえ、令和6年度以降、政策に対するこどもの意見聴取に特化したファシリテーターの養成を国や地方自治体において積極的に進めていくことが望ましい。

【課題②：ファシリテーターのスキルセットの差】

ファシリテーターのスキルの向上が重要と考える。今年度実施したいけんひろばの中では、「生きづらさ、自殺したいという気持ちになった人に必要な支援について」のようにテーマ自体がセンシティブな場合や、社会的養護を受けているこども・若者が意見聴取の対象となる回などは、意見聴取にあたって参加者への細やかな配慮が必須であり、高いスキルや豊富な経験を持った者をファシリテーターとして確保する必要がある。一方、いけんひろばでの様子を見ていると、登録ファシリテーターによって得意な場や

テーマ、意見聴取や意見表明支援のスキルにはばらつきがあった。

また、国の政策に反映するために意見を聴くという場面で、テーマに沿って必要な意見を聴取しなければならないというプレッシャーを感じるファシリテーターもいたと推測され、それが聴き方に影響する場合も見受けられた。一部ではあるが、ファシリテーターが自身の意見を多く述べてしまうこともあった。いけんぷらすの目的やどのように聴いてほしいのか、また参加者からの感想などをファシリテーターに伝え、フィードバックをすることが必要だと考えられた。

加えて、Ⅲ章の3. 3)におけるテーマ担当課アンケート結果のとおり、テーマ担当課からは、ファシリテーターの中立性と専門性のバランスの難しさについても指摘があった。テーマや状況に応じて必要なバランスを取れるファシリテーターが必要である。

【対応案②：ファシリテーターの養成と適切な配置】

対応案①に記載のとおり、政策に対するこども・若者の意見聴取に特化したファシリテーターの養成を国や地方自治体において積極的に進めていくことで、配慮を要するテーマや一定の属性を持つこども・若者から意見聴取できるスキルを持つファシリテーターの確保を目指していくことが望ましい。

また、人によって得意とする年代やテーマへのアプローチ方法が異なることを踏まえ、事務局として特性を把握したうえでの適所への配置が必要だと考えられる。

3) 業務③ いけんひろば運営

(1) 成果

A. 運営

【成果①：延べ2,650名相当のぷらすメンバーの意見を集めた】

Ⅱ. 4. 1) (1) いけんひろば一覧で示したとおり、いけんひろばへの参加人数は参加者が対話する形式（対面・オンライン・チャット・出向く型）の合計では延べ456名、アンケート形式では延べ2,194件であった。合わせて延べ2,650名相当のぷらすメンバーの意見を集められた。

【成果②：いけんひろば参加者の満足度が高かった】

Ⅲ. 3. 1) いけんひろば（対面・オンライン・チャット・出向く型）参加者アンケート結果で示したとおり、ぷらすメンバーが参加して良かったと思えたことは成果といえる。

参加して良かったとする意見では、自分の意見を参加者やテーマ担当課に伝えることができたからといった意見や、同年代の人が考えている多様な意見を聞いたからといった意見が挙げられた。

高評価につながった理由は、こども・若者が社会的なテーマを気兼ねなく話せる機会が多くない中で、いけんひろばにて他の参加者の意見を聞き、かつ自身の意見表明もできたことで、こども・若者同士が興味のあるテーマでコミュニケーションがとれたからではないかと推察される。また、対面・オンライン・チャットのいけんひろばでは、事前説明会やいけんひろば当日にテーマ担当課から聞いた施策説明が学びとなり、評価につながった面もあると考えられる。

いけんひろばでは、こども・若者が安心して意見を形成・表明できるように種々の配慮のもと運営にあたった。詳細はⅡ. 4. 業務③いけんひろば運営のとおりであるが、意見表明に向けた意見形成支援という観点では、参加者が理解しやすいテーマや質問の設定、事前にテーマに関する情報提供等を行った。また、意見を伝える機会における意見表明支援という観点では、多様な方がいけんひろばに参加することができるよう、様々な開催手法を重層的に用意し、話しやすい規模でのグループ編成、安心できるルールの設定等を行った。

【成果③：様々な手法を活用したことで意見表明の機会を担保できた】

成果①にも関連する内容として、対面だけでなくオンラインやチャット、アンケート、出向く型といった複数の形式でいけんひろばを実施したことにより、ぷらすメンバーが居住地にとらわれず、また匿名で意見を表明できる環境づくりを一定程度行えたことは成果といえる。

こども・若者が置かれている環境や自身の特性により、移動が難しい場合や発話・聞き取りが難しい場合等があり、希望する意見表明の方法にも多様性がある。この点に配

慮し、今後も多様なこども・若者の意見表明の機会を担保できるよう、様々な手法での意見聴取を継続し、必要に応じ新たな方法での意見聴取も検討していくことが必要である。

B. とりまとめ

【成果①：いけんひろばでの意見をすべてのぷらすメンバーや社会全体に発信した】

いけんのまとめは開催したすべてのいけんひろば、報告資料は32回のいけんひろば分について作成し、意見をすべてのぷらすメンバーや社会全体に発信をした。本事業の当初から実施すべき事項であるため当然のプロセスではあるが、概ね遅滞なく実施できた点は本事業における成果といえる。

しかしながら、フィードバック資料は16回のいけんひろば分の作成に留まった。フィードバック資料は、テーマ担当課におけるこども・若者の意見の政策への反映状況を踏まえて作成する必要があるが、事業年度内では意見を政策に反映する検討フェーズにあったテーマが多かったことによる。いけんひろばの開催から一定期間を経ても検討フェーズにあり、フィードバックが参加者に対してできていないいけんひろばがある点は今後の課題といえる。

【成果②：フィードバックがされたと感じるいけんひろば参加者が70%弱いた】

Ⅲ. 3. 4) で示したぷらすメンバーに対して実施したアンケートにおいて、「フィードバック資料をみて、自分の意見が反映されたと思いましたが。また、反映されなかった場合でもフィードバックがされたと思いましたが」という質問に対し、フィードバックがされたと思うと答えたいけんひろば参加者が68.2%であった。このことから、参加者に対するフィードバックが一定程度でき、成果があったものといえる。

(2) 課題・対応案

A. 運営

ア. 全体

【課題①：多様な参加者の確保】

ぷらすメンバーの登録者約4,000人の中で、「何度もいけんひろば（対面/オンライン/チャット）に応募・参加している人」が多数見られた。

複数回の参加者が多いことは、一度参加した際の満足度の高さを裏付ける証左であるため望ましいことであるが、多くのぷらすメンバーに参加してもらい、政策に多様な意見を反映することが大切であるため、いけんひろばに新規に参加するぷらすメンバーを増やしていくことが課題である。

Ⅲ. 3. 4) で示したぷらすメンバー向けアンケートでは、いけんひろばに応募しな

かった理由について「日程が合わないから」「会場に行くのが難しいから」「連絡を見落とししてしまうから」等が挙げられた。

【対応案①：いけんひろば開催日程の早期公開、重層的な開催方法の継続等】

いけんひろば参加者を増やしていくため、これまでにいけんひろばに参加していないぷらすメンバー向けの新規参加を促す施策として以下が考えられる。

- ① スケジュール確保のため、ぷらすメンバーに対して早期にいけんひろばの開催日程を示す。令和5年度はいけんひろばではおよそ1か月前に参加者募集を始めていたため、例えば1.5か月～2か月ほど前からの募集とできるようにすることが考えられる。
- ② ぷらすメンバーの居住地やいけんひろば参加で生じる拘束時間による参加へのハードルを減らすため、様々な手法や地域での開催を一層進める。対面は、令和5年度は1回を除いては東京開催であったが、東京以外での開催を増やすことが考えられる。オンライン・チャット・アンケートも各形式に応じたメリットがあるため、複数を組み合わせることをテーマ担当課と相談し、多様な参加者が応募しやすい開催とすることが重要である。
- ③ 応募中・実施予定のいけんひろばが見える化する。いけんひろばの参加者募集は都度、ぷらすメンバーへのメール通知としていたが、メールのみでは見落としが生じやすい。そのため、いけんひろばの情報がまとまったプラットフォームを構築し、プラットフォーム上で応募中・開催見通しのいけんひろばが一覧できるように設計することで、応募可能ないけんひろばや興味を持てるテーマのいけんひろばの状況をぷらすメンバーが逐次確認できるようにすることが考えられる。
- ④ いけんひろば開催時の様子を写真で周知する。いけんひろばに応募しなかった理由として「いけんひろばのイメージがわからないから」という回答も多く見られた。こども家庭庁ホームページや上記③で記載したプラットフォーム等でいけんひろばの様子を発信していくことは重要と考えられる。ただし、写真についてはⅡ. 4. 2) 運営の方法と工夫「手法：対面」で述べたとおり、肖像権やプライバシーに十分注意する必要がある。
- ⑤ 過去に開催されたいけんひろばでの参加者の感想、意見の政策への反映状況を周知する。いけんひろばに応募しなかった理由として「意見を言っても意味がないと思うから」という回答も多く見られた。意見がいけんひろばで聞かれたという感想や、意見が政策に反映されたという点を④同様、こども家庭庁ホームページや上記③で記載したプラットフォーム等で発信していくことが応募者を増やす上で必要な取組と思料される。

上記施策は、ぷらすメンバーでないこども・若者に対して、いけんひろば参加への興味関心を高め、登録を訴求する施策としても有効と考えられる。

【課題②：理解しやすさや当事者性に配慮したテーマ設定・当日の質問の構成】

Ⅱ. 4. 2) 運営の方法と工夫で示したとおり、こども・若者が理解しやすく、答えやすいテーマ設定・当日の質問構成とするように調整しているものの、こども・若者に身近でないテーマにあっては、なお参加者が話しにくい様子のいけんひろばも見られた。

【対応案②：抽象度の高いテーマの場合におけるぼんぱーやファシリテーターによる設問チェック】

いけんひろばのテーマ設定を行う設計段階で、現在はこども家庭庁職員及び受託者がこども・若者にとって理解しやすいか等の検討を行っている。しかし、いけんひろば当日にこども・若者がより意見表明をしやすくできるよう、今後は、抽象度の高いテーマのいけんひろばにおいては、設計段階でテーマや設問の構成が「話しやすいか」、「回答負担が大きくないか」等について、こども・若者であるぼんぱー、またはファシリテーターからこども・若者目線での意見をもらう（設問検討の打ち合わせに同席してもらう等）ことも一案と考えられる。

【課題③：参加者アンケート結果・ファシリテーターからのフィードバックの活用】

参加者アンケートの主な結果はいけんひろば各回の報告資料の末尾に掲載した。事務局において運営の参考とするとともに、こども家庭庁ホームページでの報告資料の公開を通じて、参加者やテーマ担当課にフィードバックした。

また、ファシリテーターからもいけんひろばごとに事務局に対してフィードバックをいただいております。改善に役立ててきた。具体的には開催前にBGMを流すことや、いけんひろば会場での時計の配置、いけんひろばのグランドルールを会場内の目に見える場所に張り出す等、改善に活かしてきた。

一方で、アンケート結果・ファシリテーターのフィードバックともに、各回の内容の集約に至っていない点は課題といえる。アンケート結果を集約し、一覧できるようにしていない場合、テーマや参加者年代等によるアンケートの傾向や運営の改善施策を打った時の変化がつかみにくいと考えられる。ファシリテーターのフィードバックについても、事業全体の振り返り等を行う際、一覧できない場合は過去に同じ内容のフィードバックが複数あったか、過去に指摘のあった事項が改善されたか等が見えにくいことがある。

【対応案③：参加者アンケート結果・ファシリテーターからのフィードバックの集約】

過去の参加者アンケート結果・ファシリテーターからのフィードバックをそれぞれ1ファイルに集約することが必要と考えられる。

アンケートについては、結果（設問の回答割合や、運営改善等に関する個別意見）及びアンケート結果を踏まえて実施した改善施策を一覧できるように管理し、改善効果等を見えるようにできると良いと思われる。

ファシリテーターからのフィードバックについても同様に、課題提起のフィードバックとその対応状況等を1ファイルに集約することで期中のいけんひろば改善につながれると望ましい。

イ. 手法：対面

【課題：ふらすメンバーが参加しやすい対面会場での開催】

令和5年度の対面のいけんひろばは1回を除いては東京開催であった。ふらすメンバー向けアンケートでは、いけんひろばに応募しなかった理由について「会場に行くのが難しいから」の回答数が多くなっていた。対面で行う場合には東京以外の地域に居住するふらすメンバーも参加しやすい場所でも開催する必要がある。

【対応案：地方開催の増加】

今後の対面のいけんひろばでは、地方の子ども・若者がより参加しやすいよう、東京・大阪に限らず、より多くの地方都市においていけんひろばを開催することが重要と考えられる。令和5年度に蓄積したいけんひろば開催のノウハウを基に、地方開催を行う場合でもより効率的な運営ができるものと思われる。

ウ. 手法：オンライン

【課題①：参加者本人による意見表明の担保】

いけんひろばにおいてトラブルがあったわけではないが、オンライン参加の性質上、参加者のほかに画面外に保護者等の第三者が参加している可能性が否定できない。機器操作の補助をするのみの場合には意見形成・意見表明に支障がないものの、第三者がいる場合、いけんひろばにおいて参加者本人が自由に意見を表明できているか、判断が難しい場合がある。

【対応案①：参加者本人の意見を聞く場であることの周知徹底】

いけんひろばは参加者本人の意見を話す場であるため、参加者本人は自分の意見を話せば良いこと、他方、周囲にいる第三者は参加者本人の意見を尊重し見守ってほしいことを、事前説明会やいけんひろば当日において今後も継続して説明する必要がある。

あわせて、本人の意思に基づき、意見の修正や撤回ができることも周知が必要である。

【課題②：参加辞退者の低減】

対面での参加者に比べると、オンライン開催の場合にはいけんひろば参加を直前で辞退する方や当日連絡なく参加キャンセルする参加者が多く見受けられた。体調不良等はやむを得ないが、連絡を行った結果、いけんひろばの予定を失念していたため不参加となった場合も散見された。直前の場合は繰り上げ当選の調整も難しいため、参加辞退者

を低減させることが課題である。

【対応案②：開催前の参加可否念押し確認の実施、辞退者を見越した当選人数の調整等】

参加辞退者が多い場合、話し合うメンバーが少なくなり、活発な議論が行われなくなってしまう点が問題といえる。そのため、参加辞退者を低減させる方法と、参加辞退者が出てカバーする方法の2通りでの対応が考えられる。

参加辞退者を低減させる方法として、スケジュール忘れで不参加とならないよう、リマインドメールや電話により実施日時を連絡することは継続的に実施する必要がある。そのほか、登録者管理や登録者への周知を行うシステムの導入が今後検討される場合には、システム上で日程を通知することもあわせて考えられる。

そのほか、事前説明会に不参加だった参加者は、開催日時のインプットが少なくなり、参加への意識が薄くなる可能性があることから、上記のメール・電話・システムでの連絡により、いけんひろば前日ないし当日に念押し連絡を行うことも検討が必要である。

参加辞退者が出てカバーする方法として、一定の辞退者が出てカバーできるよう当選人数を多めに設定することや代替参加者を確保する都合から欠席連絡を早期にただけするように事前連絡しておくことも一案である。当選人数については、本年度の経験から落ち着いて話せる参加者層である場合、6名までであれば全員に話を聞きながらファシリテーションができる様子であった。

エ. 手法：出向く型

【課題①：意見形成の困難さ】

出向く型は他手法と異なり、参加者が自ら手を挙げて参加するタイプの開催方法ではないため、いけんひろばが何なのかを知らないまま来た参加者や、「意見を出したい」という気持ちが特段強くない参加者など、意見表明をしようという意思を形成するまでに時間を要する層が存在する。そのため、参加者や質問の内容によっては即座に答えることが難しい様子が見られたり、途中で帰ってしまったたりすることがあった。また、ファシリテーターと一緒に遊んだり雑談をしたりして一定の時間をかけながら信頼関係を構築した後に意見表明を始める参加者も見られた。

【対応案①：意見形成のサポート、質問内容の工夫】

意見形成をサポートし、意見表明を促すための施策として以下が考えられる。

- ① 事前にテーマを理解して自分で考えをまとめておかないといけないような質問や漠然としすぎている質問を避ける、事実を聞く質問から始めて徐々に深掘する、こども・若者自身が主語で（自分の目線で）答えられるような質問をするなど、参加者が答えやすい質問になるよう工夫する。質問をし続けるのではなく、途中で雑談や遊びを交えたりするなど、参加者が飽きないよう工夫する。

- ② 信頼関係を構築する時間を設け、参加者本人が「意見を表明してもよい」という気持ちになってから質問をする。
- ③ 児童館など、参加者の興味関心を惹くもの（遊具やおもちゃなど）がある場所では、いけんひろばに対してなかなか関心を持ってもらいづらく、参加者が集まりにくいいため、ホワイトボードに意見を聞きたい内容を書いておき、通りがかったこども・若者たちに声をかけながら街頭インタビューのような形で意見聴取を行う。（長時間拘束を避ける）
- ④ おもちゃなどで遊びながら意見を言えるような環境、こどもから見て「楽しそう」と感じる環境を構築する。

【課題②：施設や団体等を通していけんひろばを実施する際の懸念】

特に施設等で開催する場合、いけんひろばの実施中に施設職員など参加者にとって身近な大人が近くにいると、参加者が意見表明に躊躇してしまうことが考えられる。

同様にいけんのまとめの確認時に、その内容が施設職員などの目に触れてしまうのではないかと懸念し、参加者が意見表明に躊躇してしまうことも考えられる。

【対応案②：いけんひろば開催時やいけんのまとめ確認時の配慮】

いけんひろばの開催時、施設等の職員には参加者の意見が聞き取れない程度の距離感で見守ってもらうよう伝える。

また、参加者に対していけんのまとめの確認依頼をする際には、施設等の職員を通さない方法をとるよう工夫する。例えば、こども家庭庁の職員やファシリテーターが再度訪問して参加者に直接確認する、封書にいけんのまとめを入れて修正点があれば返信用封筒で送ってもらうようにするなどの方法が考えられる。

オ. 手法：チャット

【課題：テキストベースでの意見交換の難しさ】

事後アンケートにて「意見を言うのが難しかったと感じた」と回答した参加者からは「どんどん意見が出ており、目を通すことが難しかった」や「自分が投稿したころには次の話題に行ってしまった」、「誤解が起きないか、表現が適切か等に気遣いながら文章を推敲した結果、言いたいことがストレートに言えなかった」などの課題が挙げられた。

【対応案：質問の数の削減、チャットツールの機能活用】

次々に話題が変わりすぎないように、テーマに関する質問は一日一つまでにするなどコアタイム中に議論できる程度まで数を絞り、参加者の混乱を防ぐ。

質問が複数個ある場合には、LINE オープンチャットのノート機能を活用して質問ごとにノートを作成するなど、参加者が意見を出したいと感じる質問について、いつでも

意見を出せるようにする。

カ. 手法：アンケート

【課題：選択式設問と自由記述式設問のバランス】

意見表明権の確保の観点では、選択式の設問だけでなく、回答者のこども・若者が自由に記載できる自由記述式の設問も取り入れることが望ましい。しかし、今年度実施したいけんひろばでは設問の大半を選択肢形式が占めているテーマが存在した。

【対応案：自由記述式の設問を増やす】

いけんひろばをアンケートで実施する場合、回答者が自身の意見を表明できる設問構成となっているかに留意して設計を行う。また、回答者が自由に意見を表明できる機会を確保する観点から、自由記述式の設問を各アンケートの中にも含めることとする。

B. とりまとめ

ア. いけんのまとめ

【課題：いけんひろば後の追加意見の本人性担保】

いけんひろば開催後、いけんひろばで言い切れなかった意見や追加したい意見がある場合には、参加者アンケート（約1週間後を期限）の中で記載いただくことを参加者に周知した。これにより、当日のいけんひろばにはなかった視点の追加意見が寄せられる場合があった。

いけんひろばをきっかけに考えを深めたり、テーマについて調べたりすることで新たに意見が生まれることは望ましいことである一方、いけんひろば後の追加意見には本人の意見ではない、第三者の考えが含まれる可能性が否定できない点が課題である。

【対応案：追加意見は参加者本人の意見を記載してもらうことの周知徹底】

いけんひろば閉会時や参加者アンケートにおいて、追加意見はいけんひろば参加者本人が考えた意見を提出してほしいことを明記する。同様に、いけんのまとめを確認する際の意見の修正や撤回についても、本人の意思として行ってもらふことの周知が必要である。

イ. 報告資料

【課題：報告資料公表の効果】

報告資料はこども家庭庁のホームページで公表されているが、参加者やぷらすメンバー、一般の方が報告資料を読んでいるのかどうか、読んだ時にどのように感じたのかどうかを把握することが困難であった。

【対応案：アンケートでの把握】

ぷらすメンバー向けアンケートに「自分が参加した回の報告資料を読んだことがあるか」や「自分が参加していない回の報告資料を読んだことがあるか」といった設問を入れることが想定される。また、報告資料を様々な人に見てもらうためには、こども家庭庁や「こども若者★いけんぷらす」の公式SNSでの発信を強化することも一案である。

ウ. フィードバック資料

【課題：フィードバックまでに要する期間に差があること】

テーマによって、意見の聴取から反映に至るまでの期間が必ずしも一定ではないことから、「こども大綱」のいけんひろばのように意見聴取から約2か月でフィードバックに至ったものもあれば、いけんひろばの開催からフィードバック資料作成までに半年近く時間がかかるケースや、年度内のフィードバックが難しいため中間報告のみを実施するケースがあった。

ぷらすメンバー向けアンケートでは、「フィードバック資料に自分の意見が掲載されていて嬉しかった」という声があった一方、「自分が参加した回のフィードバックがなされておらず、意見が活かされているのか分からない」といった声もあった。

【対応案：フィードバックまでのプロセスの可視化・説明】

参加者にとってフィードバック資料は「自分の意見が政策に反映された」という実感を持ったり、「意見を言って良かった」と感じたりするために重要なものである。本課題への対応策としては以下が考えられる。

- ① フィードバック資料の公表時期の目途、政策への反映までのプロセスを参加者に説明する。何らかの理由で政策への反映に時間がかかる場合でも、その旨・理由を参加者に対して伝えておくことで意見反映のプロセスの透明性を担保する。
- ② フィードバックに時間がかかる場合でも、年度末までには一度中間報告などを実施し、現在の状況を説明する。

4) 業務④ ぼんぱーによる活動の支援

(1) 成果

【成果①：ぼんぱーの活動目的に合わせて活動や成果物の作成を行うことができた】

Ⅲの3. のぼんぱーの活動実績でも記載のとおり、ぼんぱーの各班の目的に応じた活動や成果物の作成を行うことができた。このことは、本事業の目的の一つでもある「多様な社会的活動に参画する機会の確保」の達成だといえる。

【成果②：ぼんぱーによる主体的な活動を尊重し、支援することができた】

ぼんぱーの活動の中では、できる限りぼんぱー自身の希望や主体性を尊重した。具体的には、班会議の議題決定や資料作成、当日の司会進行といった点について、ぼんぱーも含めて担当を決めたり、事務局側で検討・実施する場合には必ずぼんぱーにもその方針で良いかの確認をしたり、事前に内容の確認をしてもらったりするようにした。このような活動の支援においては、こども・若者支援の経験のある「サポーター」による事務局への助言が有効であった。

(2) 課題・対応案

【課題①：事業当初、活動がなかなか進まなかった】

事業当初、ぼんぱーの位置づけや、各班の活動目的、実施事項もぼんぱー自身に検討してもらおうようにしていたことや、一方で活動がオンライン会議やチャットでのやり取りを中心としたものでありコミュニケーションが容易ではなかったことから、ぼんぱーにおいて活動の進め方や意思決定の方法に戸惑いが生じ、いずれの班においてもなかなか活動が進まなかった。

【対応策①：チームビルディングや目線合わせの実施】

事務局側でぼんぱーの位置づけ、各班の活動目的は少なくとも明確にしたうえで、ぼんぱーの活動をスタートしてもらえるようにする必要がある。また、活動は、オンライン会議やチャットでのやり取りが中心となるため、活動初期においてチームビルディングを十分に行うための工夫が必要である。具体的には、活動開始の時期にしっかり時間をかけて、ぼんぱーとなったこども・若者と目的等について話し合う時間をつくること、そしてこれを通じてチームビルディングを行うことが必要である。また、アイスブレイクを必ず行うことや、活動初期において少なくとも1回は対面で顔を合わせる機会を持つことなども考える。

【課題②：多様なこども・若者がチームとして活動するためのより良いあり方】

ぼんぱーは、中学生から社会人までという年齢だけでなく、考えや居住地、現在の状況なども異なるこども・若者たちによるチームである。このような多様なこども・若者

が1つのチームとして活動する中では、全員が班会議に参加することが難しかったり、話し合いがなかなか進まないことがあったり、コミュニケーションがすれ違ったりすることがあった。

【対応策②：寄り添いと試行錯誤】

対応策に明確な解はないと考えられる。事務局・サポーターができることとして、ぼんぱー一人ひとりに常に寄り添いつつ、活動のあり方については、こどもたちと共に試行錯誤することが必要である。

【課題③：月に複数回、夜の時間帯にミーティングを行う上での受託者の業務体制の課題】

ぼんぱーの班会議は、こども・若者には日中に学校や仕事の予定があることを踏まえ、夜¹²の時間帯に実施した。各班において月に1～2回の実施があるため、事務局・サポーターは、月に複数回夜の時間帯の会議に参加した。受託者の業務体制上、人員確保や業務時間の長さから課題が生じ、持続可能な業務体制について今後の検討が必要だと考えられた。

【対応策③：固定日時での開催や受託者の役割分担】

班会議は都度日程調整をしており、受託者も都度、人員調整が必要であった。班会議を固定日時での開催にすることで、業務体制の安定的な確保に繋がると考えられる。また、受託者として出席する人数を、その議題や受託者の役割に合わせて調整することも一案である。

¹² 19時以降21時までの間での開催となるが多かった。

5) 業務⑤ 地方自治体におけるこども・若者意見反映の取組サポート

(1) 成果（こども・若者意見反映サポート事業）

【成果：派遣を行った地方自治体以外にも、こども・若者意見反映に関する概要を伝えることができた】

こども・若者意見反映サポート事業では、ファシリテーターを派遣した地方自治体以外の視察としての参加を可能とした。このように実際に現場を見てもらうことで、比較的近い未来に、近隣の地方自治体における意見聴取・反映の実践に繋がることが予想される。

(2) 成果（「地方自治体におけるこどもの意見表明・反映の推進」研修）

【成果：多くの地方自治体に、こども・若者意見反映に関する概要を伝えることができた】

研修で参加申込のあった地方自治体の職員数は約850であった。こども・若者意見反映に関する概要を多くの地方自治体に伝えることができた。また、この研修は全国的に取組が広まる第一歩となると考えられる。

(3) 課題・対応案（「地方自治体におけるこどもの意見表明・反映の推進」研修）

【課題①：研修の満足度にばらつきがあった】

Ⅲ章の5)における研修へ参加した地方自治体向けの事後アンケートの結果では、「満足した」が14.4%、「まあまあ満足した」が59.9%、「どちらでもない」が19.6%、「少し不満があった・不満があった」が6.1%と満足度にばらつきがあった。自由記述の内容を踏まえると、期待していた情報が得られなかったと感じた参加者において満足度が低くなっている様子である。

【対応策①：地方自治体のニーズ別研修】

研修の種類を「基礎編」「実践編」など複数用意し、地方自治体の取組の進捗状況や、研修への期待ニーズに合わせて、出席する研修を選んでもらうようにすることが一案である。

【課題②：研修のグループワークにおける1グループの人数や進行にばらつきがあった】

研修のグループワークは、事前に申込者をグルーピングしてその内容を前日に案内していたが、当日のグループワークにおいては1グループの人数や進行にばらつきがあった。要因の一つは、こども福祉に携わる参加者が多いことから、緊急対応のために当日欠席者が一定数いたことである。携わる業務の性質上仕方のない部分があるものの、グ

グループワークの質に大きく影響してしまった。

もう一つの要因は参加者がオンライン環境でのグループワークに慣れていないことにあると考えられる。研修の開催は全4回行ったため、回を重ねるごとにグループワークの事前周知や研修中の説明を丁寧に行うようにすることで改善を図ったが、今後は初回から丁寧に対応することが望ましい。

【対応策②：属性によって開催回を分け、当日ランダムでグループを組成する】

当日欠席の対応策として、次回からは事前グルーピングを行わず、オンライン会議ツールで当日ランダムにグループ分けを行うことも考えうる。その場合、都道府県と市区町村が同じグループにならないよう、研修の開催自体を分けて、都道府県向けと市区町村向けを別々に開催する必要がある。

また、オンライン上でのグループワークについて、研修開催前に資料で案内するほか、研修当日グループワークに入る直前にも丁寧な説明が必要だと考えられる。

第V章 総括

1. 今年度事業の総括

1) 前提

本事業では、以下の4つを目的としていた。

1. 各府省庁やこども家庭庁が施策を進めるに当たって、多様な手法を組み合わせながら、こども・若者から意見を聴くこと（こども・若者の意見表明の機会の確保）
2. こども・若者から意見を聴くだけでなく、その意見を政策に反映すること（こども施策へのこども・若者の意見の反映）
3. 本事業の企画や運営のプロセスにこども・若者が主体的に参画することを通じて、こども・若者が自らに関わる制度・政策について知り、考え、主体的に意見を表明する機会を提供すること（多様な社会的活動に参画する機会の確保）
4. 令和4年度に実施された「こども政策決定過程におけるこどもの意見反映プロセスの在り方に関する調査研究」の結果を踏まえ、「こども・若者の意見を聴き、政策に反映する」あり方の一つの型を構築するとともに、その方法論を整理すること（事業の型の構築と方法論整理）

2) 意義

前提に挙げた達成すべき4つの目的に照らして事業を振り返ると、以下のとおり、本事業を通じて子ども基本法の理念の実現のための政策実行の第一歩を踏み出すことができたといえる。

(1) 子ども・若者の意見表明の機会の確保

いけんひろばの実施やぼんぱーの活動の支援、地方自治体による意見聴取の取組へのサポートを通じて、子どもの意見表明の機会の確保を達成した。

また、いけんひろばに参加した子ども・若者からは、意見が言える場ができたことが嬉しかった、自分の意見を言い切ることができた、意見が言えて楽しかった、といった声が複数挙げられた。これらの子ども・若者の声を踏まえ、意見表明の機会の確保を子ども・若者に対して実現できたといえる。

(2) 子ども施策への子ども・若者の意見の反映

いけんひろばで出された意見は、テーマ担当課において様々な形で反映に向けて取り組まれている。政策検討の状況や実行のタイミングによっては、政策への意見の反映が今まに行われていることから、次年度以降に一層、政策への意見反映が進むものと考えられる。なお、政策への意見の反映の結果は、フィードバック資料の作成・公表を通じて社会に周知した。

(3) 多様な社会的活動に参画する機会の確保

いけんひろばの実施やぼんぱーの活動を通じて、子どもが多様な社会的活動に参画する機会の確保を達成した。事業の運営に携わったぼんぱーからは、大人と一緒に試行錯誤した活動を振り返り、充実した活動ができたこと、意見を言うことの尊さが分かった等の感想が寄せられた。

(4) 事業の型の構築と方法論整理

いけんひろばの運営及び地方自治体における意見聴取の取組においては、いけんひろばや意見聴取の場の開催都度、当日の最後にファシリテーターを含む関係者で運営について振り返り、意見を出し合った。また、振り返った結果を踏まえ、以降の運営の改善につなげた。

ぼんぱーの活動においては、班会議等の中でぼんぱーから挙げられた意見のほか、各班会議後アンケートでのぼんぱーからの回答を踏まえ、活動の運営面での改善を図った。

以上のPDCAサイクルの実行を通じて、「子ども若者★いけんぷらす」の事業運営における「型」を構築することができた。

2. 今後の展望

1) 課題

今後、「こども若者★いけんぷらす」をより一層意義のあるものにしていくためには、以下の課題に対応していくことが有効だと考えられる。なお、課題には優先度をつけ、優先度の高いものから順に対応していくことが必要である。

(1) いけんひろばの改善

ぷらすメンバーにとっていけんひろばの募集がわかりやすく、かつ参加を検討しやすく、さらに参加にあたっての負担のない仕組みづくりのためには、考察(IV章)に記載した改善が必要である。

(2) こども施策への意見の反映の促進

本事業の意義に記載のとおり、今年度実施したいけんひろばのうち、一部の回では政策への意見の反映が達成されたが、年度をまたいでこれから反映されるものが複数ある。意見の政策への反映が進むこと、そして可能であれば参加者の記憶の新しいうちにフィードバックできることが望ましい。

また、一部のぷらすメンバーからは、意見の反映が実際にされているのかわからないという声が寄せられた。意見の反映結果が伝わりづらいという課題を踏まえ、いけんひろばへの参加有無にかかわらず、ぷらすメンバー、さらには広くこども・若者へ、意見の政策への反映という取組がなされていることについての効果的な周知が必要だと考えられる。

(3) 意見表明に向けた意見形成のための支援の実施

意見表明のためには、その前に自身の言いたいことをまとめるという「意見形成」が必要である。しかし、発達段階にあるこども・若者にとって意見の形成は容易ではなく、周りからの支援を要する場合がある。いけんひろばの運営においてはいけんひろば前の事前説明会や当日のファシリテーターの進行を通じて意見形成がしやすいようサポートを行った。また、ぼんぱーの活動支援においては、サポーターの配置や活動に係る情報提供等を通じて意見形成支援を行った。来年度は、事前説明会等を通じた情報提供や、いけんひろばの参加者が意見を考えやすい設問構成を検討すること等を通じて意見形成の支援を一層行えるようにする必要がある。

(4) こども・若者の意見表明の社会実装に向けた知識・開催ノウハウの展開

こども基本法の趣旨に則り、今後、国のみならず、地方自治体においてもこども施策の策定、実施、評価にあたっては、こども・若者の意見を反映させることが必要となる¹³。ゆえに、今後は国としてこども・若者からの意見を聴く取組を進めるのみならず、広く本取組を社会に実装していくための取組も行うべきである。

対応案としては、国から地方自治体への啓発、及びいけんひろばノウハウの伝達がある。そのためには①こども・若者による意見表明の必要性に関する理解を広く促す取組と、②実際にこども・若者による意見表明を促すノウハウを伝えるための取組という2点が考えられる。1点目は国や地方自治体に対し、こども・若者が意見表明する機会を確保し、その意見を政策に反映させることが重要であることの啓発である。2点目は本事業で蓄積したいけんひろばの実施ノウハウや既に取組を進めている地方自治体に蓄積されている経験知をとりまとめ、通知や研修を通じて全国に展開していくことである。両方の取組を並行して進めていくことが必要である。

¹³ こども基本法第11条「国及び地方公共団体は、こども施策を策定し、実施し、及び評価するに当たっては、当該こども施策の対象となるこども又はこどもを養育する者その他の関係者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるものとする。」

付録. ぶらすメンバー向けアンケート集計結果

○調査概要

(1) 調査テーマ

- いけんぶらすをより良くするために

(2) 調査対象

- 「こども若者★いけんぶらす」の「ぶらすメンバー」に登録している方

(3) 回収状況

- 有効回答数：368 件

(4) 調査方法

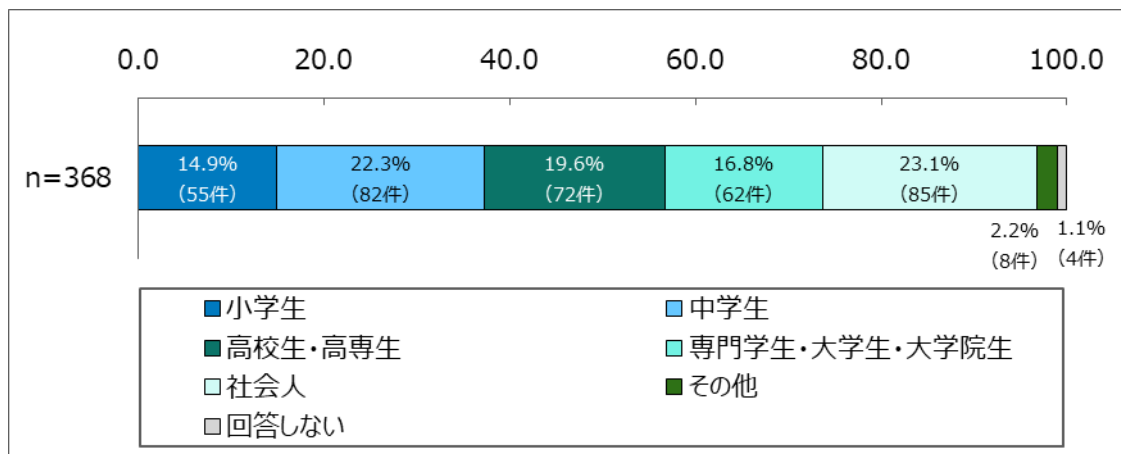
- Google Forms を用いた WEB アンケート調査

(5) 調査期間

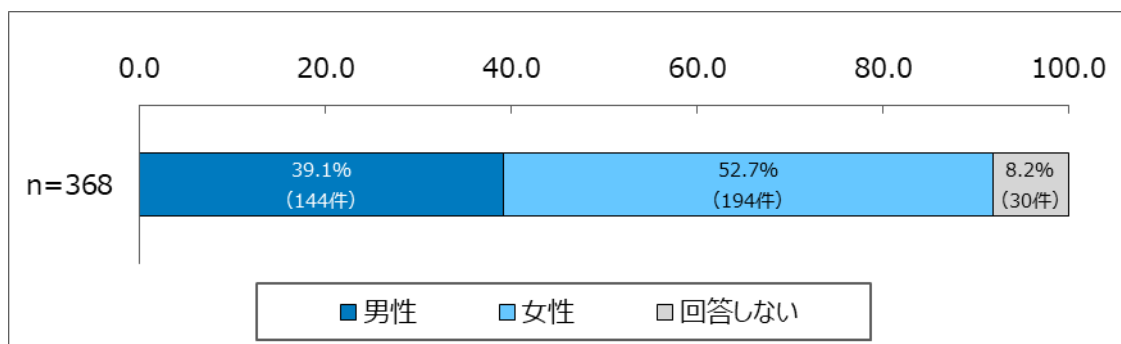
- 令和6年1月9日（火）～1月31日（水）

○調査結果

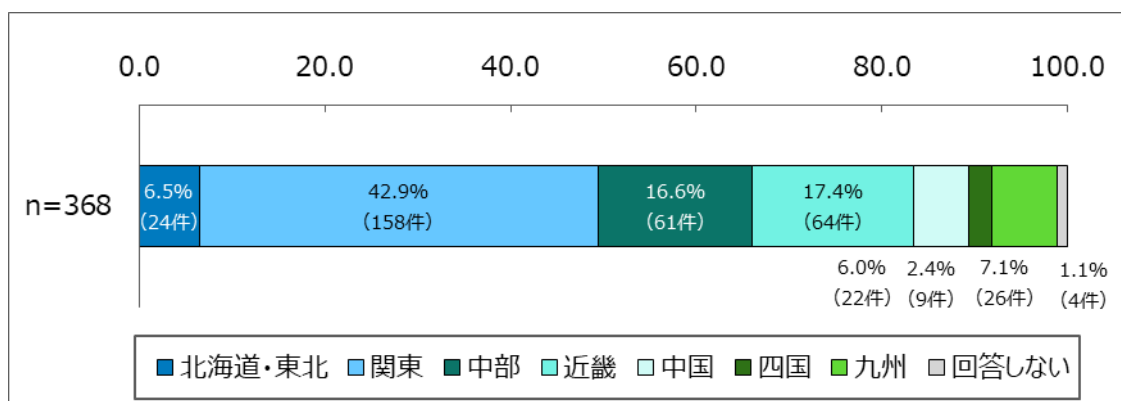
Q1. あなたの学校や仕事の種類（しゅるい）を教えてください。（単数回答）



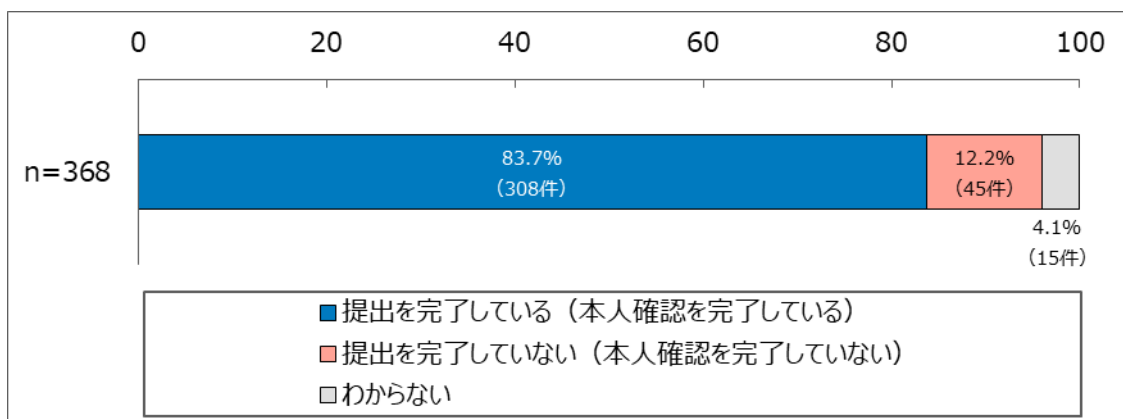
Q2. 性別(せいべつ)を教えてください。（単数回答）



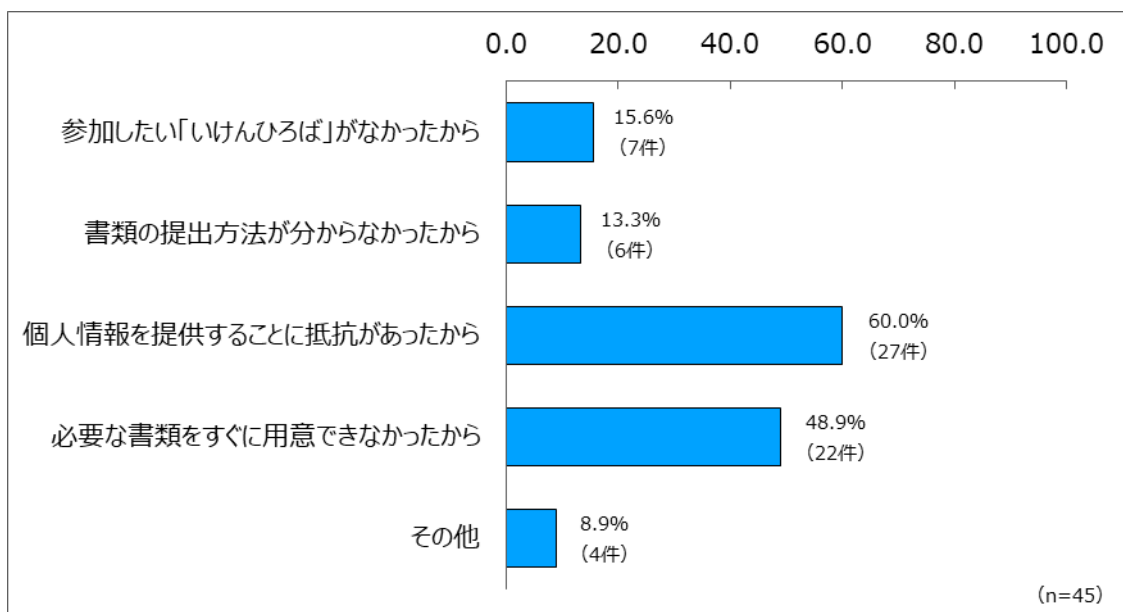
Q3. あなたがお住まいの都道府県(とどうふけん)を教えてください。（単数回答）



Q4. 年れいのわかる書類（しよるい）の提出（ていしゅつ）は完了していますか？（単数回答）



Q5. 年れいのわかる書類（しよるい）の提出を完了していない理由を教えてください。（複数回答）
 （Q4で「2.提出を完了していない（本人確認を完了していない）」を選んだ人のみ回答）

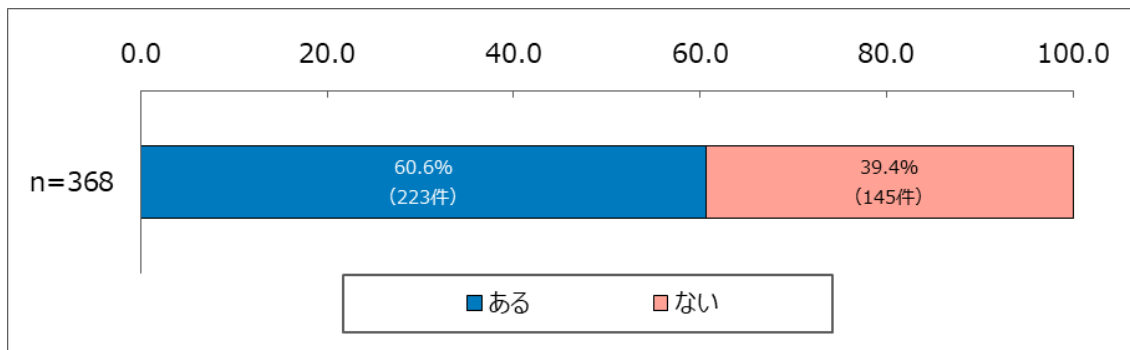


Q5. 「その他」の内容

- 時間が無かったから
- まともなことをしてくれる様子がなく期待が持てないから
- 母親から「もうちょっと待ってみて」と言われたから
- 個人確認は大切だと思うのですが、ためらいはあります。

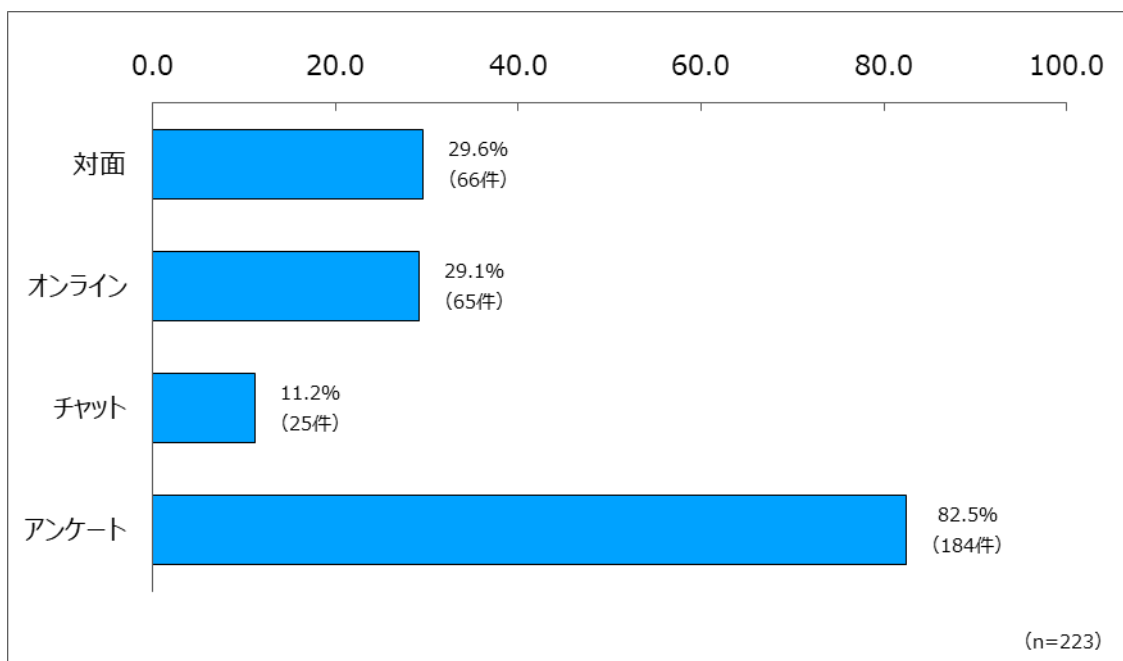
Q6. 今までに「いけんひろば（※）」に参加（さんか）したことがありますか？（単数回答）

（※）対面・オンライン・チャット・アンケートなどでみなさんから意見をきく場のことです。いずれかで参加したことがある場合は「1. ある」を選（えら）んでください。



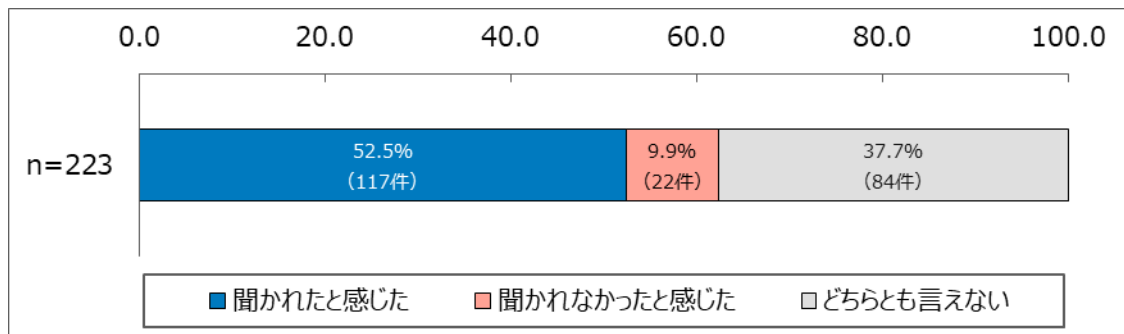
Q7. どの手法（しゅほう）のいけんひろばに参加しましたか？（複数回答）

（Q6で「ある」を選んだ人のみ回答）



Q8. 「いけんひろば」において、あなたの意見が聞かれたと感じましたか？（単数回答）

（Q6で「ある」を選んだ人のみ回答）



Q9. （Q8の回答について）そう答えたのはどうしてですか。（自由記述）

（Q6で「ある」を選んだ人のみ回答）

Q8で「聞かれたと感じた」を選んだ人の回答

- オンラインで話を伝えることができ、正しい議事録が残っていたため
- オンラインの時には個別グループの最後に全員の意見をおさらいする時間があり、そこで自分の意見もしっかり議事録に詳しく載っている事を確認できるから。
- 意見が議事録として記載されていたから
- 記録されていたから
- 議事録を読むと、自分の意見を含めた議論の流れをきちんと可視化できていると思うから
- 後日の意見まとめにしっかりと反映されていたから。自分の意見に関連してファシリテーターの方が話を進めてくださったから。
- オンラインのいけんひろばに参加した際、話に詰まってしまってもゆっくり待っていただけたからです。その後の意見集約された pdf に自分の意見がしっかり入っていて安心しました。
- まとまった意見がホームページに載せられた際、自分の意見も入っていたから。
- まとめた書類に意見が反映されていたから。
- まとめに入っていたから
- まとめ等で取り上げられていたから
- 事後まとめられた意見に自分の意見が記載されていることを確認したため
- 対面での実施の後、意見をまとめたものを送ってくださったり私たちの意見を聞くために多くの工夫をしてくださっているから。
- 相手の方や省庁の方が意見にたいして返答して頂いたり、後で送って下さったいけんひろばの意見をまとめたシートにかかれていたから。
- 「子ども若者★いけんぷらす」から『いけんひろばの「報告資料」が子ども家庭庁のホームページで公開された』とメールを頂き、アクセスした方に参加者の意見を知ってもらえると感じたから。
- 最終資料に自分の発言が載っていたから。
- 後に送られてくる発言に記載されていたから。

- 報告書として後日纏められていたから
- 報告書に載っていたから
- 自分が言った意見が反映されていたから
- 自分の意見がレポートに載っていたから(だそうです)
- 実際に子どもの居場所のアンケートにおいて、私の意見を取り上げて頂いたため。
- 実際に対面で、話をしてきちんと書面として反映されていた事。
- オンラインのいけんひろばでは、できるだけ参加者に発言してもらえるように司会がうまく進行していたから。
- ファシリテーターが何度も話を振ってくれたから
- ファシリテーターが共感してくれたメモ係がいた
- ファシリテーターが丁寧に質問し、伝えた意見を合っているかどうか言い換えて確認してくれたため。
- ファシリテーターさんが上手にまとめてくれて、ほかのみんなが同感してくれたから
- ファシリテーターの人が話を振ってくれたから
- ファシリテーターの方が順番に聞いてくれたから
- ファシリテーターの方が上手に進め、きちんと書記の方もいらっしやったから。
- ファシリテーターの方が上手に話を回して下さって、意見を言いやすい雰囲気を作って下さって
- チャットでの回で、自分の意見に対してファシリテーターやメンバーが反応してくれたため。
- グループ LINE (LINE@) の文字での会話でファシリテーターの方も上手に一人一人の意見に傾聴し、話題提供をくださっていたから。
- 司会の方が指名してくれた
- 私の発表した意見を受けて、ファシリテーターの方がコメントや表情、動作など何かしらの形で反応を示してくださったため。意見や話を聞いていただけたと感じた。
- 進行役が均等に話を振ってくれたと感じたため
- しっかりと全員に話を振って書き取ってもらえたから
- メモをとる人がいるから。
- よくメモをしてくれたり共感してくれたから
- いけんひろばの職員などの人が意見に対して質問とかをしてくれたから
- いろんな質問をされたから
- オンラインで職員の方と話して意見を言えたから。
- 係の方が話をしっかり聞いていたと感じたからです。
- 職員の方に丁寧に聞き取ってもらえたから。
- この意見についてどうですか？などと聞かれた事があったから。意見を言う時があったから
- 一応みんなが発言する場があったから
- 各質問ごとに必ず、聞いてくれていて思ったことを率直に言える環境だったから。
- きちんと聞いてくれたから
- よく話を聞いてくれたから
- 話しやすい雰囲気だったから

- 話を聞いてくれた
- 一人ひとり丁寧に話を聞いてくれていた
- 意見が通りやすい雰囲気だったから
- みんなが私の意見をしっかり聞いてくれていたから。大人の方達も決して意見を否定せず聞いてくれたから。
- 私の発言に対しては、発言中に遮られたり否定されたりということがなかったから。
- 対面参加の時に全体の空気感が和やかだったのと、ファシリテーターの方が自然な形で相槌を打って聞いてくれたことが理由です
- 参加している大人が我々の意見を1つの「意見」として大人の意見と同じように取り扱ってくれているから。
- みんながうなずいたりしてくれたから
- みんなが頷いてくれてたから
- 目を見て話を聞いてくれた、話題に乗ってくれた
- 応答してくれたから
- 私以外の子供たちやこども家庭庁の方が反応してくれたからです。
- 意見に対するフィードバックをもらったため
- 自分の意見について他の人から質問されたりしたため。
- 自分の話したことから話を広げてもらえた
- 対面でもオンラインでも、自分が意見を出すと共感してもらえたり、逆にここは違うのではないかなど出した意見をもとに話し合いを進めていくことが多かったからです。また、定期的に送られてくる報告書まとめを見ると私の出した意見と似たような考えが載っていたりするからです。
- 自分の考えと似た意見があったため。
- いっぱい話せたから。
- きちんと意見を伝えられたから。
- 自分の意見をしっかり言えたから
- 自分の意見を言う機会が多くあったから。
- 自分の考えに基づいて回答したから。
- 自分でも意見を発信出来ると思った
- 挙手したのを取り上げてもらったから
- イジメにあったときの話を聞いてくれたから。
- いけんひろばに参加されていた、いけんぷらすのメンバーやファシリテーターとの間で議論を深めてきたから。
- 討論の形として成り立っていたから
- 特にチャットでは、特定の話題について深く議論することができたから。
- 国の施策に反映されたので
- 三姉妹教育費がかかることをアンケートにかいたら3人以上いると大学費補助出るようになったので。非常に有り難いです

- 私は三姉妹で子ども3人以上は大学費用の援助がもらえることになったので。
- 実際に政策に盛り込まれてたから
- アンケートには自由記述欄があることで、自分の意見を発信している実感があつた。
- アンケート回答を読んでもらっていると思っているから。
- どんな町にしたいかのアンケートで伝えたいことが回答できたから
- 自由記述欄があつて、選択肢以外の回答をできたからです
- 選択肢を選ぶことや自由記載の欄があるから
- 2日間にかけて色々なテーマをもとにチャットベースで話し合える環境が整備されていたため。
- 皆であつて意見を出し合つたから
- 対面に参加したから
- 少人数のグループで行うことで自分の意見を言う機会が多かつたから。
- 対面で聞かれたから
- 対面で話をした
- オンラインで意見は伝えたが、伝えただけのものになっている。フィードバックなどなく、ただ意見を聞くだけの会だつた。

Q8で「聞かれなかつたと感じた」を選んだ人の回答

- ありきたりの質問が多く、実際、反映されていると感じにくい
- 意見まとめて意見を載せて貰えなかつた
- 採用されたことがなかつたから
- 自分の意見が反映されてるように思えないため。政策も良くなつていない
- 政策に反映されていないから
- 特に変わったと感じなかつたからです
- 年少扶養控除復活についてはさらっと受け流されてしまった。ある政党の政権公約に明記されていたのにも関わらず、約束は果たされないまま。復活させない理由に納得がいかない。
- 発表された大綱の内容から。
- 反映が分からない
- 意見する機会がなかつた。
- 対面は地方に住んでいる自分にとっては対象外で、赴くことのできる人だけの意見に限られてしまう。オンラインは時間の制限がかかり社会人には難しい。自分は対象外であり意見が反映されないとがっかりすることがあつたから
- スタッフに受け入れようという気持ちがなかつたから
- そもそもこちらの回答をどう活かしているのか全く分からない
- なんとなく
- 回答したあとのフィードバックがあるのかよく分からない
- 聞かれたのがよくわからなかつたから。
- どう答えたらよいか解らなかつた

- 自分の意見を子ども若者白書に取り入れてもらえたから。

Q8で「どちらとも言えない」を選んだ人の回答

- 意見を反映されたと感じる事がなかったから。
- 最近アンケートに回答したため、どこまで反映されているかがわからない。
- 自分の意見がどのように反映されているかわからないから。
- 自分の意見がどの様に扱われたのか、解らない。又、双方向性をあまり感じられない。
- 自分の意見が通っているか不明であるため
- 自分の意見が反映されたかどうかはわからないから
- 自分の意見が直接反映されているとは実感できないから。時間はかかるが、ひとつひとつの意見に返信があったらもっと良くなると思う
- 自分の意見がどのように反映されたのかわからないから。
- 自分がアンケートで送った意見の処理が不透明である為
- 意見は伝えたが、実際に受け止められたのかは分からなかったから。
- アンケートなどの結果を知らないから。答えたアンケートの結果がどうなったかは知らないから。公表されているのかもわからないから。
- その後どうなったのか分からないから
- どう反映されたか、確認していないから
- 確認ができていないため分からない
- 意見が反映されたかどうか確認できていないから
- 意見が反映されたことが分かるような機会や、それがまとまったデータを見たことがないから。また、個人の意見はあまり大きな組織において反映されないと思っているから。
- 結果がわからないから
- アンケートで提出した意見がどこに反映されているのかが分かりづらいから。また、いけん広場のメールを毎回必ずチェック出来ておらず、(アンケート内容やメールの内容、pdf等全てに目を通せていない)結果的に自分の意見が反映してあるかどうかを知る術がないから。
- まだ、自分の意見が反映されている内容等のものをたくさん見ることが出来ていないから。今後対面のイベントに参加するので期待している。
- 反映された実績例が検索しづかったから
- 報告書がないため
- 変わったなと思うことが特にないから
- 意見が反映された政策などがまだ施行されていないから
- どの程度自分の意見が政策などに反映されたかわからないから。
- 意見としては書かれているけれど、自分の周りの環境は変わっていないから。
- 自分の意見が政策にまだ反映されていないと思うから
- 社会に反映されているかわからないから。
- 意見が反映されるまでに時間がかかると思うから。

- (痴漢のポスターの質問だったと思う) 痴漢に関してはあまり関心のある内容のアンケートでは無かったのと、数日前なのもあった、選択肢や自由記述の回答も少なく、既にできているものを微調整するくらいのアンケートに感じた
- アンケートだけでは個人の考えをおくれたとは思えなかったため。
- アンケートだとその反応は返ってこないから。
- アンケートでしか参加できてないので
- アンケートでしか答えていないため
- アンケートで自分が考えることは言ったから、意見は届いたと思うけど、「聞かれた」感じはしなかったから。
- アンケートに答えてだけで、誰かに直接意見を伝えていないので、反応が良くわからない。
- アンケートに答えてだけで特に実感が無いから
- アンケートの都合上、すぐに結果を感じられないから
- アンケート回答のみで直接話を聞かれては無いから
- 意見というのは Yes、NO だけでは無いのに、2 択しかない、私の全ての情熱を注いだ回答は聞かれていないと感じたため。
- 相手からは何も返事がなかったから
- その後の具体的な返答や参考になった事など大人からの意見の表明があまり感じられなかった。こどもからの意見を言うのもそうだけど、大人とこどもと一緒にやっていくおどもの関係を作っていく。大人からの意見や返答をもっと聞きたいと思ったから。
- 「私の意見」が反映されたものはあまりなかったが、後日意見としてまとめたものをメールで見たときに、自分の考えよりもっと深く考えられた意見や「確かにそうだな」と思うものが多く、それらが本当に反映されたのであれば、自分の意見に近いものやさらに良いものが形になったのだなと思ったから。
- うまく意図が伝わってない感じや、細かいニュアンスが書記する際に変わっている感じがあったため。
- そこは、皆様で決める物なので、後ろで見届けと思いたい気持ちでございます。
- その件についての問題意識の方向が異なっていると感じたから。
- ファシリテーターの自分にとっての良し悪しによっていいにくいと感じることがあるから
- ファシリテーターの方自身が話しすぎて、自分の意見を言う時間が少なかったが、発言に関しては深めることができたと感じることが多かったから。
- ネット環境が悪く発言が反映されなかった 時間がなく言いたいことをまとめたが送信できずに終わってしまった
- 意見が聞かれたと感じることの定義がよくわからないから
- 何と回答したか覚えていないから。
- 意見ひろばは 1 度で終わってしまうので、学校のように後で質問に行くことや、次回への準備ができないからです。意見広場では同年代の意見を聞くことができ、視野を広げることができます。お茶をしながら、普段話するような時間もあればいいと思います。
- 子供の意見を尊重する場で大人が司会していることに矛盾を感じる。意見を否定するしないをル

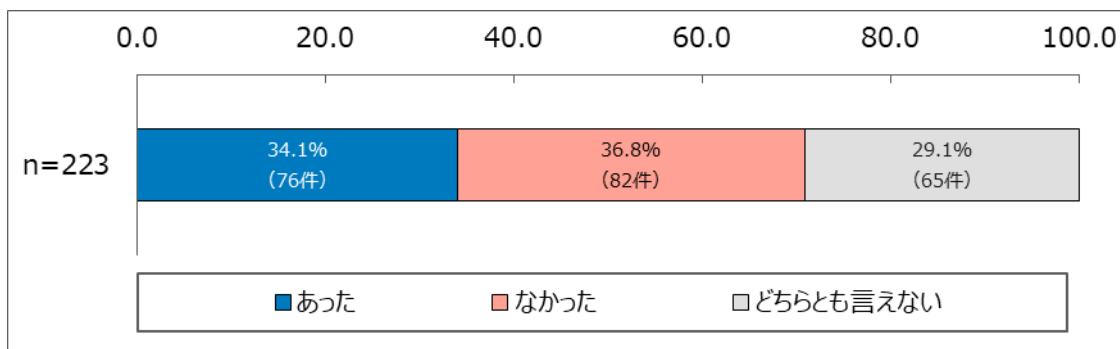
ールにしてもディベートなのだから自由に意見を交わし合うことを大事にするべき。世の中賛否両論ばかりなのに否定しないをルールにされても発言しにくい。発言して欲しいと子供家庭庁は思っていないのか？

- 私は、あまり意見がないので
- 同じ意見出してる人他にも居そうな施策が多いし子供食堂とか「確かに大事だけど本来はそこまで困る子供が出ない様に民間では無く行政が何とかしなきゃいけないんじゃないですか？」みたいな施策中心にも見えるので…いやまあそれがすぐ出来たら苦労しないんでしょうけど…
- 抽象的に記載したため。
- よくわからないから
- わからないから
- 自分が疑問に思っていることを発言できなかった気がするから。

Q10. 「いけんひろば」に参加する前と後で、「意見を言う」ことについて気持ちに変化がありましたか？

(単数回答)

(Q6で「ある」を選んだ人のみ回答)



Q11. どのような変化があったか、具体的に教えてください。

(Q6で「ある」&Q10で「あった」を選んだ人のみ回答)

- これから、積極的に意見を言っていきたいと思うようになった
- 以前は考えを察してくれるだろう、大人が何とかしてくれるだろうと思っていました。意見は言わなければ人に伝わらない事、皆で意見を出すことでより良い新たな考えが生まれると感じた。話せてスッキリした。いけんひろばや行政以外にも聴いてくれる大人が増えたら嬉しい。
- 以前は自分の意見なんて聞いてもらえるわけがない、自分の意見で何かが変わるわけがないというネガティブな気持ちが大きく、思っても言わないことが多かったのですが、いけんひろばに参加するようになって自分の意見はごく小さいものかもしれないが「気持ちを積極的に伝える」ということに意味があるのではないかと意見発信に前向きな気持ちを持つようになりました。
- 今までではニュースを見て、社会の出来事について考えることがあっても、選挙以外でそれを伝える場がなかった。しかし、アンケートによって自分の声を政策に反映させられる可能性があると分かり、さらに政治に関心が高まってもっと意見を世の中に発信したいと思うようになった。

- 意見をしっかりと伝える事を大切にしたいと思った。積極的に自分からの発言の回数を増やせるようにしたいと思った。
- 意見を言う、持てることは素晴らしいことで、どんどん発言していくべきなのだと思います。
- 意見を言うことは良いことであるということを実感できた
- 社会が若者の考えを汲み取ろうとしていることに気づいた。意見を言える場では積極的に発言しようと思うようになった。
- 普通の大学生の私でも、行動して子ども若者いけんがらすに申し込むことで、貴重な機会をいただいて意見を主張することができて、自分の考えをもっと自信を持って発信しようと思えた。
- 社会の一員として、しっかりと自分の考えに責任を持つべきことを自覚した。また、自分が意見を言っても良いことが嬉しかった。
- あれから参加してみて 自分に自信がついた
- 意見を言えたということが伝えることへの自信につながった気がした。
- ほかの方が積極的に意見を言っていたので、自分の意見を言う抵抗がなくなった。
- 意見を言うことへのハードルが小さくなった気がする。
- 意見を発信することへの抵抗感がなくなった。
- 意見が言いやすくなった
- 自分の意見を言うことでその意見が賛成されるだけではなく、その意見を別の意見に組み込んでより良い案が出るということが実際に体験することができ、自分の中で完璧になっていない意見でも他の方に言うことによって良い案になるかもしれないと思い、自分の意見を言うことに抵抗がなくなりました。
- 初対面の人でも、少しずつ話せるようになった。
- 「自分の得意分野でなくても意見を言って良いのだ」という考えに変わりました。
- これまで、意見を出すうえで、子ども同士の会話ではたくさん意見を言える自信があったけど、大人も混じった意見交換の場では「こども」という立場だと思って謙遜してしまう事がありました。でも、この前参加した子ども大綱の対面の話し合いで、私の班の書記の方が「いつか、立場など関係なく大人でも子どもでも意見を言いやすい環境になればいいな」と言っていて、「大人の方が子どもという立場の意見の言いづらさを理解してくれているんだな」と実感して自信が持てたからです。
- 自分の意見はどんなものでもすぐには否定されず、言うのに恐れる必要は全くないと思うようになった。
- 自分の意見をハッキリ伝えることができるようになって、「意見を言う」ことへの抵抗感が薄れたから
- 前よりも自分の意見を積極的に言えるようになった。
- 対面式に参加しましたが、みんなが意見を言うのに圧倒されたけれど、言ってみようという気持ちが生まれた
- こども若者の意見を聞かれることが必要だと思いつつ、「意見を言うことは難しいことで、できない人もいる」といった思いもありました。ですが、環境調整や機会の増加、聞き手の工夫で「難しいこと」ではない、話す人のスキルを選ぶことのない行為なんだなと思い直しました。

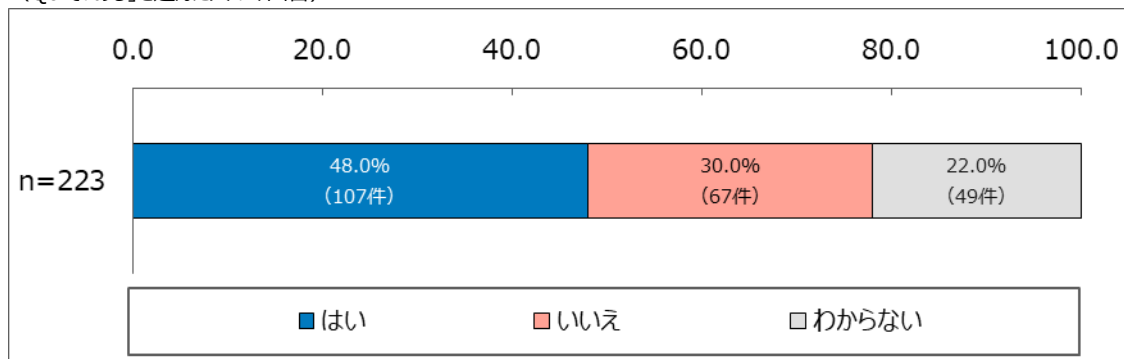
- 意見が言いやすい環境が作られており、リラックスして意見を言えた
- 学校だと意見に対する正解不正解があるから怖いけど、なんとなくみんなわかってくれるから意見を言うことに対する抵抗感が学校より少なかった
- 最初はちゃんと発言できるか不安だったけど、書記の方やチームにいた方がサポートしてくれたから、気持ちが楽になった。
- 自分の意見を言い、相手の意見を聞くことで、人の価値観を受け入れ、自分もまた、受け入れてもらえる安心感を感じた。意見を言い、それを聞いてもらえることの楽しさが広まればいいなと思った
- 普段周りの人には言いにくいことでも、「いけんひろば」でなら自分の考えを表明できるので、気持ちが楽になった。
- 話せて良かったから。
- 自分の言ったことを聞いてもらえて言ってよかったと思った。
- 楽しく感じた
- 意見を誰に伝えればいいのか分からなかったのが、しっかり伝える場があったため
- 意見を聞いてくれるという場が設けられているのなら、その場を有効活用することが必要だと感じた。
- たくさんの人が集まった中で自分の意見をじっくりときちんと聞いてくれることはあまりないから。
- 「子供でも、政治について考えを述べてもいいんだ…」「自分の考えが政治に生かされるかもしれないんだ」と少し驚きました。
- 参加する前は、このような機会は形だけで、意見を聞いてもらえないだろうと思っていた。参加してフィードバックがあったことで、意見を言うことに意味があると感じられるようになった。
- 子どもの意見がきちんと反映されていることが実感できた。しかし、学校では、なかなか子どもの意見が通用しない事が、とてももどかしい気持ちです。
- 子ども家庭庁に意見を少しでも言えている感じがした！
- 私たち子供でも意見を言えるという環境があるのがすごくありがたくて、大人だけで決めてるわけじゃない。っていうのを実感してとても嬉しい気持ちです。
- 伝えたことが本当に政治に反映するのだなあと実感したので。
- 自分も社会のために参加できていると感じた事
- 投票行動以外でも自分の意見を国策に反映することができると感じた。
- 自分がすこしでもよりよいとこにできると思った
- 自分の意見が届いているという実感を得ることができた。
- 発言したり、アンケートに回答することで自分が頭で考えてることを文章化し、自分自身どこに不満を持っていたのか、どんなことを望んでいるのか理解できた。社会に対して何かしらアクションを起こせると思える。
- 意見を言うということはやはり質問の内容について深く考える時間が増えたから。
- どちらでもいいではなく、どちらか選ぶ必要があると改めて気づいた
- 違う人の意見を否定までいなくても自分の考えを上乗せしたい時などの言い方までしっかり考え

るようになったから。

- 自分にはなかった視点からの意見というものが多数聞けて、自分にはなかった考えが多くあり、自分の意見も交えて考えることができた
- 自分の教育に対する意見とは異なる立場からの意見を聞いて社会全体が求めているものは何なのかということを考えるようになった。
- 社会の様々な問題に改めて考えることができたから。自分がどう考えているかを知ることができた。
- LINE でのやり取りで全国の様々な職業（学生・社会人）の方のお話を聞いて、思っていた以上に手軽で堅苦しくなく、より身近な存在に感じられた。
- 自分の考えだけでなく他の人の考えも取り入れる大切さを感じた
- やっぱり知らない人の前だと難しいと思った。
- 外から考えることと実際に参加して意見を言うのでは重みが近い発言が難しかった。
- 結局若年層が国に対して意見を言うことは無駄であり、特に聞く気も無いことがよくわかった
- 意見を言っても意味ないので感じた
- いけんひろばで自分が発表した意見に対して、興味深そうな反応や共感を示していただくと、次の意見発表がより気軽に行いやすくなる。また、「もっと意見を言いたい」とモチベーションも上がり、積極的に意見を表明しやすくなる。
- イジメの話ができて良かった。
- グループディスカッションをおこなう場面に参加したときに思い出した
- そうですね～、もうすぐ創設から 1 年にはなりますが、これから、発展していくので、2023 年 4 月から 2024 年 3 月までは、まだ、成長段階なので、私としても、少し若干の意見の反映になったとは、思います……（笑）
- 具体的なアンケートには答えることがなかったから変化がありました
- 自分は年齢の割に何も考えてない楽観的なんだなあと少し寂しく感じた
- 少しでも日本をよくしたい思いがあったから
- 親に大学 3 人入れるのは経済的に厳しいということを常々言われてきた。その事をアンケートでも伝えたら施策として実行されたので
- 答えかたが複雑にかんじてなんかめんどくさくなってきた。

Q12. あなたが参加した「いけんひろば」のフィードバック資料（しりょう）を1つでも受け取りましたか？
（単数回答）

（Q6で「ある」を選んだ人のみ回答）

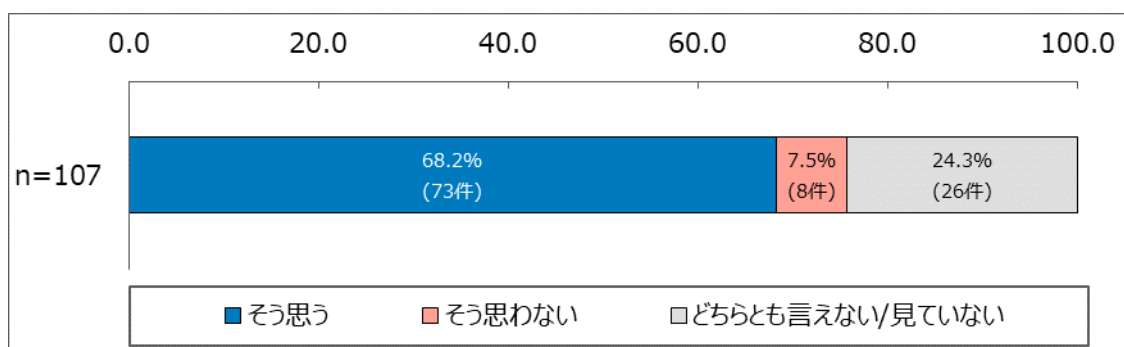


（※）このアンケートを実施した時点でフィードバックまで終了（しゅうりょう）していたいけんひろば一覧（いちらん）

- ・あなたが思う「居場所（いばしょ）」は？（7/31 開催（かいさい））
- ・小学校に入るまでを振り返って楽しかったこと、もっと大人にして欲しかったこと（8/1～8/15 開催）
- ・若者と食の今後について考える！（8/2・3 開催）
- ・農水省（のうすいしょう）へ行ってみよう！（8/24 開催）
- ・こども向けホームページについて（10/9 開催）
- ・『こども大綱（たいこう）』『こどもまんなか社会』をいっしょに考えよう（10/20～23 開催）

Q13. フィードバック資料をみて、自分の意見が反映（はんえい）されたと思いましたか。また、反映されなかった場合でもフィードバックがされたと思いましたか。（単数回答）

（Q6で「ある」& Q12で「はい」を選んだ人のみ回答）



Q14. （Q13の回答について）そう答えたのはどうしてですか。（自由記述）

（Q6で「ある」& Q12で「はい」を選んだ人のみ回答）

Q13で「そう思う」を選んだ人の回答

- ・しっかりと、自分の意見も含めて班で出た内容全てをまとめてもらえてたから。
- ・フィードバック資料に意見が書いてあったから。
- ・フィードバック資料に自分の言ったこと（又は言ったことに近い内容）が書いてあったからです。

- 意見が載っていたため
- 意見が書いてあったから
- 意見が尊重されたと感じたから
- 自分がいったこと、みんなでまとめたことが書いてあったから
- 自分が言ったことがそのまま書かれていたから
- 自分が言った意見が記されていたから。
- 自分たちの班で出た意見がしっかり書かれていたから。
- 自分の意見が載っていたから。
- 自分の意見が資料（フィードバック資料）に載っていると、大人の会議で話し合われそうだから。
- 自分の意見が資料に書かれていたから
- 自分の意見が書かれていたから。
- 自分の意見が反映されたから
- 自分の意見について聞かれて、それについて話し合うことが出来たから。
- 自分の意見もしっかり記載されていたから
- 自分の意見を確認できるから
- 自分の言った意見が反映されていた
- 自分の話がのってたから。（2件）
- 自分の話したことが書かれていたから。
- 実際に言ったことがほぼそのまま書いてあったから
- 実際に参加したのもあったし、資料に自分の考えと似ているものが掲載されていたこともあったから。
- 発言が確かに記録されていたから。
- 発言内容が正確に反映されていたから。
- 反映された文が載っていたからです。
- 僕が言った意見がのってた 以上
- 話し合いの内容が取り入れられていたから
- 話し合った記憶が書かれていたから
- ホームページに載っていたから
- しっかり書かれていたから。
- 全部書き起こしてあったから、フィードバックされたと思いました。ただ、チャットの回については、複数の議論が同時進行していたことで混線していたやり取りが、そのまま発信の時系列順に並べられていたので、これをその場にいなかった誰かが読んでも何の話かわからないんじゃないかなと思いました。返信機能を活用しているものだけでも、会話の内容ごとに分けてもらえたらいいなと思いました。
- 似ていたから
- 自分が言っていたようなものが載っていたから。
- メンバーから来た様々な意見がきちんと網羅されてわかりやすく整理してまとめられ、反映されてい

でもなくても、「自分がこれに協力したんだ」という達成感があった。また、「どうして反映できなかったのか」ということがほとんど明確に伝えられていて、納得することができたと思ったから。

- 意見が反映されない場合にも、なぜ反映されないのかや、その事柄についての考え・方針などのフィードバックがもらえた。
- 一人一人の意見をひとつひとつ丁寧にまとめてくださっていたのを拝見したから。
- こども大綱など、自分と重なる意見がどのように反映されたのか、反映できなかったのか知ることができた
- 私たち子ども・若者の意見を集約した上で大人たちが考えてくれたことが伝わったから。
- 「こども若者★いけんぷらす」事務局から発言をまとめた資料をメールしてもらい、訂正や意見の取り消しについて確認してもらえたから。いけんひろばで伝えそびれた事は次回伝えればよいと思える位、しっかり聞いてもらえている。
- そう感じたところがあったから
- ちゃんと参加していたから
- 自分に自信がついたこと
- 積極的に発言出来たこと
- オンラインでもしっかり質問時間があったり、色んな人への配慮が感じられたから
- 一応腑に落ちる部分はあったので

Q13で「そう思わない」を選んだ人の回答

- あまり自分が思っている意見が反映されていないと感じた。若者が関心を示すような議題が少ない。LGBTQ+や発達障害、若者の生きづらさなどに関心があり、そのことについて意見を言いたかったのだが、それらのログを探したが無かった。それらのテーマがまだ議論されていないと感じた。また、アンケートいけんひろばの参加資格が学生のみ限定されているものも多い。年齢制限があると様々な意見が反映されないのではないか。
- いじめ問題についてのフィードバックがない。あんなにたくさんの方がいじめについて意見を伝えたのに。
- そもそも抜本的な思想の変更を求める意見を送りましたが、既定路線で決められていました。考え直した形跡すらないと感じています。近年の政府の動き全般を鑑みても、意見を受け付けはしたかもしれませんが、反映する気は最初からないのだと思っています。
- 一部の偏った意見にばかり目を向けられていたと感じたから。
- 抽象的かつ他人の意見と同意見と判断したため。
- 文章を見る限り出来レースな感じがした。

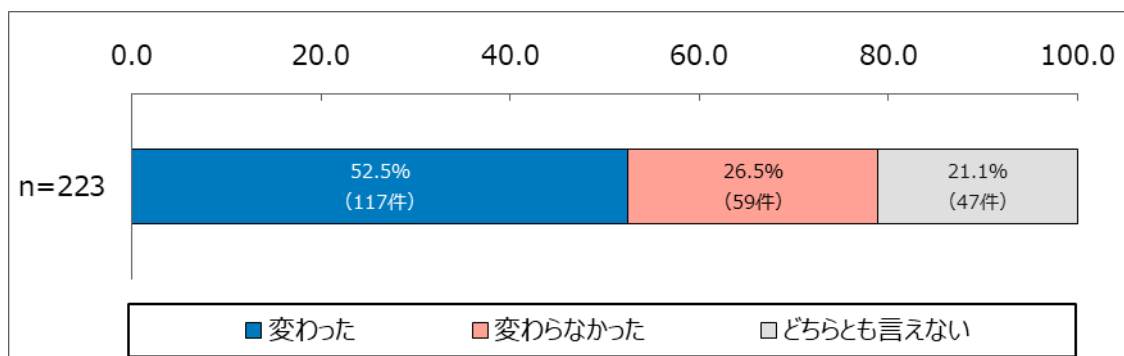
Q13で「どちらとも言えない/見ていない」を選んだ人の回答

- これから見てみます。
- ちゃんと見てないので
- 学校のことで忙しく見るができなかった

- 時間がなく確認出来ていません。すみません。
- 資料が多くて見る気になれなかったからちゃんと見れてない
- 長文のメールが、定期的に大量に届くため、いけんひろば自体の案内すら見逃してしまいそうになる。そのため、添付されたフィードバック資料の存在に気づきにくく、全てに目を通せない事がある。また、自分が見逃しているのであれば大変申し訳ないが、そもそも送られてくるフィードバック資料自体が少ないように感じる。
- 意見がどう反映されているかまで、具体的に分からない。
- 自分が発言したと思う言葉は前後の文脈がないと、テーマとは違うように感じたから
- 自分の意見がどの様に扱われたのか解らないから。
- いけんひろば実施前にいただいた資料からアップデートされた内容があったので、フィードバックしていただけて参加した意味があったなと思いました。自分が伝えたニュアンスなどと異なっていたり、具体的に記載されていない箇所もあったので明確に自分の意見が反映されたかはわからなかったです。
- 意見がまとめられるのは見ているが、細かなニュアンスの違いなどがあるのでもう少し多く挙げてほしいと感じたから。
- 意見はまとめてあるけど、大人からのこの意見に対してこう思うとか全体的にみてこう思ったとか感想とかなにか欲しい
- 会議等で提出された形跡がないため
- 概要版をみても、何を言いたいのかよくわからなかったため。
- 個人の名前が出た訳じゃないから。誰が言った意見かがあまりわからなかった。
- アンケートだけの参加だったため大きな提案などはできなかったから
- 反映範囲の検索が難しかったから
- うーん、たまたま、気になる物と興味などがあれば、ターニングポイントで、積極的に回答致します。

Q15. いけんひろばに参加する前と後では「子ども若者★いけんぷらす」への印象（いんしょう）は変わりましたか？（単数回答）

（Q6で「ある」を選んだ人のみ回答）



Q16. (Q15の回答について) そう答えたのはどうしてですか。(自由記述)

(Q6で「ある」を選んだ人のみ回答)

Q15で「変わった」を選んだ人の回答

- アットホームな雰囲気でも意見話しやすかったので、いい場所だと思った。
- あまり固くなく自由に話せたため。
- スラスラ話せなくても参加して大丈夫だと思えたから。サイレントマジョリティはどのくらい参加しているのか気になる。
- もっと会議的なものだと思っていたが全然かつちりしたものでは無く自分の意見を気軽に言えた。
- もっと堅苦しかったり、疲れたりするかと思っていました。柔らかい印象で、自然体で話したいことを話しました。
- やっぱりお偉いさんいて、みんなスーツでみたいなよくある政治家みたいな現場を想像してたけど、みんなラフな感じで私がやってる子供会議みたいな雰囲気で色んな年齢層がいて面白いと思ったから
- とても和やかな雰囲気の場所だとした
- どんな雰囲気かわからなかったが、みんなと意見をやさしく言い合えたから
- 寄り添ってくれている感じがしてよかった
- 結構堅いイメージだったのが意外とそうでもなかった
- 最初は関係省庁の担当者との意見交換する雰囲気が固いイメージがあったから。
- 思ったよりもラフで話しやすい環境だった。
- 思っていたよりも簡単に参加できたから。どんな意見でも言って良くて、安心するから。
- 思っていたよりも気軽に答えることができた。
- 思っていたより気軽に意見を言える環境だったから
- わりと気軽に参加できるから
- だれでも簡単に参加できることが分かったから。
- なんとなく堅苦しいイメージがあったが、思った以上に手軽に意見交換も出来て、身近なものに感じたから。
- アンケートだけでなく、チャットやオンラインミーティング、対面など多様な方法で、こども若者が意見をしやすい環境が作られているため。以前参加していた内閣府のユース政策モニター等と比べると、とても参加して意見を述べやすいため、「こども若者★いけんぷらす」だけでなく、政府の意見募集事業に対するイメージも変わった。
- 実際に若者なら誰でも登録でき意見が言えることがわかったから
- 声を届けられる場所が遠いものだと思っていたけれど、意外と簡単に届けられることを知れたから。また、政策に関わるとなるとちゃんとした意見を持たなければ、と気負いがちだが、自分が答えられる範囲の参加でよく、後で取り消すこともできることも知れたから。もっと多くの人に「こども若者★いけんぷらす」の存在を知ってもらわないといけないと思う。
- 対面だけでなく、アンケートでも気軽に参加できるからです
- 対面だけでなくオンラインやアンケート形式の参加もでき、思ったより気軽に参加できると感じた。

- 誰でも意見が言えるわけではないと思っていたから
- こまめにアンケートが送られてきて、「ちゃんと私(たち)の意見が求められている」と感じる事ができた。また、フィードバックが送られてくることで「しっかり考えてくれたんだな」と思えて嬉しかった。
- ちゃんと子どもの意見を聞こうとしているんだと思った
- 形だけではなく意見を聞いてもらえたため。
- 結構本格的に意見を聞いてくれるんだなと思った
- 広く子どもの意見を集めていることがとても実感できたから。
- 国主催の子ども若者の声を聞くという取り組みは、なんとなく胡散臭いというか、どこまで本気なのかよくわからなかったが、実際に参加してみると本気度をひしひしと感じたため。
- 参加する前は自分の意見なんて真面目に受け止めてもらえないと感じていた。
- 参加前に想像していたよりこちらの意見を聞いてくれたと思った。同時にフィードバックまではその実感を得られたが、それ以降の工程についてどの程度意見が通されたかは不透明であり、全体としてこの意見プラスの効力は分からないと感じている
- 子ども若者の色んな年代のひとからの意見をしっかり聞こうとしていた為
- 子育てに関する政策だけについて意見を募るのかと思っていたが、それだけでなくこどもを取り巻くさまざまなものに関してこども自身の意見を聞くものだという風に印象が変わった。
- 子供の意見を聞こうとしてくれていた
- 参加した、対面での意見が、きちんと反映されていた事で、子どもの意見を聞いてくれていると思った。
- 意見を言い換えて都合の良いようにするのではなく、実際とほぼ同じような言葉で書いてあったからここは違うと感じたから
- 議事録としてはしっかりと今までの政府の書類やより本音が書かれていたから
- 思ったよりも活動が活発で、しかも自分の意見が本当に国の方針に反映されてマジでビックリしたから。居場所に関するやつは特に感じました。
- 私たちの意見も反映してくれるんだと感じたから。
- 私の話を書いてくれた。
- 私は子供家庭庁に実際に言ってお話を聞いていただいた経験があるから印象が変わりました
- 思ったよりはしっかりと子どものことについて考えてくれているんだらうなと感じたから。
- 僕たちの意見をこんなに聞いてくれたから。
- 本当に子供の意見を聞いてくれるんだなと思った。
- 名前だけではなく 実際にもこどもや若者の意見に耳を傾けているから。
- 政府は国民の意見を聞いてくれないと感じることが多々あったため、「いけんぷらす」に対してもあまり期待していなかった。しかし、若者や子どもの意見を聞こうとしていることが実感できたから。
- 前は意見を言うだけかと思っていたが、僕たちの意見が反映されそうって思ったから
- 結構取り組みが多かったから。
- 思っていたよりも沢山参加できる場面が多かった。
- 思っていたより意見を伝えられる機会が多かった。

- 思っていたより活動がたくさんあったから
- 思っていた以上に活動しており、自分の意見を伝えられる珍しい機会だと感じたから。
- 実際にいけんひろばに参加すると、意見を話すことが多く、発話できる機会が多かったから
- 積極的に意見を言えたこと 今までは意見を言えなかった
- いろいろな人と意見を言い合える場所ができたから(だそうです)
- いろんな人が参加していて、どの人も楽しかったから。
- オンラインで顔を出して話をする際に、自分と同じくらいの方と話をしているはずなのに自分よりも深く考えて凄く良い意見を出されていて、いけんひろばのメンバーの方は自分が想像していたよりもとても考えが深い方がたくさんいらっしゃるのだなと感じたからです。
- まだ発足したばかりの子ども家庭庁ははじめ、どんなことを行っているのか、意見+メンバーに入ったらどんなことができるのかわかりませんでした。しかし、実際に農林水産省に行ったり、子ども家庭庁内で意見交換をしたりと、様々な経験をすることができ、同じチームの仲間たちも考えや意見の内容のレベルが高くて、いい刺激となったからです。
- みんなが意見を言い合っていたから
- メンバーの意見交換が活発だったため、想像よりも意識の高いメンバーが集まっていると感じました。
- 周りの意見を実際に聞くことができ勉強になった様々なテーマを幅広く取り上げており、いけんひろばの参加者の年齢層もかなり広いので意見を吸収するにはとてもよかったです。
- いけんひろばは勝手なイメージで官僚がやっているからお堅そうと思っていたが、柔らかい雰囲気の方々と接することが出来たから。
- スタッフが楽しかった
- 以前までは国の省庁ということもあり、堅いイメージでしたが、参加させて頂いたら自由に意見を言う事ができ、また、職員さんの笑顔も多かったので以前に抱いていたイメージはなくなったから
- 国の人って堅苦しいイメージがあったけれどいつもメールをとても明るく書いてくださったりで面白い人もたくさんいるし本当に子ども・若者のことを考えてよくしようとしてくださっているというのが分かったから。
- 機関としての役割からより身近なものとなった。
- 内閣府に属しているし国の機関だからもっと堅いかと思っていたけど、そんなイメージを抱かない雰囲気だったから。
- 自分が参加することで、意見広場が遠いものだという認識が誤りであるということに気づいたため。
- ひらがなクイズとか楽しかったから
- たのしかったから
- 楽しくなったから
- 面白かった
- 様々なテーマについて、自分で考え意見を出していく過程は楽しいと感じている
- 子ども若者★いけんひろばがやっていることは今すぐ大事なことをやっていると思ったから。
- いろいろな活動をしていることを知れたから。

- 意見を発信できる場が対面でも増えたため。
- 工夫されて、どんどん良いものになっているから
- 考えるきっかけが出来たから
- 自分がぶらすメンバーに参加しているという実感がわいた。
- なんか、難しいないようだから。
- あまりわからなかったから
- 今動いてる施策的に保守系の「理想的家族」像的なものからまだ抜け出し切れて無い感じはある
まあマンパワーとか大人の事情があるのは分かりますし親子関係が良好かつ困難な状態に対して
サポートが可能ならばむやみに引き離すべきでは無いとは思いますがサポートからすり抜けてる
方々が現に居る以上、外部から見えない所で詰んで家庭環境等が修復不能になってる方々の
逃げ道を増やすのも大事な(児相等現場の方は頑張ってると思うんでマンパワー増強とか警
察等との連携しやすさや待遇改善とかやって欲しい)
- 最初はいい印象があったが、なにをしているのかよくわからないので少し悪くなった。いけんひろばの
目的がよくわからない
- 子供のことを考えてやっているとあったけど、進めていくとほぼデザインのことしか聞かれなかったから
- 思ったよりアンケートなど大変だし、対面のイベントなどにも参加したいけど全てテストなどにかぶって
参加できなかったから
- 若年層の意見を吸い上げるという名目に惹かれたが、現役世代が本当にどうにかして欲しいこと
(経済、少子化対策)については触れず、非常にどうでもいいお題についてしか聞かれないうえに
印象が極めて悪くなった。
- やはり、少しずつ変わりましたが、やはり、先ほども申し上げましたが、まだまだ、発展の途中なの
で、これから成長していくと思います。
- 駅などでこども家庭庁の広告を見ると意識する
- 参加してみることで、どんなところか知れたから
- 大人と話し合うと思っていたから

Q15で「変わらなかった」を選んだ人の回答

- 「若者の意見をきいてくれる」という想像で参加してみたら、きちんと自分の意見が反映されていた
から。
- 参加者の意見を汲もうとする姿勢を評価している。基本的なことがきちんとできていると思うため、
こちらが想定していた期待に応えられており、印象はそのままで変わっていない。
- 名前の通り若者の意見をしっかり聞いてくれていると感じたから。
- いい制度だという思いが今のところ変わっていないから
- 元々のイメージと同じように、参加者の意見をしっかりと聞いてくれたから
- もともと意見を聞いてくれると思っていたから。
- 元々参加を希望していて、想定していたから
- 初めから良い印象があったからです。
- ユースラウンドテーブルに参加していたため雰囲気や想像がついていた

- いけんひろばでみんなと話すのは楽しい
- 「こども若者★いけんぷらす」で得られた意見が社会の生活に役立っていると感じられないから。
- アンケートを答えるのが中心で地方の人や高校生にとって参加しづらい時期や時間が多かったから
- こう言った活動をしているのを知っている人がそもそも少数でかつ参加している人もすくないから
- 家庭庁から来るメール以外でこの取り組みを目にすることがなかったから。
- どこまでこの活動に影響力があるのかわからないままだから。
- 意見として、採用されているのか不明なため。
- 映像も見にくいし、何を言ってるかがわからないから、楽しくなくなった
- 結論ありきと感じてしまった。どの部分に国民の声が反映されているのか見える化されるとより良い取り組みになると思う。
- 大人の都合の悪いことはあまり聞く印象ではなかった。
- 準備してくれている方との距離を感じます。距離があるのは当たり前ですが、とても親切なので嬉しいですが、意見を言う場では、いつもとは違うよそ行きの自分のままだったように思ったからです。
- 話が難しい時があったから。
- あまり発表を見れていない
- いけんぷらすについて、あまり知らないから
- ニュース等で見ていた感覚と変わらなかった
- まだあまり活動に参加できていないため
- 自分の想定通りだったから。
- 最近登録したので
- 説明どおりだった
- 前をよく知らないから
- 対面のいけんひろばに参加して思った
- 大方、想像通りであるため
- フィードバック時に意見が結構まとめられすぎてるように感じたので、どれくらい意見が届くのか100%の期待では無かったので予想していたくらいの量だったから。

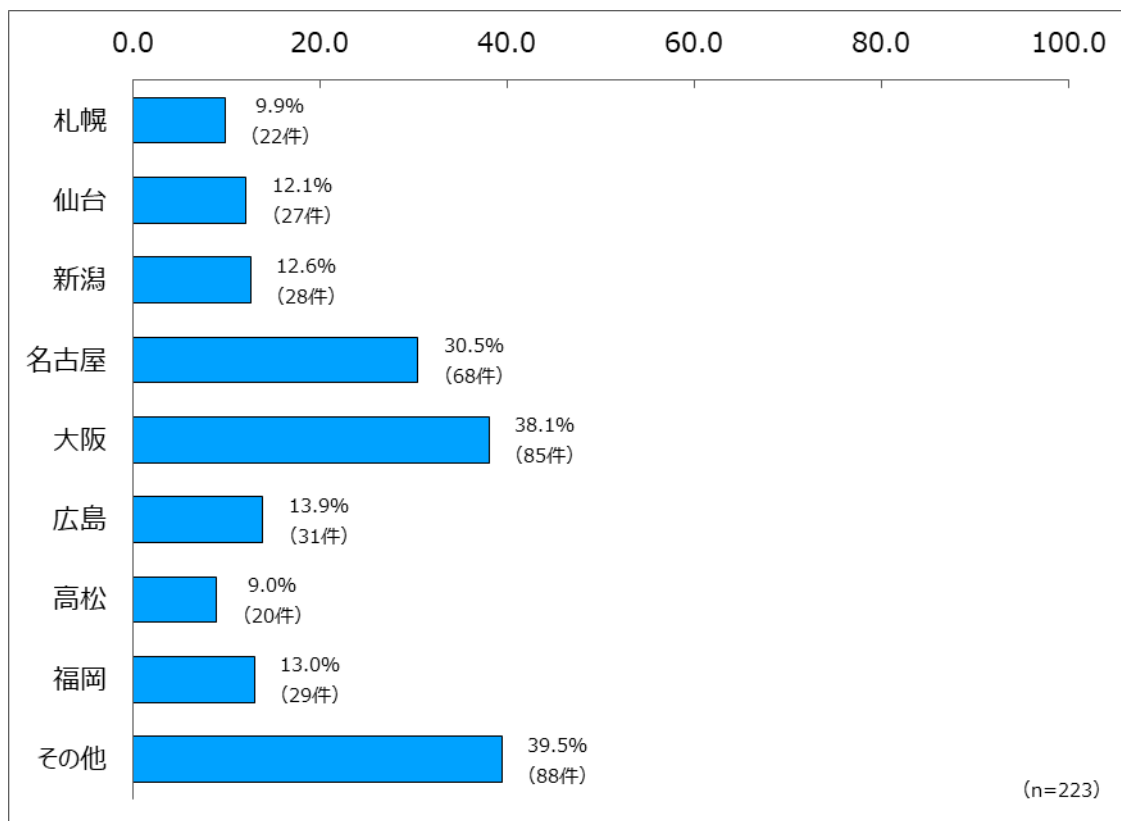
Q15 で「どちらとも言えない」を選んだ人の回答

- あまりいみわかんないのもあるので
- なんかわからない
- よくわからない
- 印象がぼんやりとしかなかったので、変わったとも変わらなかったとも言い難い。すべてに参加できたわけでもないの、いまも「こども若者★いけんぷらす」についてぼんやりとしか分かっていない。
- どう反映されたか具体的に分からず判断がつかない。
- とくにかわったことが思いつかないから
- 意見を言っただけだから。

- 意見を集めているだけで何か変わったという実感がない。
- まだ政策に反映されていないから
- 自分がそういう系に参加していないのかもしれませんが、何か政策において意見を反映してもらうようなものがないと感じました。
- 内容自体はとても良かったが 本当の実績として変わっていくのかもやもやしているため。
- 参加してる感覚がつかみにくかったから
- 実感がない
- アンケートしか参加していないため
- アンケートだけなので参加した感覚があまりない。
- あまりイメージがないまま参加したから。
- いけんぷらすという取り組みを知らなかったから。
- 参加する前の印象の記憶がない為
- 知らないままに参加したから
- 意見広場に参加する前の印象を覚えていないから。
- もう少し大胆に報道した方がいいと感じた
- 自分のイメージと実際参加したイメージが半々だったから。
- 一応は若者の意見を活かすつもりも、育成するつもりもあるのだと思っていましたが、あまりにもお粗末なシステムとやる気のなさを前に、やっぱり形だけだったと思いました。もっとも、元々期待はしていなかったので元に戻っただけのことです。
- 良くも悪くも大人はまとめられるし、かと言って積極性がある人がこんな回に参加するとはあまり思えず…想像通りだな、というところ。もっと THE リーダー！トップ！仕事できます！みたいな人がほしい

Q17. 今後、いけんひろば（対面）を東京以外でも開催（かいさい）したいと思っています。開催するにあたって、どこなら参加しやすいですか。（複数回答）

（Q6で「ある」を選んだ人のみ回答）



Q17. 「その他」の内容

- 東京（10件）
- 東京都が良いです。
- 東京在住なので他の人の内容を反映してください
- 東京在住なので、東京以外は参加しづらいです。
- 東京以外ない
- 東京は参加しやすい。神奈川も近いのでいきやすい
- 東京に住んでいる者は当てはまる場所はなく、必須回答とすべきでない。
- 東京なので、関東圏なら。
- 東京で良い
- 東京だと近いので助かります
- 東京が参加しやすい。
- 東京が最も行きやすい
- 東京が一番良い

- 東京がいいです。
- 神奈川県か東京都
- 神奈川（6件）
- 横浜（5件）
- 神奈川県綾瀬市
- 横浜・さいたま
- 埼玉、神奈川、千葉
- 埼玉、横浜、千葉
- 埼玉
- 埼玉県坂戸市・埼玉県川越市・埼玉県鶴ヶ島市・埼玉県東松山市・埼玉県毛呂山町
- 千葉県
- 高崎
- 栃木（2件）
- 都民なので関東
- 関東の中
- 関東
- 山形
- 愛知
- 静岡や浜松
- 長野県（2件）
- 長野、金沢
- 石川
- 金沢（2件）
- 富山（2件）
- 京都府（7件）
- 京都、岐阜
- 兵庫県(神戸市)
- 地元（奈良県）であれば参加したい
- 山口 下関か北九州
- 愛媛、岡山
- 岡山、山口、愛媛、横浜
- 熊本（2件）
- 宮崎
- 沖縄県（5件）
- 可能ならば、各都道府県で実施してもらいたい
- 最寄りが一番参加しやすいのは勿論なのですが、全県でやるわけにはいかないのであれば、交通の便が良い場所がいいです。会場も駅前が嬉しいです。（九州地域なら、どの県からでもどの交

通手段でも福岡が一番参加しやすいと思います。)

- 場所がどこであろうと参加したいです！
- なし（2件）
- 無い
- 特にない
- 引越しの可能性があるため回答できない。

Q18. どうなればもっと「いけんひろば」に参加したいと思いますか。（自由記述）

（Q6で「ある」を選んだ人のみ回答）

- 「いけんひろば」で集められた意見がどのように政策に反映されるのか、詳細なプロセスが可視化されれば、「いけんひろば」に参加する意義を見出すことができ、もっと参加者が増えると思う。また、採用されない意見もあって当然だと思うが、その採用基準も明確に示してもらい、分かりやすくチラシみたいな感じでまとめてもらえれば見やすいのではないか。
- こんな意見をもらって、こう反映しました！という実際にやったかどうか分かるものをひとつでも見せてほしい 全部後日だし開示できませんだし協力してる感がない
- ここが意見広場から出た意見で反映されました。とわかりやすくなったら
- ぼくの意見が反映されたら
- 意見をきちんと反映させる力がなければ、参加しても意味がないと思ってしまう。
- 実際に子供意見ひろばの意見が政策に反映されたらもっといいと思う
- 認知度をあげる。皆の意見が反映されることを知ってもらう。
- 話し合いが苦手だからアンケートをもっと増やしてほしい。どのように意見が反映されたのかをもっと示してほしい。
- もっと良くなるような変化が見える
- 意見がどのように伝わるのかを言う、参加したことへのメリットを伝える
- 意見が反映されていることが感じられる。子育てしやすいように政策が変化する。現状は、扶養控除復活、拡大してほしいとみんな言っているのに正反対の政策なので、あまり気乗りがしない
- テーマを充実させてほしい。今のテーマだと回答出来る人間に限られていることもあり、意見が集まりにくいテーマもある。未就学児のこどもから若者世代まで幅広く意見を聞いてほしい。
- メンバーが関心のあるテーマの「いけんひろば」を開催すれば良いと思う
- もっといろいろなテーマを取り入れる
- 意見の言いやすいテーマ（自身に身近な）が絞られている。
- 色々なテーマの意見広場を開催するなど
- 幅広いテーマを取扱う
- 身近なところで分かりやすい議題
- 自分の議論したい話題も伝えられるようになり、話し合えるようになったらと思う。
- ニュースになるような話題を話し合えるタイミングがある。
- ひとのいけんをよんでから問題を聞いたり、なんの問題を出すかも聞いたら良い

- もっと大人に都合の悪いことを聞くべき（大人にとって都合の良いことは大人だけでも出ると思うため）
- 研究のように1つのことを1回だけではなく、繰り返し行う。年齢に近い話題のアンケートにする。どのような社会だと子どもを育てやすいのかよりも、私が住んでいる街は人口減少が激しいです。多くの人は楽しめる場所がないと思っています。子どもが住んでいて楽しい。この街がすきと思える場所にするために、全国で違うサービスのいいところ悪いところを話題にして、都市の改善につながるものをしてほしい。今の身近な、子どもの学習環境などの地域格差を話題にしてほしい。結婚や子どもの話題は、その年代の人にまずは聞いてほしいです。
- アンケートは「若年層ごときに回答を任せても構わないどうでもいい質問」しか来ないし、オンラインや対面は「生活に直接関係の無い重要度が非常に低いお題」しか来ないため参加する気が起きない。現役世代が本当に思っていることを吸い上げられるものが来ない限り参加したくない。
- もっと民間に寄り添うべきだと思います。来るアンケート等は基本的に大学進学が当たり前だったりと今であれば裕福な方が考えた夢だなという認識です。あと身分の確認もかなり手間だと思います。常に受け付ける形であるべきだと思います。
- もっと簡単なアンケートだったら参加しやすい
- 内容が簡単で参加人数がかなりいるのなら
- 難しい質問を分かりやすくしてくれるといいと思う
- 簡単になる
- イメージのわかりやすい資料などを増やすこと
- 内容だけを聞くのではなく、これを投稿するとどうゆう効果があるかを伝えて欲しい・もう少し小さい子供も分かるようにつけてほしい・政策を分かりやすく子供に伝えて欲しい
- 答えやすく、かんたんな内容にしてほしい
- 日程、時間帯の選択肢を増やし 一回あたりの募集人数がより多ければ参加したいと思う。
- 遠方からの参加なので、もう少し早く予定が決まると嬉しいなと思います。1ヶ月前には決定していると助かります
- 対面・オンライン開催のいけんひろばが行われる日に自分の予定が入っていない
- 予定が合わないので、参加できない。
- 夏休みなど長期の休みの時でちかければ参加したい
- 自分の参加出来る時間にオンラインや対面が開催されると、もっと参加しやすいのこと思います。授業が終わり、家に着くのが早くて18時頃なので。
- 場所が近くなる、時間の変更
- 場所も聞くなら希望の時間帯も聞くのでは？参加する人の立場になって考えて欲しい。それかこういうアンケートで募集するべき
- 時間帯が週末ならば可能です。
- 自分にとって身近である問題であること。開催場所や日付が困難なものにならないか。
- もっと回数を増やしてほしいです
- 頻繁に開催して欲しい

- 意見聴取、交換の場の増加。色々な内容や場所を設けることにより、各人がこの意見なら発言しやすい、この場なら言えるというものを増やしていくこと。
- 同じ学校や塾のひとつといっしょに参加できたらいい。
- 同年代同士で色々な意見交換をしたい。
- 回数を増やす。参加できる人数を増やす。
- 障害者のみなさんと参加したい
- 人数制限が少ない
- 友人と参加できたら、緊張せず積極的になれると思う。連名で応募できるよう、参加可能な人数を増やせるようにしてほしい。
- 社会人層がもっと参加対象になっていると参加しやすいです。
- 年代・学年ごとに分けて、意見を提示する企画があれば、参加したい。
- 年齢制限を出来ればなくしてほしい。30代以上の親世代の意見も取り入れられるようになってほしい。
- 歳の近い人が参加するってわかっていれば。
- 地方でも開催
- 東京がどうしても中心になってしまっているので都道府県で意見広場を開催したりするのいいと思う
- 「いけんひろば」の対面実施をより多くの地域で増やすこと。
- いけんひろば（対面）を東京以外でも開催して頂けると参加しやすいと思いました。
- もっと対面の参加人数を増やしてほしいです。
- 対面で行う際に東京だけだと大学もあるしバイトもあるので気軽に行くことができない。気軽に行けるようにしてほしい。
- 対面の地方開催
- 開催場所が近い
- 開催場所が増える事、メンバー間での交流があればより活発化されると思います。
- 開催場所を増やして開催場所から遠くの人でも気軽に行けるようにしたり、土曜日だけでなく日曜日にも開催して行きやすいようにすれば良いと思います。
- 開催地が近い
- いろんな場所で開催する。「いけんひろば」だけでなく、みんなが参加して、話し合えるフェスみたいなのがあればいいと思う
- もっと積極的に地方にいる若者にも参加を呼びかけるべき。
- もっといろんなところ(田舎など)で開催する
- 子供に人気のコンテンツとのコラボ・ダーツの旅みたいランダムで学校(特別支援学校や小児病棟、少年院等未成年中心の入所施設も含む)出張広場を開く(先生等いつも居る大人に聞かれたくない話も相談出来る様な配慮は要る)
- 対面を増やす、年齢関係なく色々な人が集まる場を設ける、社会的養護を受けた人限定の場をつくりディスカッションする
- 対面をふやしてほしい

- できるだけ対面開催も増やせるといいと思う。参加したという実感が湧きやすくなるし、もっと参加したいと思えるかもしれない。
- 交通費や参加費が出れば行ける範囲で参加してみたい
- 遠くの人でも参加しやすいよう、Q17 のようになるべく日本中で開催するようにする。また、(難しいかもしれないが)会場までの交通費の助成があれば行きやすくなると思う。
- 地方住みなので、電車代金の補助などがあれば行きやすい
- オンラインのイベントや、定員を増やす
- オンラインやアンケートの方が、参加しやすいです。
- オンラインを増やす
- オンライン参加で、耳だけ参加や、発言がチャットだけでも OK だったら参加しやすい。
- オンラインで参加する際、ビデオをオンにする必要があるかどうか先に決めてあると助かります
- 参加しやすい場所(対面)完全カメラオフのオンライン会議(自分はもう抵抗はないが、実質カメラオン必須の空気になるオンライン会議は最初に参加するにはハードルが高い、次以降不参加となると感じたため)
- 自分が住んでる場所に近いところやオンラインでいけんひろばが開催したら参加したいと思います。また、参加する子供たちが多いと行きやすいと思います。
- 対面よりもアンケートを積極的にやってくれたら参加しやすい。
- 自分の時間で参加できるもの(アンケートなど)を増やすと良いと思う
- アンケートのもの、チャットのものをもっと増やして、いつでも気軽に参加できるようにしたら良いとおもう。
- アンケートをぜひもっと増やしてほしいです。
- 1 回のアンケートの質問の数を減らす
- チャットのいけんひろばが、予定を拘束されず参加しやすかったため参加したい。アンケートはもう少し 1 つの量が少ないか、途中でも送信できると参加したくなる。
- チャットの会場を増やすなどがあれば参加しやすいかもしれません
- チャット開催が場所にとらわれず参加しやすかったので、継続してほしいです。
- 休日を使っのチャット回や、19:00 以降のオンライン回が参加しやすかったです。アンケートも簡単なのですが、見逃しがちなのでメールの冒頭や件名などでわかりやすくして欲しいです。LINE などはやらないのでしょうか。
- イベントの周知と参加者数の規模の拡大
- メンバーを各地方の応援広報隊になってもらい、多くの人に存在を周知することで参加者も増えると思う。
- ①開催場所を増やしたりオンラインの場が増える②子ども若者がいく施設に広告をだす③テレビ SNS 発信④ラジオ体操のヤクルトのように参加した証をつくる
- もっと意見広場に対しての知名度を高くて、様々な人が参加できるような仕方にする。例) 知名度を高くする・学校で子ども家庭庁を紹介する・広告を作る(CM など)・多くの人に参加する・バリアフリー、ユニバーサルデザインを活用する・参加の方法をいくつか分ける

- もっと社会にもアピールして周りの人も参加しやすいようになったら積極的に参加しやすくなると思います。
- 現在の若者は政治に対して受動的であり、能動的に情報を見つけて参加することをしない。だからそう言った人にも目に映るような形で広告を出すことや受動的な人が能動的な行動を打つような教育があれば参加すると思う人が増えると思う。
- 小学校で知ってもらうようにする
- これらの活動をもっと世間の人に知ってほしい
- LINE や Instagram といった手軽なメディアによる情報発信
- 思ったこと、感じたことを意見交換する場所だと皆に分かってもらう。
- 私たちの意見を職員さんが真剣に読んでいるところがみられたら。
- 子どもの権利を知らない大人達がまだまだ多すぎると感じる。18 歳未満までの子ども達の意見をしっかりと聞いてくれる大人が増え、この意見ひろばを活用出来る事を知らせてほしい。そうすれば、たくさん子ども達が自分達の意見を聞いてもらう事が出来る場所として、友達にも話をする機会が増えてくると思う。
- 対面やオンラインでのいけんひろばがどのような雰囲気で行われているか不透明なのが現状なので、実際にどのような様子なのかプライバシーに最大限配慮した形で知れると参加しやすくなると思う。
- いけんひろば（対面、オンライン）の様子の動画や配信があるとわかりやすい
- いけんひろばの様子をもっと知りたい
- SNS(Twitter など)や CM でどんな意見ひろばが開かれてどんな意見が出たのかを紹介できる範囲で紹介がされたり、その意見が提出された先での話し合いの指摘なども私達に返ってきたりしてもらえると、自分たちの話し合いがこの中だけで終わってないんだなと感じられる。
- YouTube ショートや YouTube で結果がすぐみれるとか
- 対面だけで開かれる「いけんひろば」もあるため、対面・オンラインの併用がもっと進むと良いと思う。また、こども家庭庁のこども用の HP が変わったように、いけんひろばの案内をよりわかりやすく行う HP もあれば、より参加しやすくなる（情報を見逃しにくくなる）と思う。
- 今までメールでの参加・応募依頼が多いが気が付かないので、公式ラインを作りさまざまな入り口の導線を作っていけると参加しやすいと思う人が増えてくるかと思います。
- メール以外でも見やすくなる。友達同士でグループ参加できる。
- メール単体だけでなくポータルサイトの様な所で纏めて対面やオンラインでの参加表明、またはこういったアンケートへの回答が一瞥出来ると便利に感じるので参加頻度は高くなると思います。
- もっといけんひろばを通した活動に利便性が上がればより参加したいと思う。具体的にはアンケートの回答からフィードバック資料の閲覧、対面でのいけんひろばのレポートなどを一括して同じサイトやアプリなどでできるととてもありがたい。
- Google メール以外での意見募集のお知らせがあればいいと思います。ラインや Twitter、インスタグラムなどの若者が使いやすいツールがあればもっと広まる可能性があるから。
- 「ひろば」という名前なので、恒常的なプラットフォームのひとつでも置いたらどうかと思います。

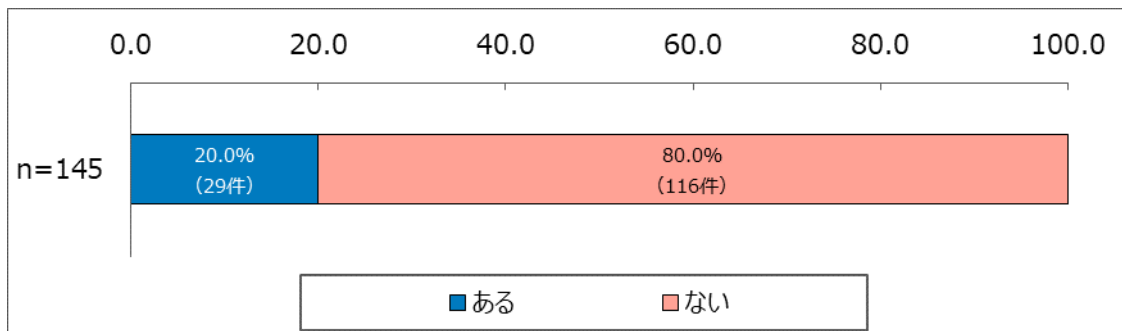
参加している意識もあまり持てません。それと、登録の手続きに時間がかかりすぎますし、いつから参加になったのかもイマイチよく分かりませんでした。年齢確認が終わる前からイベント案内が来て、自分が参加可能なのかも不明でした。登録後も自分の登録がきちんとされているかどうか確認する手段が届いたメール一通しかなく、これまでに回答したテーマの一覧も見られません。結局のところ何かの拍子に都合の悪い人間は「実は間違いだった」「エラーで受け付けていなかった」などと言って意見どころか存在ごとになかったことにされるのだらうと思っています。あとから入った人はこれまでにどんなテーマが行われたかも知ることができません。「いけんひろば」としての一貫性や持続性がユーザー側に一切ありません。さらに、テーマは常に上から与えられ、本当に自由な意見を述べる機会也没有。テーマ立てや日常で思ったことも自由に言える場があってはじめて、本当に必要な声を拾えるのではありませんか。参加者の年齢を考えると、このシステムでは問題なく参加継続できる子どもは限られ、ごく特権的な層の意見しか拾えないと思います。

- 意見の足りないところを補う為に他者との相互的な交流の場を設ける
- 参加前に他の参加者の自己紹介がほしい。ニックネームと好きな食べ物程度でいいので、人間味がほんのちょっぴり分かると安心しやすい。
- 事前に参加する人同士で顔合わせがあると、当日緊張しなくてすむかと思う。
- 私はテーマについて話し合うことを目的として参加させていただきましたが、話し合いが終わった後の人とのつながりの部分（同じグループだった人のことを知る場、その意見ひろばを主催した人の中で積極的な活動をしている人とのかかわりの場）がもっと大切にされると良いと思いました。全体として強制的にそのような時間を取って欲しいわけではなく、話し合いが終わった後の関心のある人と話す時間があれば良いと思いました。
- 地域の担代表として、地域同士のメンバーとのつながりや大人の地域連絡者みたいな方がいて、参加案内が来たら 検討すると思う。
- 子供向けすぎない企画があれば参加したいです。
- 旅を兼ねて参加する
- みんなでもっと遊んだり、交流を深めたい
- 座ってずっと話を聞いたりするだけではなく、みんなと交流したり、遊ぶ時間を作ったら良いかもしれない。
- クイズとか作る
- あまり、時間を要し過ぎない程度に遠い所に行くならば、観光とかちょっぴりできるくらいの感じがあれば、参加しようと思う。とにかく、話したことに対して色々な人のフィードバックが欲しい
- もう少し長い時間話し合いたい
- 対面での時間をもう少し長くしてほしい。2 時間だと足りないので、物足りなさが正直残ってしまうから。
- 宿題もあるし、ゲームもしたいから短い時間の方がいい。
- 短い時間の方が良い。
- みんなの意見が知りたいです
- もっと意見を聞いてもらえたら。本当に困っていることを知ってもらえるのなら。

- 意見をより交換しやすい環境になれば参加しやすいと思います。
- 自由でフリーな意見で、もうちょっとしつくり来るような感じで。
- 双方向性をもっとあると参加意欲が湧く。
- ファシリテーターさんにもう少し意見が言いやすくなるようにしてもらいたい
- 今まで僕は充分だと思いますが、強いて言うなら何か参加証明書が発行されるなど、大学入試に有利になればいいと思います。
- 「すごくてのしいよ！」みたいなキャッチコピーをつけたらよさそう
- 遠い場所などの時親への説明
- まだ開設したばかりなので知名度が低いのもありますし、意見を出すだけで無く実際に何かに携わることのできるものがあれば魅力的なのではないかと思えます。
- 過去に行ったテーマの 2 回目の実施や、いけんひろば実施後の省庁の担当者の方へのインタビューやアフターケアが必要です。過去に参加した会では、担当者の方の成果物に対して批判が多い結果になり、参加者側が批判をするだけで終わってしまっは、いけんひろばを実施する意味は薄いと考えます。担当者本人からすると、どのように改善すれば良いのか分からないことも多いと思うので、実施後の担当者の感想をインタビュー形式で WEB で配信して感想を募ったり、担当者からラフレベルで良いので改善案をいくつか提案してもらい、良い案のアンケートを取るといったアフターケアを行うと良いと思います。いけんひろばの募集に落ちたりして意見が言えなかった人も多いと思うので、継続的に同じテーマの練り上げを行うことで、1 つのテーマに多くの参加者が関わることができ、参加のモチベーションが上がると思えます。
- 外国にルーツのある子ども達も参加できるように多言語で募集をする。今通っている日本の公立の学校と海外の学校との学校の違いを聞いて、日本の学校に足りない所を見つけたい。大人は仕事をしたら報酬があるが、いけんひろばに参加する子どもは報酬なしのボランティアで、何故なのか。正しくアンケートに答えたり、いけんひろばに参加したらポイントが貯まり、体験ギフトカタログを作り選べるようにできたらどんな子も経験が増えて人生が豊かになると思う。
- 各省の高級官僚、政治家に直接質疑する機会の創出
- 国会議員を招く。
- 楽しい企画だったら、参加したいなあと思います。
- 楽しければ
- 居場所作りや孤独を防ぐ取り組みをしている方々の情報を知れたり、ネットだけでなく、現実場面で弱音を吐ける場所を増やす活動ができれば、もっと参加したいと思う。ボランティアでも。
- 今で十分だと思う。今でも私は参加したいと思う。
- 今のままでも参加したいと思うものはあるので、このまま続けていかれるといいと思う。
- 今のままでも十分であると思えます
- 今まで通りでいい
- 特になし

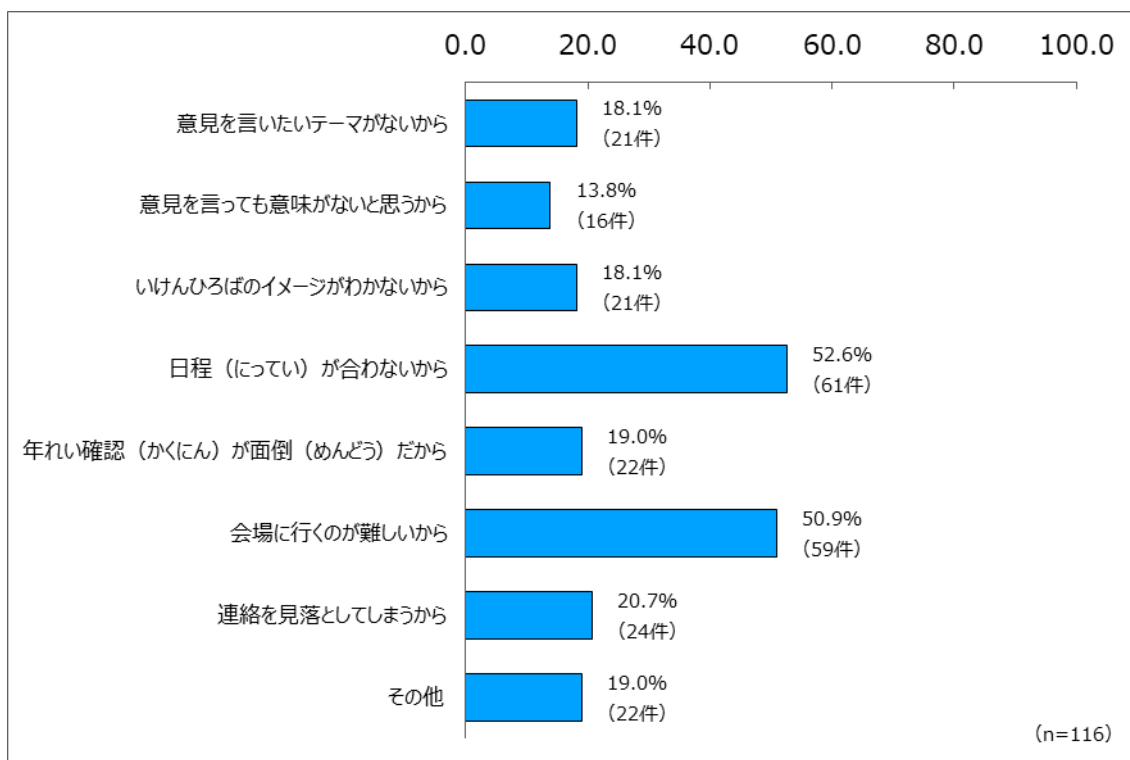
Q19. 今までに「いけんひろば」に応募（おうぼ）したことがありますか？（単数回答）

（Q6で「ない」を選んだ人のみ回答）



Q20. いけんひろばに応募しなかったのはどうしてですか。（複数回答）

（Q6で「ない」&Q19で「ない」を選んだ人のみ回答）



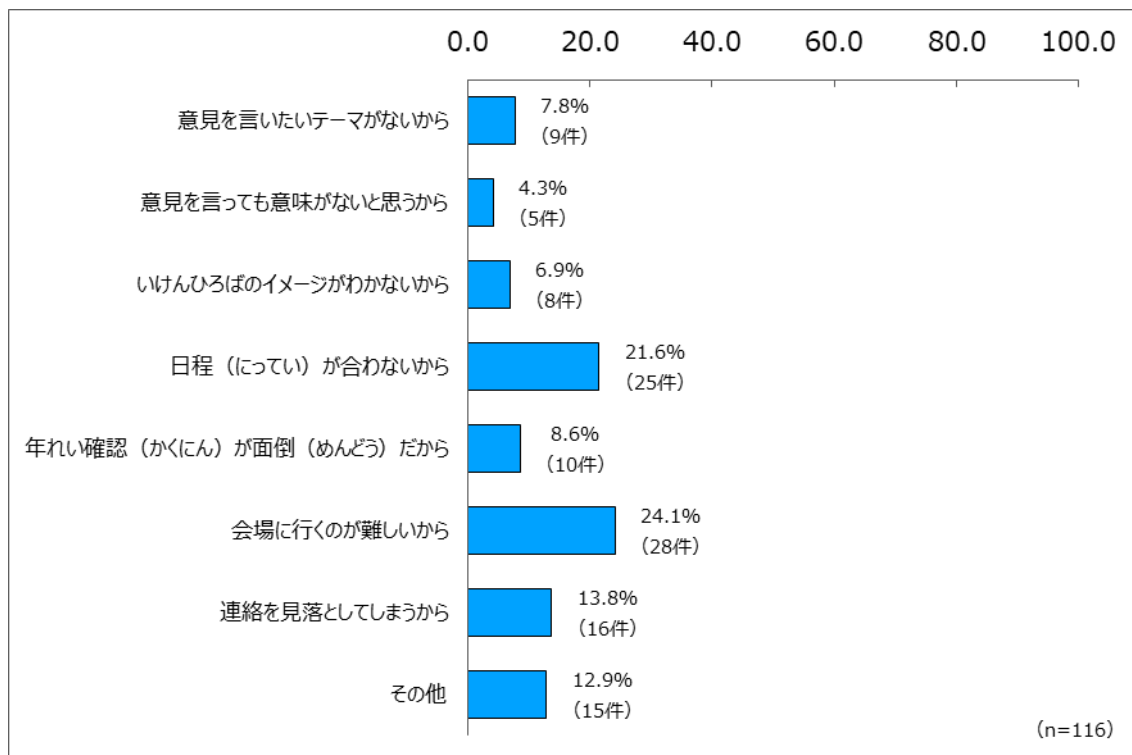
Q20. 「その他」の内容

- 登録が最近で今回が初めてなので。
- 最近登録した為
- 最近メンバー登録したばかりで、いけんひろばの募集がなかったから
- 最近、登録した為
- 今回入ったばかりだから。

- いけんひろばを知らなかった
- いけんひろばにメンバー登録して、最初に答えたものが本アンケートだったため。
- まだ参加して間もないため
- 「いけんひろば」のことを知ったのが最近（1～2ヶ月）で「いけんひろば」はそれまで知らなかったから
- 年齢確認は知らない
- 言いたかった意見があっても年齢が限られていて言えなかったから。
- 個人情報教えることに抵抗があり年齢確認をしていないから。
- 授業課題の提出など、日々の生活でのタスクの方を優先するから。
- 受験生なのでそれどころではないから。
- 連絡を見ても、忘れてしまうから
- 一人で新しいところ（知らない人がいるところ）に行くことに抵抗を感じてしまう性格のため
- ちょっと面倒だから。また年齢幅が大きく議論になりづらいと思ったから。
- ちょっとこわいから
- しつものいみがわからなかったから。
- 自分の関心が政治に偏ってしまっているため、事柄の性質上、それに関していけんひろばを開催する、というのは厳しそう。
- 自分が直面する内容しか意見が出せません。
- もっと真っ先に行うべき大事なテーマ(年少扶養控除、障害児の家庭含む所得制限、子育て世帯の税負担)をわざと取り扱おうとしないし、中には予算を無駄遣いしているような内容(イベント)もあり、こども家庭庁の活動に意義を見出せないから。

Q21. Q20 で選んだものの中から、「いけんひろば」に応募しなかった理由として最も当てはまるものを1つ教えてください。（単数回答）

（Q6で「ない」とQ19で「ない」を選んだ人のみ回答）



Q21. 「その他」の内容

- 最近登録した為（2件）
- 最近メンバー登録したばかりで、いけんひろばの募集がなかったから
- 登録が最近で今回が初めてなので。
- いけんひろばにメンバー登録して、最初に答えたものが本アンケートだったため。
- 受験生なのでそれどころではないから。
- 今回入ったばかりだから。
- 自分の関心が政治に偏ってしまっているため、事柄の性質上、それに関していけんひろばを開催する、というのは厳しそう。
- もっと真っ先に行うべき大事なテーマ(年少扶養控除、障害児の家庭含む所得制限、子育て世帯の税負担)をわざと取り扱おうとしないし、中には予算を無駄遣いしているような内容(イベント)もあり、子ども家庭庁の活動に意義を見出せないから。
- 質問の内容がよくわかりません。
- どんないけんをいけばいいかわからなかった。
- いけんひろばを知らなかった
- ちょっとこわいから

- ども家庭庁自体、利権の塊というのもあるし、母親が「待った方がいい」と言ったから
- ども家庭庁の存在意義が無いと思うから

Q22. Q21 で選んだ「いけんひろば」に応募しなかった理由について、どのように改善されれば、「いけんひろば」に応募したくなりますか。(自由記述)

(Q6 で「ない」& Q19 で「ない」を選んだ人のみ回答)

- LINE 公式アカウントでの定期的な告知。
- 公式 LINE
- 今回のようなメールアドレスでやり取りするメールからだけでなく、電話番号で使えるショートメールサービスからや、LINE 公式アカウントからもお知らせしてくれれば
- メールが読みにくい。漢字ありとひらがな分けてほしい
- メールでの連絡だと気づかないので、LINE での連絡の方が気づきやすいと思う。
- いけんひろばで集めた意見をメールしてほしい。あとそれを実現してほしい。広告とかじゃなくて、こどもが大人にやってほしいことをしてほしい。
- 日程とテーマが一致したら参加してみたい。また、イメージが湧きやすいように、それぞれの会の報告書があったらみたい。もし、報告書を見落としているのであれば、もっとわかりやすく報告書を提示して欲しい。
- アンケートだけならやる
- アンケートの中に自由に記述できる項目が追加されたら
- アンケート形式
- オンラインでの参加が可能になったら参加してみたいという興味があります
- オンラインで顔を出したくないので、チャット形式にしてもらえると嬉しい。
- オンライン開催
- このようにアンケート形式にしたり、リモートで行うものを増やすことで、参加しやすくなると思います。
- 意見を書くのが苦手なので、選択肢があるものと嬉しいです
- 会場に行ったりオンラインで話すのは、兄弟との兼ね合いなどで難しいので、書面やスマートフォンを通して、文章で意見を伝えられるようにしていただきたい。
- もっと簡単に参加できる方法があれば良いと思う
- 同年代だけで議論ができるタイミングも欲しい。また堅苦しいイメージがあるためもっと気軽に行けるような場所にしていくべきだと思う。
- いろいろな日程で実施
- いけんひろばスタッフの皆さんの勤務時間によって難しいのだと思いますが、土日等に開催していただけると嬉しいです。
- もっと行きやすい場所、行きやすい時間、行きやすい日にちにして欲しいです。学校を休んだり、習い事を休んでまで行くことができないから、土日や祝日、19 時以降からとかならもっと行きやすいと思う。また、場所が遠すぎて費用がかかるしそんなところにも行く時間はないから、もっと地方

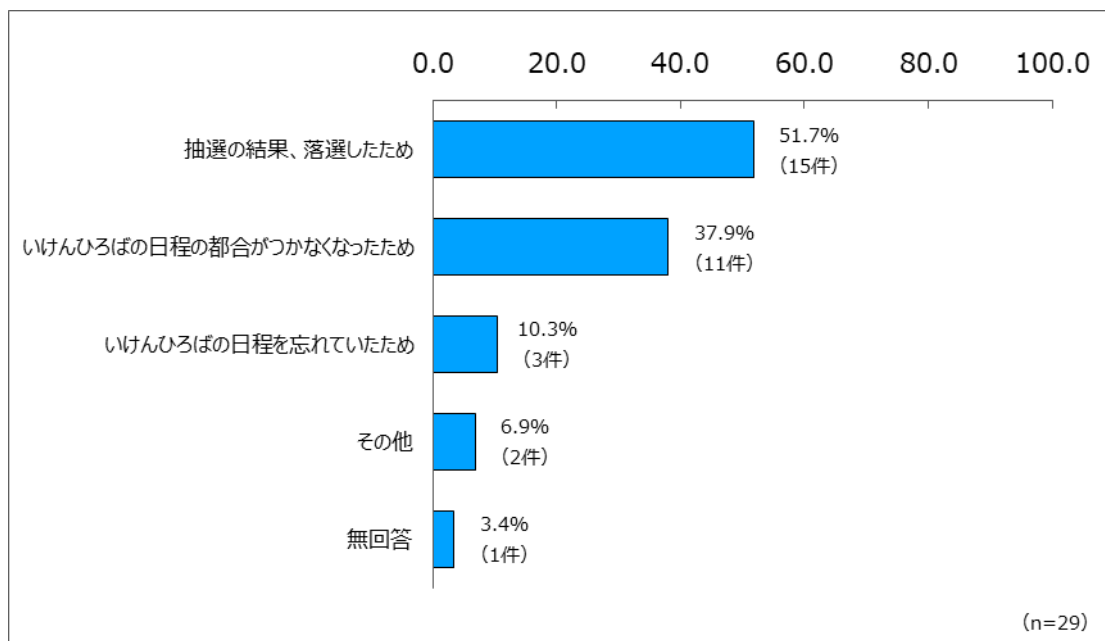
ごとに開催することができたら行ける人は増えると思う。

- 回答者側の日程が合うこと。
- 日程を増やす
- 平日の昼などに開催しても学校に通ってる人が多いと思うので、せめて平日の夕方以降に開催した方が良くと思う。土日は役所はお休みかもしれないけれど、参加人数は多いと思う。
- 夜間(20時～22時)くらいの時間帯の休日のオンラインでの開催
- 長期休みの間に設定してほしい。
- 土日にして欲しい。自分自身が保育園で勤務していると終わりが遅く、参加不可能
- 社会人対象のものは20時以降など仕事をした後に参加出来るものと参加しやすい。連絡に関しては、メールだと開く時間も無く見落としやすいのでサイトやアプリがあるとわかりやすい
- 開催する場所を増やす
- 近くであれば行ってみたい
- 近くでやるかアンケート式にする
- 地元でいけんひろばを開催してくれたら、応募したいです。
- 東京だけでなく各地方ごとに集合できるような仕組みを取り入れる
- 東京だけではなく全国でやってほしい。時間の都合も難しいので、何度もたくさん機会があれば参加しやすい。
- 住んでいるところと近いところならば
- 「若者の政治参画を促すには？」みたいなテーマがあると嬉しいが、こども家庭庁は、そういう系の管轄ではなさそう…。
- 子ども目線以外にも大人の子どもの時代を想像させるような質問をしていただけるとありがたいです。
- 自分が毎日の生活で、社会と関わり問題に感じたことがテーマになれば応募したいです。具体的には、過ごす時間の長い学校に関して最も意見が多いです。
- 個人情報を入れなくても、意見が反映されれば、応募したい、と思う。
- ①個人情報の提出は任意にしてほしい。個人情報流出する昨今で、簡単なアンケートを答えるために免許証やマイナンバーなどをネット上に提出することに抵抗があった。②対象年齢の拡大。30～40代の親世代にも意見を募った方が良く③調査方法の拡充。学校を通じて子どもの意見を平等に聞いた方が良くと思う。個々人が定期的にメールを確認しなければならない状況は答える人が限られてしまう。
- 最初の登録の際に年齢確認すませてほしい。
- 最低限の個人情報だけで年齢確認が済むようになればよいと思う。
- 年齢確認がなくて、誰でも参加できるようになれば良くなると思う。
- 年齢確認の簡略化
- 年齢確認を、「証明書類をメールで送る」以外で可能にして欲しい。
- テーマがわかりやすくする。
- 小学1年生でもわかりやすいはなし。

- いけんひろばの実際の様子を写真で見たり、いけんひろばで話された内容を知る機会があったりしたら嬉しいです
- モザイクありでも良いので会場の雰囲気が分かる写真も添付していただきたい。
- もう少しかしこまっていない雰囲気だとよと思う
- より詳しく、現状どのような人が応募しているのかわかると嬉しいです。大学生という身分では浮いてしまわないか、本当にほしい子どもの意見を自分が代表するか、疑問です。応募者の属性にカスケードが起きてしまいそうですが、本当に僕ら世代の声が必要なら、或いは。
- 子連れでも行きやすければ参加できます。
- 大人になれば行けるのですが、まだ中学生なので行くことが難しいです。
- テーマを決めた話し合い以外に、参加者の交流目的のイベントがあれば、参加のハードルが下がると思う
- もっと簡単に。もっと優しく。もっと楽しく。もっとそばで。
- はい
- 次回から応募する予定です
- まだわかりません。
- わからない
- もう少し勉強が必要
- これから気をつけて見ます
- ・年齢的には対象だが、募集は学生が多いコンサルではなく企画している国側の人の熱意を感じたら応募したくなると思う
- アウトリーチしてほしい
- カルト的な子供の安全への執着を批判し、Colabo 問題、WBPC 問題を解決し、行政が自己批判すること。
- 無駄な経費を使わずに経済的な支援を明白にしてほしい。もしくは泉さんに組織してもらいたい
- こども家庭庁が子供の出生数の増加を政策の指標としてその増加を目指すこと
- 特になし。

Q23. 参加できなかったのはどうしてですか。(複数回答)

(Q6で「ない」&Q19で「ある」を選んだ人のみ回答)



Q23. 「その他」の内容

- 体調不良のため
- 興味があるテーマであっても、平日で仕事のため。

Q24. 「こども若者★いけんぷらす」に対する疑問（ぎもん）や意見があれば教えてください。

(例：テーマ設定（せってい）、日程についてなど)

- 「いけんひろば」の開催日時が学校の授業をやっている平日の明るい時間帯に多く自分の予定と重なったりして参加したくても参加しづらい現状があると思います。だから「いけんひろば」の開催日時を平日でも夜の21時とか土日等の休日にずらした方が良いと考えます。
- なるべく土日祝など社会人が参加しやすいオンラインをつくる
- 夏休みとか長期休みの時が参加しやすい
- 説明会の日程が平日で部活があると参加しにくい
- 全体的に学生や生徒などが参加できる時間にやって欲しい。13:00 からや 15:00 からだと授業があるので参加できない
- 昼前後が都合が付きやすい。
- 土日にして欲しい
- 土日に開催なら参加出来ます
- 土曜の夕方以降で、前泊後泊の料金が出れば。

- 日時を休日にして欲しいのと、具体的な政策を会議で教えてほしい。
- 日程はどのように決まっているのか？平日だったり休日だったり、様々な日があるから。
- 日程は時間はどうやって決めてるんでしょう？
- 日曜日
- 日曜日開催してほしいです。土曜日は学校があったりしてなかなか参加しにくいので休みの日曜日に開催してほしいです。
- 年齢別にしたり長期休暇の間に開催してほしい！
- 部活でなかなかいけんひろばに参加できない事が多いので、日程を増やしたり、午前・午後の部で別ける等していただきたいです
- 平日の夕方であれば、遅めに 8 時開始ぐらいのほうが仕事や部活がある人に参加してもらいやすいと思う。
- 遠方の大学に通学している人や、働いている大人が参加しやすいような遅い時間帯に、意見ひろばを実施するようにしてほしい。
- 毎月 1 回とかいったかんじの予定がわかるといい
- あらかじめアンケートのテーマを月初めなどに教えていただけると、解答内容を考えておけると思いますが
- 案内されてから、テーマに対する回答の締め切りまでが短い時がある。またメールが不定期に届いて情報を見逃しやすい。そのため、案内は毎週月曜日に行い、締め切りを 2 週間後に設定するなど、開始と終了の日程・曜日をある程度決めた方が良くと思う。
- 開催日程のお知らせを年間スケジュールとして全体に共有し、具体的な開催内容や日程は 2,3 ヶ月前くらいに教えてほしい。今まで 2,3 週間前に募集メールが届き、そのタイミングだと予定が既に埋まっていることが多いため、参加を見送っていた。担当者の方達も新事業の手探り状態で忙しいと思うが頑張ってほしい。
- 日程をあらかじめ教えてほしいです
- 今後、どんな会議をいつしようと思っているのかが知りたいです！！
- アプリがあると本当に助かります。
- メールだと積極的に目を通そうという気持ちが湧かない。専用アプリ等でわかりやすく情報を得たい。
- メールは普段あまり使わず、他の迷惑メールに埋もれてしまうので、アプリ等の導入も検討してほしい。
- 学校にも仕事にも行っていない人があまり想定されていないように感じる。(最初の質問でそう思った)病気や障害、性別、国籍など、様々なマイノリティへの配慮も足りないと思う。
- 子育てしている親の意見も聞いたほうが良いと思うが、20 代までという年齢設定の目的がよくわからない。子どもだけにいろいろな意見を聞いても、正直政治に意味があると思えない
- 少なくとも高卒から院卒まで様々な生き方をした方がいるべきだと思います。
- 誕生日がきて、当時決まりだった 20 代がおわってしまった。今後の参加はどうしたらいいか？大人目線で介入できるなら協力はしたい。

- 中学生以下はおそらく本人確認書類を自分で持っておらず、「親にお願いする」という工程があり、そのハードルが高いと思う。成人済みでも「いけんひろばに参加している」ということも参加したいということも親に伝えたくない。具体的な方法は分からないがそのハードルを下げられればいいなと考え続けている。
- ①年齢上限をもう少しだけ上げてほしい。乳児を育ててるアドバンテージ層 30 代前半の、子育て中の切実な意見も聞いて欲しい。②メールが長くて読みづらい。何についてのお知らせか分かりづらい。全年齢向けに分かりやすさを考えてメールを送っているのは評価するけど、文章が長くなりがち。長いと年齢上の層はダルクなる。
- こども若者という括りだと、20 代の方は少し参加しにくくなる気がする。選挙権はもっていても、政治に声が届かないと感じているので、20 代や 30 代の大学院や、働き初めて忙しい世代の声がもっと伝わるような場があると嬉しい
- なぜ「いけんぷらす」に 30 代の子育て世代が参加できないのか、という疑問がある。子どもの生きやすい世界において、子どもだけでなく親が生きやすいことも重要な要素であると思う。まだ意見を言えない幼児の代弁者としても、これからの子ども達がどのような社会で生きてほしいかを伝えるため、30 代の子育て世代の意見を広く聞くべきであると思う。
- 対面のいけんひろばで一回における募集人数を増やしたらいいと思います。
- 対面のほうが意見を言いやすい。土曜日に設定してくださるのは嬉しいです。
- 対面のものももっとあった方がいいと思う
- 対面での地域開催は積極的に行ってほしいです。
- 場所は東京ばかりで行けない
- いつもとおい
- もっと話し合ってみたい。ニュースでこども家庭庁ときくと、反応するようになった
- 全然当たらない
- ・意見広場に参加することはとても楽しいので、もっと回数を増やしてほしいです。・海外にもこども家庭庁のような機関があるなら、外国の子どもたちともオンラインでつなぎ、ディスカッションをしてみたいです。
- ぷらすめんばーの意見を聞くだけでなく、学校や子ども向けの居場所などこども・若者が集まる場所でイベントを開いて意見を募るといった活動もぜひ積極的にやっていただきたいです。
- 学校生活の悩みなどを話し合える場所が欲しい
- 参加して何をするのか分からないため、自分が役に立つのか不安で応募をためらってしまいます。会議の内容が分かるビデオや、流れが分かるページがあると良いと思います。リアル(東京)で参加したいので、募集メールで開催場所が分かるようにしてほしいです。
- 私は障害を持つ子ども近くにいるし、学校にいけてない子もいるから、学校にいけてない子や障害を持つ子どもとお話したい。
- 現在あるのかわからないですが、アンケートの結果（全国の人々の結果）を見ることができる仕組みがあるといいと思います
- 全国の生徒会と連携し、全国の子どもの意見をまとめてください

- 他の省庁と関連した議題を話し合う会があってもよさそう。
- 震災による困難なことについて能登のこどもたちの意見交換会、本当に困っていることなど
- 意見プラス開催にあたって、受験とか近いと塾の先生とかからそういうのに参加するなって言われちゃうから、参加できなかったものも参加できるように、もう一回やるとか、出てきた意見に対して参加していない人たちが意見を加えたりはなしてみたりとかなにかしらの仕組みがあると嬉しい
- Instagram など若い世代がよく活用している SNS での発信をもう少し増やしても良いのではないかなと思いました。
- SNS をもっと活用した方がいいと思う
- もっと周知活動を行って行く必要があると思う。誰でも気軽に参加できるようになれば意見の数も増えると思う。学校などで、活用していくことも一つの選択肢だと思う。
- メンバーを増やすために、学校にチラシを配って、みんなに知ってもらったらいいとおもう
- もっと Youtube 等でやってるところ広めたらいいのではないかな？ 議員とかも視察に来て生の意見をきいた方がいいのでは？ 事前勉強会と当日で 2 日用意するのが困難なぜ zoom 出ないの？
- チャット形式に関しては、論点を広げすぎないようにしてもらいたい。
- メール上ではテーマについての意見を募集、というあいまいな表現をしている一方で、アンケート上になると質問の種類が少なく、自由な意見を出しにくく感じるので、自由回答欄を分かりやすく作るなどしてほしい。
- 一部の声の大きい人ではなく、意見を発しにくい立場や状況にいる人の声を拾い上げる努力、工夫してほしい
- 子供・若者の意見だけではどうにも解決できない子供の問題は確実にあるので、その点の考慮してほしい。
- 先生みたいに聞き出してくれると聞きやすいと思います。
- 前述しましたが、アンケートを増やしてほしいです。私は社交不安症で、話すのもチャットも怖いので、アンケートなら参加しやすいと思います。
- こども家庭庁が担当省庁としておこなう「こども若者★いけんぶらす」には、フィードバック資料などがあって、最終的にどうなったかを知ることができるが、別の省庁が担当省庁としておこなう「こども若者★いけんぶらす」は、意見を聞くだけという特性上仕方ないかもしれないが、フィードバックがないので、できることならそのようなものがあると嬉しい。今さらながら、ファシリテーターが何者なのかが分からない。小学生とかには意味が分からないと思うので、もう少し噛み砕いた表現だと嬉しい。対面オンライン問わず、せっかく全国からこどもが集まっているのだから、ファシリテーターのみならず、こども家庭庁の職員さんもグループに加わって、みんなでワイワイやったほうが、結果的には中身の濃い議論になるんじゃないかなと思った。(あくまで自分は、おとながいたとしても意見はしっかり出せる)
- アンケートのテーマや内容が難しい
- テーマ設定
- テーマ設定がもっと積極的に わかりやすいようにしてほしい。
- より広汎なテーマについて聞いて欲しい

- 外見からは分からない障害者をテーマにして欲しい！
- 社会的養護や離婚後の親権のことなど、子どもにとって逆境的体験になりうる事象について取り上げてほしい。
- 動植物(生物多様性など) や博物館発達障害のテーマ
- 発達障害のある子の支援のあり方について
- 障害者に対する内容が少ない。
- 社会問題(ニュースや話題になっているようなもの)についての話し合いが少ない
- もっといじめをしっかりと取り上げてほしい。子どもは本当に苦しんでいます。
- 妹がイジメられていたので、イジメやインクルーシブについて話をしてみたい。
- 子どもの多様性に合わせた遊び場をつくることについて
- 教職員の人数増加計画
- 学校での学習をよりよくする方法
- テーマ設定で、外交とか税金とか特定の政党が勝手に決めた国民、未来を生きる子どもたちを苦しめる政策について意見を聞いて反映するべき。政党への投票など意見をいうだけではなく選挙結果にも意見を反映すべき。子どもたちは特定の政党の政策に反対の人も多いのに勝手に決められると困る
- 緊急事態条項の追加に関する意見、性教育（性行為は取り扱わない方針とすることなど）について中高生を対象としたアンケート、マイナンバーカードへの信頼に関してなど、国会で議論されるテーマについて意見募集を積極的にすべきだと思う。投票だけでなく、パブコメの提出など政治参加の方法がいくらでもあり、意見を表明する訓練の場として機能するように努めていただきたい。民主主義を支える市民を育ててほしい。
- 真っ先に行うべき大事なテーマ(年少扶養控除、障害児の家庭含む所得制限、その他子育て世帯の税負担)があり、世論からも多数声が上がっているのに取り扱おうとしないのはなぜですか？X(Twitter)などの SNS の反応はきちんとみていますか？もっと SNS を活用して活発な意見交換をした方が良いと考えます。
- 正直、テーマ、アンケートに答えてもこども、若者向けの政策に反映されているかがわからない。直接関係無いテーマも多いと思う。LGBTQ+、子供、大人の発達障害、低用量ピルのドラッグストアでの販売、包括的性教育、ブラック校則などについても意見を募ってほしい。最近、児童手当の増額、保育士の無償化、大学費の無償化がされると聞いたが、子育て世代、とりわけ正規雇用の人間にはメリットはあるかもしれないが、若者世代の政策、減税や定額手当、補助金、奨学金の返済免除などはないに等しい。結婚をしているかつ、子供を作る世帯には優しいのに独身、子供を産まない若者に対して差があり、冷たいと感じた。上の世代は若者に子供を求めすぎだと思う。実際は経済的事情、性的志向、仕事と育児と家事の分担や、ワークライフバランスなどの事情で未婚、子供を作らない選択をする若者も多い。若者の実像を捉えていないと感じる。
- テーマ設定について提案できるようにしてほしいです。また、学校生活でもっと身近な設定にしてほしいです。
- テーマ設定の基準や、今後の開催予定テーマが分かると嬉しい

- テーマ設定を子どもから募ってほしい。
- テーマ募集のアンケートフォームは期限なしにずっと開いていた方が良いと思う。思い付いた時に意見できたらより活発になるのではないかと。
- テーマの募集についてはしないのか。対面・オンライン等の参加者の決定方法はどうなっているのか。
- テーマは子どもも決められるのか、実際に省庁内でどのように提言書が扱われているのか
- ぶらすメンバーが出したテーマについて話したい
- 以前にあった「このテーマでいけんひろばを開催してほしい」というアンケートは、定期的に行うといいと思う
- 採用するかしないかは別ですし、テーマは常に公募しててもいいんじゃないかなあとと思います。いけんぶらすの認知度が低いので、もっとまめに発信して広報に力を入れたら増えるんじゃないかなと思います。
- 色々な省庁からのお願いで意見を聞くだけでなく、こども若者自信が意見を言いたいと思っているテーマをもっと扱って欲しい
- フリーテーマで意見を募集するなどして、こども家庭庁の皆さんには無かった視点を取り入れ、この国を良くしていこうとしていただきたい。また、こどもは、おとな（親）を救うためなど、使命があるから生まれてきて、今生きていることを知っていただきたい。
- こども家庭庁から送られてくるアンケートなど以外にも、何か困ったことや、子ども政策について個人的な要望がある人のために、いつでもそうした意見を表明できる場を設けてみてはどうでしょうか。
- ・送られるアンケートに自由回答の場が少なく、質問項目に不足・不満があった時に書く場所がない・メールのみの管理だとアンケートや実施案内に確認漏れがあるので、専用ウェブサイトもしくは現在受付中のものについてメールにリストを乗せてほしい・子ども家庭庁の活動や政府方針について、ニュース等で疑問に感じる事が多々あるが、それをリアルタイムにテーマ設定として提案できるような環境があれば嬉しい
- まだ「こども若者★いけんぶらす」がよくわかっていないが、常時要望などができるものがあるといいと思う。ご意見・ご要望フォーム (<https://www.cfa.go.jp/contact/>) もあるが、一定のハードルはあるように感じる。
- どのような人たちがやっているのか
- どのように意見が反映されているのか
- どんなことが話し合われたのか、落選すると内容すら共有されない
- メールで送られてきた内容に答えるのが、こども若者いけんプラスでやれることなのでしょうか？またそれがどう活用されているのか知りたい時もあります
- アンケート結果はどうしていますか
- アンケートの回答内容がどのように反映されているのか、プロセスを見たい。
- アンケートや意見を基に、実際にどう活動していくのかを知りたい。国だけでなく、国から実際に地方にいる人へこういう意見があった、こういう活動をしてみませんか？と働きかけるようなことがあれば良いと思う。

- こどものことを考えてくれるの嬉しいです！ありがとうございます。でも、案や意見を言って、国で成立して、地方の末端の学校にまで下りてくるのってどれくらい時間がかかるのかなあと思います。
- みんなの意見を聞いたあと、どのくらいしんげんに対応してるのかわからない。意見を実現する専用の責任者が責任をもって対応してほしい。
- 実際にどのような政策にアンケートや会議が活かされる予定かももう少し詳しく書いてあると、回答しやすいと感じます。委託事業のため難しいとは思いますが「〇〇を守るために△するという社会のルールづくりのため」などやわらかくわかりやすい言葉で言い換えられてあると、小学生でも考えて回答することがしやすくなるのではないかと考えます。
- こども家庭庁が話題にあがることなく、この私達の意見を募る方法もどれくらい大人の考えに影響を与えられているのかが分からないのが少し不安。ただ、意見を募って下さっている方々に感謝したい。
- 各テーマの省庁の担当者が配置換え等でいけんひろばで出た意見やノウハウが消えることを懸念しています。これは議事録を残すだけでは駄目で、定期的に同じテーマだったり同じ系統の内容で議論を行い、担当者の方に当事者として生の意見に触れた上で理解を深めたり、引継ぎに活かして貰うことが重要です。
- いけんぷらすには、どのくらいの数の声が集まっているのでしょうか。
- 会員数とその分布について（年齢、性別等）
- 子供意見プラスは子供の意見を汲み取るために設置されたものであると承知しております。しかし、その目的はどのくらい達成されているのでしょうか？もしあまり達成されていないようでしたら別の方法を考え、改善するべきだと思います。参加者の出身都道府県の比率や、日本全体の若者に対する参加割合などを考えた時に、果たして現状が最善だと考えることができるのか、もしそう考えられない場合はどのような策を講じておりその成果は如何程のものなのか、教えて欲しいです。
- 小学生や日本語に不安のある方でも読める配慮が感じられますが、日本語に不自由がない中高校生以上はカナ混じりの文章だと読みづらいのではないかと考えています・そもそもオンラインとか対面に出向けるのは比較的恵まれてる方なので・今回のメールの文面フリガナの入れ方が滅茶苦茶読みにくい。地震にルビ打って能登半島がそのまま理由が素人目には分らん、漢字を開くか参加者の希望や年齢を考慮して「漢字版」「やさしい日本語版」で文面変えて欲しい(イキって漢字版希望したけど読めなかったりした場合の為に併記や別版の文面リンクは付けて欲しい)
- 漢字を減らしてひらがなをつかうなどして小学生も「読める」ようにはしているが、「理解できる」ような書き方や伝え方になっていない。10歳の子供がいる職員がいれば、その子供に「意味分かる？」と聞いてみてほしい。「綱領」を「こうよう」と開いても小学生にその言葉は難しい。
- 参加者の意見をまとめているのはすごくわかるし、ありがたいのだがこれって見てもらう、周知するためには最初の第一印象が大切だと思う。それは、パッと見で見やすいか、分かりやすいか、理解できるかで読むか読まないか、またはあとで見ると決めるか(いつの間にか忘れて見ない)に繋がるためだ。なので、意見を集約した文書はもっと分かりやすくするべきだと思う。無料で使える WEB ソフトもあるので改善してもらいたい。せっかくいいものを作ったとて成果を得られなければ意味がなくも

っていないので。

- 所々、違和感を感じる表記がある。例:特定の性別の人を集めるために、一々議題?を募集するメールにその旨を記載している点。
- いけんプラスで話題になった記憶のない「子育て世帯へのリフォーム支援」等の政策は次々決定されるのに、子供の扶養控除を復活増額して欲しいという意見を出しても政策に反映されてない。不信感がある。利権優先はやめて国民の意見を聞いて欲しい。
- いじめ問題に向き合って対応をお願いいたします。
- ゲームでポイントを貯めて、例えば〇〇ポイント集まった人が首相に直接意見を言ったのは実現しそうですか？
- こども若者いけんぷらすは、特にこれから、文部科学省との連携は強化や学校のルール等の見直し啓発や、特に改革の優先度の高い物は、全て全国の小中高等学校で、私服化(自由な服装・軽装服装を含めて、また、私服を装った迂回的制服ルール原則禁止)の100%化をご検討して欲しい所存です。その上で、今後とも、こども若者いけんぷらすの取り組みも充実して欲しいです。
- この政策が人口減少や子供の自殺の増加などの喫緊の社会問題に向き合う気が感じられない。こども家庭庁の他の政策も税金の中抜きで利益を得るための政策ばかりなので、国民の利益に繋がることを行って欲しい
- なぜ、低所得者とそうでない人で支援が分かれますか。なぜ、3人兄弟の3人目は上が成長すると第一子となりますか。歳が離れていると、ずっと第一子です。大学無償化など大人がルールを決めるのではなく、子どもにも意見させてほしい。
- 詰め込み教育に不満があります。自分らしく自分のペースで学ばせて欲しい。
- 本当に役に立つと思ってやっているなら見直して欲しい。また、某団体により海外に消えた子供たちの行方をきちんと追って欲しい。とにかく信用できない。
- もっと簡単に教えてほしい
- 前問回答のとおりです。
- 子ども家庭庁について設立には様々な意見があったが、その設立と存続を正当化するための意見聴取になっていないかは我々には分からない。
- 本事業の委託事業者にどれくらい税金が中抜きされているのか疑問に思う
- 毎年名前が変わっていることと、今年度特に★とか付いてださくないですか？いけんぷらすって、ひらがなにするのも親しみやすさは大切ですがなんかズレてるな感じました。
- こども若者★いけんぷらす自体行政のオナニーで、公金チューチューの口実。私達は児ポ法なんて欲していないし、淫行条例も欲していないし、性的同意年齢の引き上げも欲していません。AV新法も要りません。ホスト新法もイラン。こども家庭庁、東京都、厚生労働省諸々の省庁は公金チューチューをやめろ。
- どうしてお前らは被虐待児を少しも救えないのですか？お前らの仕事が税金を無駄遣いしている自覚はあるのですか？被虐待児に「いけんぷらす」へ意見を送れる環境が整っているとでも思っているのですか？

- まだまだ、子ども家庭庁を知らない大人、子どもが多すぎる。僕は、自身の母が子どもアドボケイトとして、子ども家庭庁が発足する事を知っていたので、そういう子ども達の意見をきちんと聞いてほしい。しかし、僕が住む所は、児童相談所にしか、アドボケイトとして、母も入っていきたくないの
で、母は、いじめや、少しやんちゃな子ども達に真剣に話を聞き、夢を見つける為に個人的にしているの
で、僕達の話を中心に聞いてくれる居場所づくりをしてもらいたい。と考えてくれている母です。今
までも、何人も話を聞いたりしてきました。母の思いが、実現出来れば、揉め事や、いじめもなくな
るとおもいます。どうか、居場所づくりが出来るようにしてもらいたいです。これは、僕を含め、周
りの子ども達が望んでいる事です。力を貸してください。本当にお願ひします。
- 質問内容やお題の殆どが 20 代以上のメンバーが回答することを想定していない。にも関わらず
身分証の提示が必須で子供が参加しにくい（これは参加人数の少なさにも表れている）。一体誰
のための制度なのか？結局若者の意見を聞くというパフォーマンスに終始しているだけで何の意
味もない。対象が 6 歳から 30 歳と広すぎることも、まともに話を聞く気が無いことの証左である。
税金の無駄でしかないの、来年度はこんな下らない事業は廃止して、その予算を児童相談所
や保育所の増員増設や待遇改善、結婚や子育て支援等本当に必要なことに割くべきである。
- こども家庭庁の HP が新しくなり、ワクワクした。沢山ある他の省庁も分かりやすく身近に感じられ
た。こども基本法のクイズ動画についてのいけんひろばに参加した際、感想の中で「こども家庭庁
の動画だと言うと誰も見てくれないのではないか」と書いてしまった事を後悔している。すみません
でした。友達に楽しい HP があると広めている。これからも学びの扉と思い参加していきたい。
- 疑問や意見ではないですが、行っていることの理念がとても素晴らしいと思うので応援したいと思
いメンバー登録しました！多くの人にメンバーになってもらった方が良くと思うので、友達も誘って
みます！
- 政治は有権者（18 歳以上）の意見しか反映されない側面がありますが、こうして未成年者か
ら意見を集める機会を設ける姿勢はとても素敵だと思います。これからも続けていていただ
ければ幸いです。
- ない（4 件）
- わからないけどいい
- わかんない
- 大丈夫です
- 特になし（9 件）

令和5年度こども家庭庁委託事業

「こども・若者意見反映推進事業」に係る
事業運営及び分析・調査等事業

令和6年3月

PwCコンサルティング合同会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One タワー

TEL : 03-6257-0700 (代表)